佐賀県文化財調査報告書　第117集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書　11

１９９３年３月

佐賀県教育委員会

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　11

１９９３年３月

佐賀県教育委員会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の実施に先立ち、埋蔵文化財の確認調査を行なった結果についてまとめたものです。

県教育委員会では、文化財の保護と農業生産基盤の整備事業との調整を図るため、事業実施に先立って確認調査を行い、その結果に基づいて文化財の保護行政を進めております。

平成3年度につきましても関係各位のご協力のもとに、事業計画予定地内における埋蔵文化財の存否について確認調査を行なったところ、縄文時代から近世に至る多くの遺跡の存在が確認されました。この調査結果を踏まえ、県及び関係市町村の農林担当部局との間で文化財の保護と農業基盤整備事業との調和について協議し、関係各位の御努力によって多くの遺跡を後世に伝えるとともに発掘調査による記録保存が可能になりました。

また、同時掲載しております発掘調査の記述については、平成2年度に実施した確認調査によってその所在を確認した遺跡のうち、基盤整備の設計変更等による文化財の保護措置を尽くした結果、最終的に平成3年度において発掘調査に至ったものの概要報告であり、その調査成果の一端を紹介するものです。

調査にあたって、文化庁・県農林担当部局・関係市町村の教育委員会・土地改良担当課並びに地元の皆様から賜った深い御理解とご協力に対し、心からお礼申し上げます。

平成5年3月31日

佐賀県教育委員会
教育長　堤　　清行

例　　言

1．本書は国庫補助を受け、平成３年度及び翌４年度に施工計画の佐賀県農業基盤整備事業に先行して、平成３年度に実施した確認調査並びに発掘調査の成果をまとめたものである。
2．確認調査は関係市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が実施した。
3．遺構の実測及び写真撮影は各調査員が行った。
4．遺物の整理・実測・製図・報告書作成作業は佐賀県教育委員会文化財課で行った。
　図面・写真のレイアウト、トレース
　三好文子・上瀧光子・江島美恵子・山口美佐子
5．本書の執筆はⅠ・Ⅱ・Ⅴを森田が行い、Ⅲ・Ⅳについては、各調査担当者より提出された「確認調査結果報告書」並びに「発掘調査実績報告書」を引用し、一部加筆した。なお各調査担当者には必要に応じてご教示をいただいた。
6．本書の編集は、森田が担当した。

凡　　例

1．用いた方位は地図が座標北、遺構図は磁北である。
2．挿図中の記号で、■は遺構・遺物包含層が検出された試掘溝（坑）
　□は遺構・遺物包含層が検出されなかった試掘溝（坑）を示す。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
1．平成３年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査 …… 1
農業基盤整備事業施行計画に係る協議 …… 1
（１）設計協議 …… 1
（２）文化財確認調査 …… 1
（３）農業基盤整備事業と文化財保護に係る協議 …… 2
Ⅱ．調査組織 …… 9
Ⅲ．平成３年度文化財確認調査の内容 …… 11
1．佐賀東部地区における調査 …… 12
（１）鳥栖市 …… 13
（２）中原町 …… 20
（３）三根町 …… 25
（４）上峰町 …… 26
（５）神埼町 …… 28
（６）千代田町 …… 30
2．佐賀西部地区における調査 …… 32
（７）佐賀市 …… 33
（８）川副町 …… 53
（９）多久市 …… 55
（10）富士町 …… 55
3．佐賀南部地区における調査 …… 56
（11）武雄市 …… 57
（12）大町町 …… 59
4．佐賀北部地区における調査 …… 61
（13）伊万里市 …… 62
（14）西有田町 …… 64
5．佐賀上場地区における調査 …… 65
（15）唐津市 …… 66
（16）鎮西町 …… 68
（17）玄海町 …… 70
（18）肥前町 …… 72

Ⅳ. 平成３年度発掘調査の概要 ……73
〈佐賀東部地区における調査〉
1．山田遺跡 …… 74
2．牛原前田遺跡 …… 76
3．高柳大塚古墳 …… 78
4．捨徳遺跡 …… 80
5．土井外Ａ遺跡・土井外Ｂ遺跡 …… 82
6．八藤遺跡 …… 84
7．上石動遺跡 …… 86
8．塚原遺跡 …… 88
9．小林遺跡Ⅰ～Ⅴ区 …… 90
10. 祇園原遺跡Ⅰ・Ⅱ区 …… 92
11. 野畠遺跡 …… 94
12. 轡田遺跡Ⅰ・Ⅱ区 …… 96
13. 馬郡遺跡 …… 98
〈佐賀西部地区における調査〉
14. 宿野遺跡 …… 100
15. 篠木野遺跡 …… 102
16. 琵琶原遺跡 …… 104
17. 大野原遺跡 …… 106
18. 千布二本黒木遺跡 …… 108
19. 牟田寄遺跡 …… 110
20. 観音遺跡 …… 112
21. 高木川内遺跡 …… 114
22. 上早一本松遺跡 …… 116
〈佐賀南部地区における調査〉
23. 遠ノ江一本松籠遺跡 …… 120
24. 妻山遺跡 …… 122
〈筑後川下流用水事業に係る調査〉
25. 坊所三本松遺跡 …… 124
Ⅴ．総　　括 …… 126

挿　図　目　次

図１　平成３年度農業基盤整備事業に伴う文化財調査地区位置図 …… 折り込み
図２　佐賀東部地区周辺地形図……12
図３　鳥栖市鳥栖北部（牛原）地区試掘坑設定図……17
図４　〃　鳥栖北部（山浦）地区試掘坑設定図……18
図５　〃　鳥栖西部（立石）地区試掘坑設定図……19
図６　中原町中原北部（山田）地区試掘坑設定図……21
図７　〃　中原北部（養原）地区試掘坑設定図……23
図８　上峰町上峰北部地区試掘坑設定図……27
図９　神埼町横武地区試掘坑設定図……29
図10　千代田町鯵江襖地区試掘坑設定図……31
図11　佐賀西部地区周辺地形図……32
図12　佐賀市久保泉東部地区試掘坑設定図……36
図13　〃　久保泉西部地区試掘坑設定図……37
図14　〃　久保泉南部地区試掘坑設定図……38
図15　〃　金立南部地区試掘坑設定図……40
図16　〃　金立南部地区試掘坑設定図……41
図17　〃　金立北部地区試掘坑設定図……43
図18　〃　北川副地区試掘坑設定図……47
図19　〃　兵庫南部地区試掘坑設定図……49
図20　〃　兵庫南部地区試掘坑設定図……50
図21　〃　江頭地区試掘坑設定図……52
図22　川副町川副中部地区試掘坑設定図……54
図23　佐賀南部地区周辺地形図……56
図24　武雄市黒牟田地区試掘坑設定図……58
図25　大町町神山地区試掘坑設定図……60
図26　佐賀北部地区周辺地形図……61
図27　佐賀上場地区周辺地形図……65
図28　鎮西町打上地区試掘坑設定図……71
図29　玄海町大島地区試掘坑設定図……71
図30　山田遺跡周辺地形図……74
図31　①山田遺跡、Ａ号墳石室全景　②Ａ号墳石室（前室方向より）
　③Ａ号墳石室（後室より前室）　④Ａ号墳後室遺物出土状況
　⑤Ｂ号墳石室全景（１）　⑥Ｂ号墳石室全景（２）　⑦Ｂ号墳石室（後室より前室）
　⑧Ｂ号墳前室遺物出土状況
図32　牛原前田遺跡周辺地形図……76
図33　①牛原前田遺跡Ａ区全景　②第５号墳　③第１～第４号墳

④B－1区遠景　⑤B－1区近景　⑥B－1区近景
図34　高柳大塚遺跡周辺地形図……78
図35　①高柳大塚古墳全景　②全景調査区全景（南から）　③東側周溝　④西側周溝
⑤石室入口　⑥石室（玄室）
図36　拾徳遺跡周辺地形図……80
図37　①拾徳遺跡北西部（上空より）②調査区北東部（上空より）③調査区中央部（上空より）
④調査区南西部（上空より）　⑤調査区南東部（上空より）　⑥掘立柱建物跡
図38　土井外A遺跡、土井外B遺跡周辺地形図……82
図39　①土井外A遺跡全景(南から)　②SE127・SE128　③SE124
④土井外B遺跡全景(西から)
図40　八藤遺跡周辺地形図……84
図41　①道路状遺構　②道路状遺構北部の建物群　③道路状遺構南部の建物群　④火葬墓
図42　上石動遺跡周辺地形図……86
図43　①上石動遺跡全景　②古墳全景　③古墳石室全景
図44　塚原遺跡周辺地形図……88
図45　①塚原遺跡3区全景　②4区全景　③3区全景　④3区道路跡
図46　小林遺跡Ⅰ～Ⅴ区周辺地形図……90
図47　①小林遺跡Ⅰ・Ⅱ区全景　②Ⅲ区全景　③Ⅳ区全景　④Ⅴ区全景
図48　祇園原遺跡Ⅰ・Ⅱ区周辺地形図……92
図49　①祇園原遺跡Ⅰ区全景　②Ⅱ区全景　③竪穴住居跡　④円形周溝遺構
図50　野畠遺跡周辺地形図……94
図51　①野畠遺跡より西方官道路線遠景(東より)　②野畠遺跡全景　③官道路線全景
図52　轡田遺跡Ⅰ・Ⅱ区周辺地形図……96
図53　①轡田遺跡調査地全景　②Ⅰ区全景　③Ⅱ区全景
図54　馬郡遺跡周辺地形図……98
図55　①馬郡遺跡全景　②溝跡　③土壙
図56　宿野遺跡周辺地形図……100
図57　①宿野遺跡3区SP304土壙　②3区SP304土壙遺物出土状況
③4区SK404土壙、SD402・403溝　④4区SD401堀
⑤4区SD604溝
図58　篠木野遺跡周辺地形図……102
図59　①篠木野遺跡5区全景　②2区SK041　③4区SJ101　④5区SE001
図60　琵琶原遺跡周辺地形図……104
図61　①琵琶原遺跡2区全景　②2区SK003土壙　③2区SK003土壙　④3区全景
図62　大野原遺跡周辺地形図……106
図63　①大野原遺跡2区全景　②2区円形住居　③2区方形住居　④周溝を巡らす住居
⑤焼失住居

図64　千布二本黒木遺跡周辺地形図 ……108
図65　①千布二本黒木遺跡　２区全景　②４区井戸　③４区全景
図66　牟田寄遺跡周辺地形図 ……110
図67　①柱穴群　②柱穴　③柱穴　④遺物出土状況
図68　観音遺跡周辺地形図 ……112
図69　①観音遺跡調査区全景　②ＳＥ００５井戸　③ＳＫ００７土壙
図70　高木川内遺跡周辺地形図 ……114
図71　①高木川内遺跡全景　②ＳＫ２０６土壙（南から）　③６号掘立柱建物跡（南から）
④３号掘立柱建物跡
図72　上早一本松遺跡周辺地形図 ……116
図73　Ａ地区遺構配置図
図74　Ｂ地区遺構配置図 ……117
図75　上早一本松遺跡出土遺物実測図 ……118
図76　①Ａ地区全景　②Ａ地区全景　③ＳＤ００１溝跡(西から)　④ＳＤ００２溝跡(北から)
⑤Ｂ地区ＳＥ００９井戸跡　⑥ＳＫ０１２土壙(東から)　⑦ＳＫ０１２土壙出土土器
⑧出土陶磁器
図77　遠ノ江一本松遺跡周辺地形図 ……120
図78　①調査地区全景（東から）　②ＳＰ０１土壙墓（南から）
③ＳＰ０１人骨出土状況（南から）　④ＳＰ０１墓壙底部（南から）
⑤ＳＰ０２土壙墓（南から）　⑥ＳＰ０２人骨出土状況（南から）
⑦ＳＰ０２墓壙底部（南から）
図79　妻山遺跡周辺地形図 ……122
図80　①妻山遺跡全景（空中写真）　②ＳＫ０２９（南から）　③ＳＫ０３６（西から）
④ＳＫ０３７（北から）　⑤ＳＤ００１旧河道（南から）
図81　坊所三本松遺跡周辺地形図 ……124
図82　①坊所三本松遺跡全景（東から）　②竪穴住居跡群（南から）
③ＳＨ０１４竪穴住居跡（南から）　④ＳＪ０４１甕棺墓　⑤ＳＸ０１８円形周溝

表　目　次

表　１　　農業基盤整備事業施工予定地区文化財確認調査一覧表（平成３年度実施）
表　２　　農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表（平成３年度実施）

Ⅰ．調査に至る経過

１．平成４年度施行予定の農業基盤整備事業計画に伴う文化財確認調査

（１）農業基盤整備事業施行計画に係る協議

本県においては、県農林部所管及び市町村所管の農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護については、県農林部と県教育委員会との間で確認した『農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項』（昭和53年締結、昭和59年改正）に基づき、協議調整を行っている。

平成３年度農業基盤整備事業施行計画については、平成３年９月下旬に農地整備課・農業振興課・建設鉱害課から施行予定地の図面を添え、文化財課に協議があった。

この施行計画に係る埋蔵文化財確認調査の対象面積は合計885.7haに達した。地区別で見ると、佐賀東部地区（鳥栖市・中原町・三根町・上峰町・神崎町・千代田町・背振村・三瀬村）288.5ha、佐賀西部地区（佐賀市・多久市・川副町・小城町・富士町）409.6ha、佐賀南部地区（武雄市・山内町・大町町・江北町・福富町）40.3ha、佐賀北部地区（伊万里市・西有田町・相知町・厳木町・七山村）96.1ha、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・玄海町・肥前町）51.2haである。関係する農業基盤整備事業として、県営圃場整備事業・干拓地等農地整備事業・県営土地改良総合整備事業・団体営圃場整備事業・団体営土地改良総合整備事業をはじめ、農業構造改善事業・山村振興農林漁業対策事業・農業整備事業・農地等鉱害復旧事業・民有林林道開設事業など多岐にわたっている。

また九州農政局所管の、国営上場水利事業に伴う文化財の取り扱いに関する協議（唐津市・鎮西町・玄海町・肥前町）、水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業に伴う文化財協議（上峰町）もなされた。

（２）文化財確認調査

協議を受けた事業計画地区（工区）の設計図に関して、まず工区内に周知の文化財が存在しているかどうかを遺跡地図等によって確認するとともに、関係市町村の文化財担当専門職員から埋蔵文化財に関する情報の収集を行うほか、遺跡が立地し得る自然条件にあるかどうかといった点も含めて、事前の検討作業を行った。

そして、各事業計画地区について、関係市町村教育委員会の文化財担当職員とともに現地踏査を実施して検討を重ね、その資料を基に確認調査が必要な地区・地点（表１）を決定した。

確認調査の実施にあたり、関係市町村の教育委員会・土地改良担当課・及び県農林部の関係諸課・各農林事務所との『平成４年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会』（第１回）を、県教育委員会の主催により上場地区については10月15日、下場地区については10月17日にそれぞれ開催した。協議会においては全体協議の後、市町村毎に関係者による個別協議の場を設け、事業計画の概要説明、現地踏査等の検討結果の報告、確認調査の円滑な実施

等に当たっての打ち合わせを行った。

文化財確認調査は、上場地方及び西松浦郡等の稲刈りが早く終了する市町村では10月下旬から開始し、その他の市町村でも麦の種蒔き時期との関係で、11月中旬までには実施した。確認調査には、原則として２ｍ×２ｍの試掘溝（トレンチ）を20m間隔に基盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、分布範囲等を調査する方法を採用した。

（３）農業基盤整備事業と文化財保護に係る協議

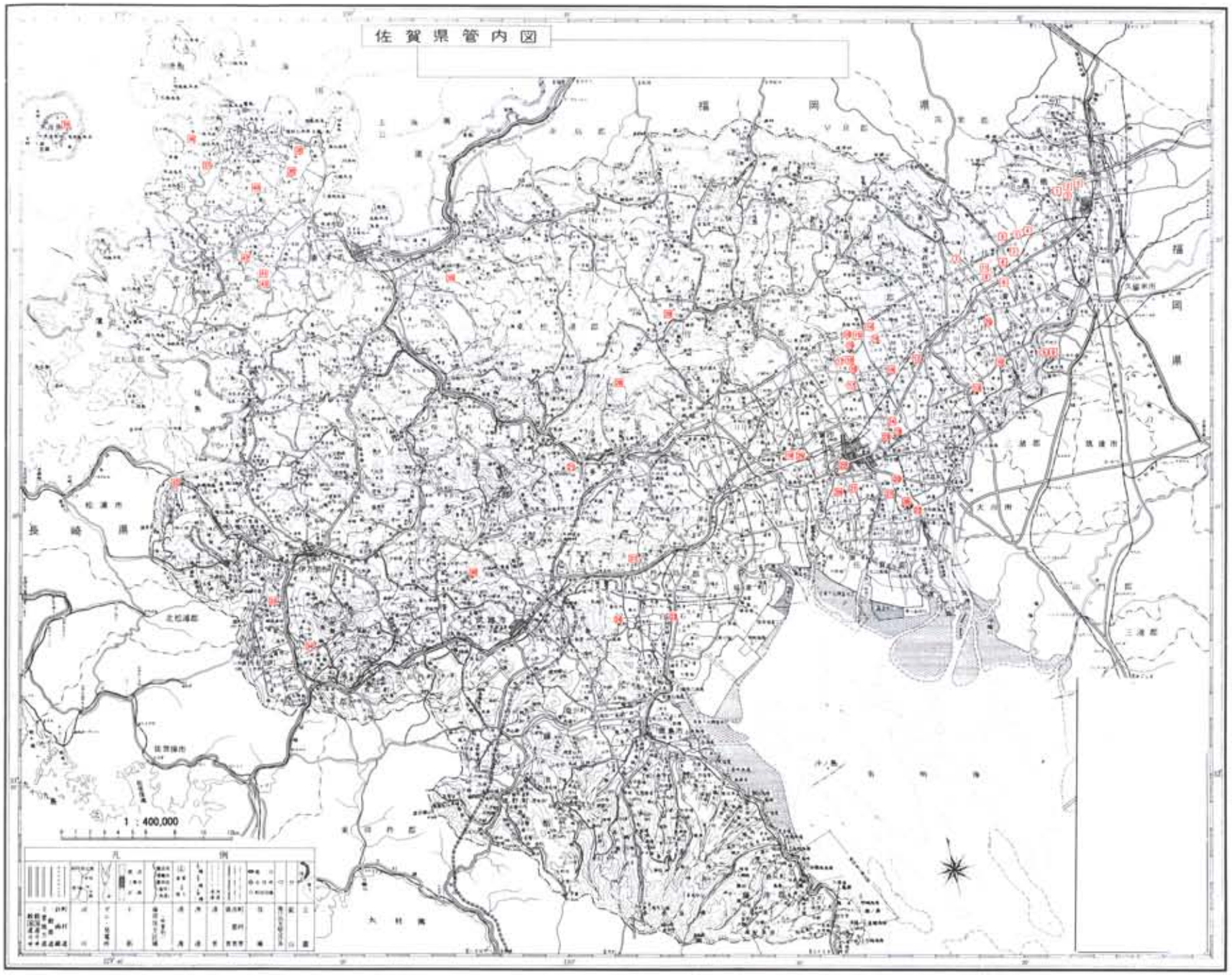
調査によって事業計画地（工区）内で確認された遺跡は、佐賀東部地区300,500㎡、佐賀西部地区166,383㎡、佐賀南部地区7,300㎡、佐賀北部地区０㎡、佐賀上場地区4,110㎡の合計478,293㎡である。

この確認調査の結果のもとに、関係市町村教育委員会が主体となって個別協議を実施し、基盤整備工事が遺跡に影響を及ぼす地点については、水路位置の変更・盛土による田高面の嵩上げ、圃場の区画変更等の設計変更を中心に、技術的・経済的に可能な保存方法を検討し、事業計画と文化財保護に関する調整を図った。この間、農林側には数度にわたる設計変更に関して積極的に対処していただいた。

このような個別協議を経て、12月20日に第２回目の『農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会』を開催し、平成４年度の事業計画と文化財保護との最終的な調整を行った。

この結果、遺跡の存在が確認された地区の大部分については盛土工法等の採用による遺跡の現状保存が可能となり、一方工法上保護措置が困難な地区（77,633㎡）については平成４年度に発掘調査を実施して記録保存を行うことになった。

また平成３年度に関係市町村教育委員会が実施した発掘調査（表２）は、平成２年度に確認調査を実施し、農業基盤整備事業担当部局との協議を経た結果、記録保存で対応することになったものの一覧である。



	確認調査地区		発掘調査地区	
佐賀東部地区	1 鳥栖北部・2工区	（鳥栖市）	1．山田遺跡	（鳥栖市）
	2 〃・牛原・前田	（〃）	2．牛原前田遺跡	（〃）
	3 〃・山浦	（〃）	3．高柳大塚古墳	（中原町）
	4 鳥栖西部・立石	（〃）	4．拾徳遺跡	（〃）
	5 中原北部・山田	（中原町）	5．土井外遺跡	（三根町）
	6 〃・原古賀	（〃）	6．八藤遺跡	（上峰町）
	7 〃・簀原	（〃）	7．上石動遺跡	（東脊振村）
	8 中原南部・原古賀	（〃）	8．塚原遺跡	（神埼町）
	9 大善寺北部	（三根町）	9．小林遺跡	（〃）
	10 三田川線・三根	（〃）	10．祇園原遺跡	（〃）
	11 上峰北部	（上峰町）	11．野畠遺跡	（〃）
	12 横岳	（神埼町）	12．轡田遺跡	（〃）
	13 千代田	（千代田町）	13．馬郡遺跡	（〃）
佐賀西部地区	14 久保泉東部	（佐賀市）	14．宿野遺跡	（佐賀市）
	15 久保泉西部	（〃）	15．篠木野遺跡	（〃）
	16 久保泉南部	（〃）	16．琵琶原遺跡	（〃）
	17 金立南部	（〃）	17．大野原遺跡	（〃）
	18 金立北部	（〃）	18．千布二本黒木遺跡	（〃）
	19 嘉瀬	（〃）	19．牟田寄遺跡	（〃）
	20 城西第1	（〃）	20．観音遺跡	（〃）
	21 城西第2	（〃）	21．高木川内遺跡	（多久市）
	22 北川副	（〃）	22．上早一本松遺跡	（川副町）
	23 巨勢	（〃）		
	24 兵庫南部	（〃）		
	25 江頭	（〃）		
	26 川副中部	（川副町）		
	27 川副北部	（〃）		
	28 山頭	（多久市）		
	29 萱木	（富士町）		
佐賀南部地区	30 黒牟田	（武雄市）	23．遠江一本松籠遺跡	（白石町）
	31 神山	（大町町）	24．妻山遺跡	（白石町）
佐賀北部地区	32 牧ノ地・立岩	（伊万里市）		
	33 中里	（〃）		
	34 立部	（西有田町）		
佐賀上場地区	35 鏡山	（唐津市）		
	36 湊	（〃）		
	37 赤玉毛1区	（鎮西町）		
	38 麦原	（〃）		
	39 野中	（〃）		
	40 打上	（〃）		
	41 大島	（玄海町）		
	42 牟形	（〃）		
	43 嘉藤	（肥前町）		
筑後川下流用水			25．坊所三本松遺跡	（上峰町）

図　1　　平成3年度　農業基盤整備事業に伴う文化財調査地区位置図

表１　農業基盤整備事業施行予定地区内文化財確認調査一覧表（平成３年度実施）

地区	市町村名	工事地区名	所在地	確認調査対象面積（ha）	調査結果	調査担当者	備考
佐賀東部地区	鳥栖市	鳥栖北部（２工区）	鳥栖市牛原町字前田	14.97	弥生時代（中期）～中世集落跡	陣内	
		鳥栖北部(牛原･前田)	〃　牛原町字前田	2.1	古墳、中世集落跡	石橋	牛原前田遺跡
		〃　（山浦）	〃　山浦町字三本谷	6.1	遺跡は確認されなかった	〃	
		鳥栖西部（立石）	〃　立石町字惣楽	20.5	縄文・古墳時代墳墓、古代～中世集落跡	〃	惣楽遺跡
	中原町	中原北部（山田）	中原町大字簑原字獅々喰・畳ノ瀬	20	古墳時代群集墳	太田	山田古墳群
		〃　（原古賀）	〃　大字原古賀字七本黒木	3	遺跡は確認されなかった	〃	
		〃　（簑原）	〃　大字簑原字前田・植松他	20	弥生時代集落跡	〃	簑原遺跡
		中原南部（原古賀）	〃　大字原古賀	11	遺構はほとんど削平をうけていると考えられる	松尾	
	三根町	大善寺北部	三根町大字天建寺字五木黒木	12	中世の集落跡	池田	土井外Ａ遺跡
		三田川線（三根）	〃　大字寄人字丁の壺	0.8	遺跡は確認されなかった	〃	
	上峰町	上峰北部	上峰町大字堤	18.2	縄文時代～中世集落跡	鶴田・原田	八藤遺跡
	神埼町	横武	神埼町大字横武	6	中世集落（城館）跡	桑原	横武城
	千代田町	千代田	千代田町大字下板・渡瀬・柳島	70	中世集落跡	堤	柳島遺跡
佐賀西部地区	佐賀市	久保泉東部	佐賀市久保泉町大字川久保	9.8	古代～中世集落跡	前田	前田遺跡
		久保泉西部	〃　久保泉町大字川久保	39	古墳時代～奈良時代集落跡	〃	赤井手・琵琶原遺跡他
		久保泉南部	〃　久保泉町大字下和泉	16	遺跡は確認されなかった	〃	
		金立南部	〃　金立町大字千布	31.6	弥生時代・中世集落跡	西田	千布二本松遺跡
		金立北部	〃　金立町大字千布	17.5	弥生時代～古墳時代集落跡	〃	大野原・野田遺跡
		嘉瀬	〃　嘉瀬町大字荻野、鍋島町大字森田	14.7	中世～近世遺物包含層	徳富	
		城西第１	〃　西与賀町大字厘外	18	遺跡は確認されなかった	徳富・吉本	
		城西第２	〃　本庄町大字正里・本庄	37	中世～近世遺物包含層	〃	
		北川副	〃　北川副町大字江上屋敷田	19	中世集落跡	角	福満寺跡・江上館跡
		巨勢	〃　巨勢町大字修理田	18.7	遺跡は確認されなかった	福田	
		兵庫南部	〃　兵庫町大字瓦町	38.5	弥生時代～中世集落跡	〃	忠兵衛屋敷・千住遺跡
		江頭	〃　鍋島町八戸溝	40.2	中世集落跡	前田・角	大西屋敷遺跡
	川副町	川副中部	川副町大字西古賀	0.5	遺跡は確認されなかった	天本	
		川副北部	〃　大字南里	20	遺跡は確認されなかった	〃	
	多久市	山頭	多久市北多久町大字多久原	0.6	中世遺物包含層	平嶋	
	富士町	萱木	富士町大字萱木	2.7	遺跡は確認されなかった	松尾	延長595m
佐賀南部地区	武雄市	黒牟田	武雄市武内町大字真手野	3	近世（17世紀前半頃）の窯跡物原	原田	七曲窯跡
	大町町	神山	大町町大字大町今寺	10.24	中世～近世集落跡	徳富	今寺遺跡
佐賀北部地区	伊万里市	牧ノ地・立岩	伊万里市山代町大字久原、大字立岩	30	遺跡は確認されなかった	船井	
		中里	〃　二里町大字中里	20	耕地整理により遺跡は壊されていると思われる	荒谷	内ノ馬場遺跡
	西有田町	立部	西有田町大字大木乙	1.2	遺跡は確認されなかった	宮崎	壁岩遺跡
佐賀上場地区	唐津市	鏡山	唐津市鏡字大平、半田字大巣	延長850m	遺跡は確認されなかった	田島	鏡山山頂遺跡
		湊	〃　湊町字松本	延長400m	遺跡は確認されなかった	〃	
	鎮西町	赤玉毛Ｉ区	鎮西町大字名護屋字神ノ木	9.2	遺跡は確認されなかった	明瀬	
		麦原	〃　大字名護屋字飯塚・神田・古	18.5	遺跡は確認されなかった	堀苑・明瀬	支線道路　延長1,700m
		野中	〃　馬渡島字平戸峰・柳ヶ谷		遺跡は削平されている	堀苑	馬場ノ辻遺跡・切立遺跡
		打上	〃　大字打上字西湯山	298㎡	土壌１基を検出	〃	東湯山遺跡Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ、尾箱遺跡
	玄海町	大島	玄海町大字牟形字大島	398.8㎡	旧石器～縄文時代遺物包含層	有光	野高山遺跡
		牟形	〃　大字牟形字稗田	0.24	遺跡は確認されなかった	〃	
	肥前町	嘉藤	肥前町大字切木字嘉藤甲	0.1	旧石器～縄文時代遺物包含層	藤井	野高山遺跡

表2　平成3年度　農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査一覧表

地区	市町村名	遺跡名	略号	所在地	調査面積	調査主体者	調査担当者	遺跡の内容
佐賀東部	鳥栖市	1．山田遺跡	TYM	鳥栖市立石町字吉原	740	鳥栖市教育委員会	石橋・陣内	古墳時代墓地
		2．牛原前田遺跡	FUM	〃　養父町字前田	12,000	〃	〃	縄文時代～中世集落跡・墳墓
〃	中原町	3．高柳大塚古墳	OTK	中原町大字原古賀字二本松	1,100	中原町教育委員会	太田	古墳時代墓地
		4．拾徳遺跡	JTK	〃　〃　字岩崎	6,800	〃	〃	縄文時代～奈良時代集落跡
〃	三根町	5．土井外遺跡	DHA･DHB	三根町大字天建寺字五本黒木	1,040	三根町教育委員会	池田	中世集落跡
〃	上峰町	6．八藤遺跡	YTO	上峰町大字堤字迎原	15,000	上峰町教育委員会	原田	縄文時代～奈良時代集落跡
〃	東脊振村	7．上石動遺跡	KIN	東脊振村大字石動字四木黒木ほか	1,500	東脊振村教育委員会	久保	古墳時代集落跡・墓地、中世集落跡
〃	神埼町	8．塚原遺跡	TKH	神埼町大字尾崎字塚原	4,060	神埼町教育委員会	八尋	旧石器時代～弥生時代・古代集落跡・墳墓
		9．小林遺跡	KBY	〃　大字尾崎字小林	2,000	〃	桑原	弥生時代・古代・中世集落
		10．祇園原遺跡	GBR	〃　大字尾崎字祇園原	3,500	〃	河野	弥生時代～古墳時代、古代・中世集落跡
		11．野畠遺跡	NBT	〃　大字尾崎字野畠	250	〃	桑原	古代道路（官道）跡
		12．轡田遺跡	KBY	〃　大字尾崎字轡田	1,500	〃	〃	近世集落跡
		13．馬郡遺跡	MGI	〃　大字鶴字枝町	215	〃	〃	弥生時代集落跡
佐賀西部	佐賀市	14．宿野遺跡	SKN	佐賀市久保泉町大字下和泉	10,080	佐賀市教育委員会	前田・山口	縄文時代包含層、奈良時代～中世集落跡、平安時代墓地
		15．篠木野遺跡	SGN	〃　久保泉町大字上和泉	2,340	〃	角	弥生時代墓地、古墳時代・中世・近世集落跡
		16．琵琶原遺跡	BWB	〃　久保泉町大字川久保	780	〃	〃	縄文時代包含層、弥生時代・近世集落跡
		17．大野原遺跡	ONR	〃　金立町大字千布	3,849	〃	西田	弥生時代～奈良時代集落跡
		18．千布二本黒木遺跡	CNK	〃　金立町大字千布	2,100	〃	〃	弥生時代・中世集落跡
		19．牟田寄遺跡	MTY	〃　兵庫町大字瓦町	4,875	〃	福田	弥生時代～古墳時代集落跡
		20．観音遺跡	KAN	〃　北川副町大字光法	480	〃	角	中世～近世集落跡
〃	多久市	21．高木川内遺跡	TKG	多久市北多久町大字小侍	750	多久市教育委員会	平島	中世集落跡
〃	川副町	22．上早一本松遺跡	KIM	川副町大字早津江	500	川副町教育委員会	吉本	〃
佐賀南部	白石町	23．遠江一本松籠遺跡	TIM	白石町大字遠ノ江字一本松籠	130	白石町教育委員会	渡辺	中世～近世墓地
		24．妻山遺跡	TMY	〃　大字馬洗字馬洗	1,265	〃	〃	弥生時代～古墳時代・近世集落跡
筑後川下流用水事業	上峰町	25．坊所三本松遺跡	BJS	上峰町大字坊所	820	佐賀県教育委員会	小松	縄文時代・弥生時代・奈良時代集落跡

Ⅱ．調査組織

1．調査主体

佐賀県教育委員会（事務局；文化財課）

2．総括

事務局長；高島忠平（文化財課長）

〃 次長；中牟田賢治（文化財課長補佐）・西村貞幸（文化財課長補佐）

3．庶務

永松和久（文化課庶務企画係長）　濱野清子（文化課庶務企画係主査）

小林宣洋（文化課庶務企画係主査）　松瀬　弘（文化課庶務企画係主事）

4．調査

調査主任；天本洋一（文化財課指導係長）

調 査 員；松尾吉高・樋口秀信・徳富則久・吉本健一（文化財課指導係）

小松　譲（文化財課調査係）

福田義彦（佐賀市教育委員会）　前田達男（佐賀市教育委員会）

西田　巖（佐賀市教育委員会）　角信一郎（佐賀市教育委員会）

山口一郎（佐賀市教育委員会）　田島龍太（唐津市教育委員会）

石橋新次（鳥栖市教育委員会）　陣内康光（鳥栖市教育委員会）

平嶋文博（多久市教育委員会）　船井向洋（伊万里市教育委員会）

荒谷義喜（伊万里市教育委員会）　原田保則（武雄市教育委員会）

桑原幸則（神埼町教育委員会）　河野史郎（神埼町教育委員会）

堤　安信（千代田町教育委員会）　久保伸洋（東脊振村教育委員会）

太田　睦（中原町教育委員会）　池田光一（三根町教育委員会）

鶴田浩二（上峰町教育委員会）　原田大介（上峰町教育委員会）

藤井浩司（肥前町教育委員会）　有光宏之（玄海町教育委員会）

明瀬慎吾（鎮西町教育委員会）　堀苑孝志（鎮西町教育委員会）

宮崎光明（西有田町教育委員会）　渡部俊哉（白石町教育委員会）

5．調査協力

佐賀市教育委員会	唐津市教育委員会	鳥栖市教育委員会
多久市教育委員会	伊万里市教育委員会	武雄市教育委員会
川副町教育委員会	神埼町教育委員会	中原町教育委員会
三根町教育委員会	上峰町教育委員会	肥前町教育委員会
玄海町教育委員会	鎮西町教育委員会	西有田町教育委員会
大町町教育委員会	白石町教育委員会	

九州農政局上場農業水利事業所
九州農政局伊万里開拓建設事務所
水資源開発公団筑後川下流用水建設所

佐賀県農林部
土地改良課　農地整備課　建設鉱害課　農業振興課　林務課
佐賀中部農林事務所　唐津農林事務所　鳥栖農林事務所
伊万里農林事務所　武雄農林事務所　鹿島農林事務所
各市町村土地改良担当課　各市町村土地改良区　地元各位

Ⅲ．平成３年度文化財確認調査の内容

1．佐賀東部地区の調査

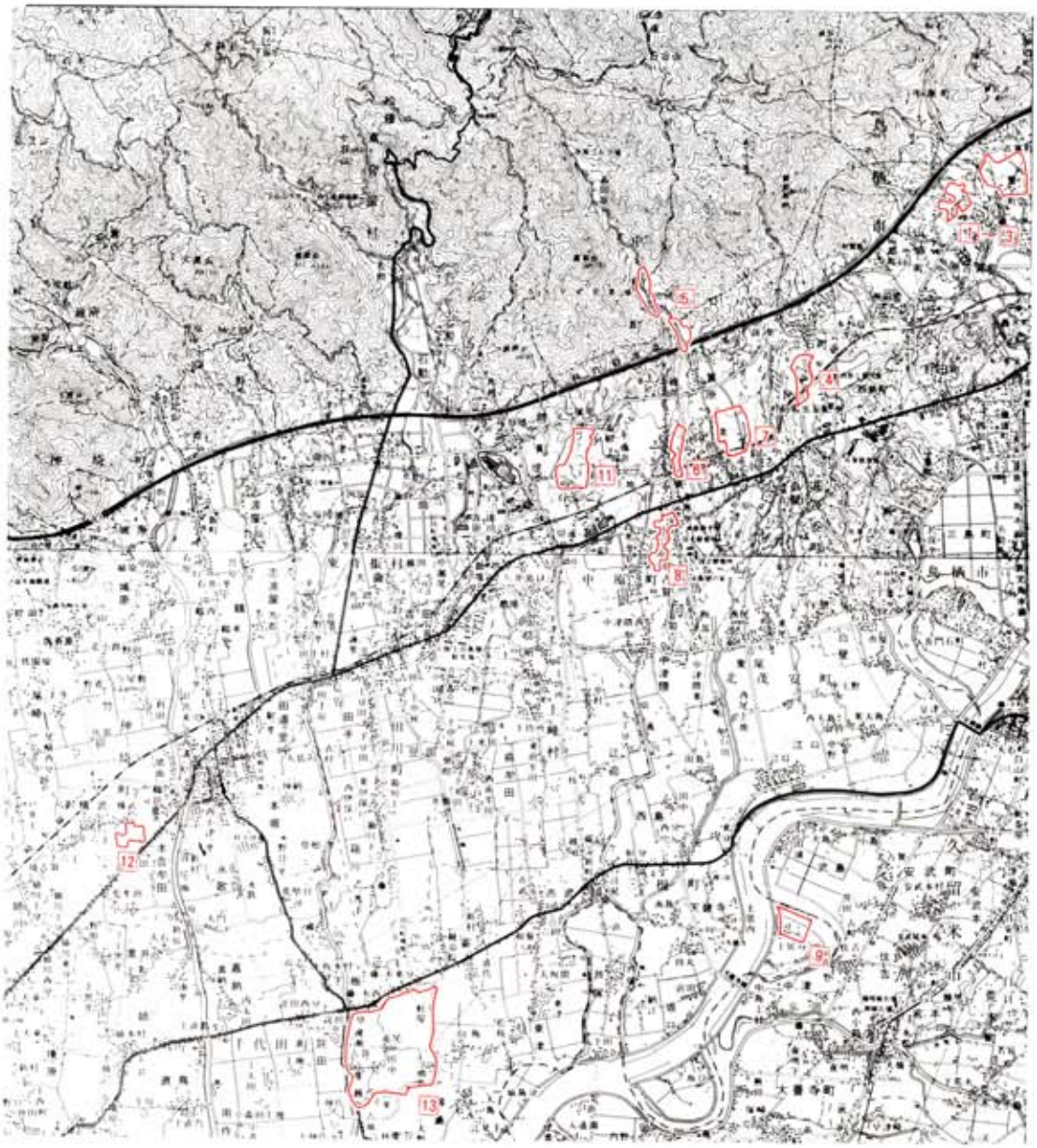


図２　　佐賀東部地区周辺地形図（１：100,000）

1 鳥栖北部・2工区(鳥栖市)　6 中原北部・原古賀(中原町)　10 三田川線・三根(三根町)

2 鳥栖北部・牛原(鳥栖市)　7 中原北部・簀原(中原町)　11 上峰北部(上峰町)

3 鳥栖北部・山浦(鳥栖市)　8 中原・南部・原古賀(中原町)　12 横武(神埼町)

4 鳥栖西部・立石(鳥栖市)　9 大善寺北部(三根町)　13 千代田(千代田町)

5 中原北部・山田(中原町)

1．調査対象地区名 （工事区名）		鳥栖市　鳥栖北部地区　（２工区）
2．調査対象地所在地		鳥栖市牛原町字前田
3．調査対象面積（ha）		１４．９７ha
4．調査担当者		鳥栖市教育委員会　事務史員　陣内康光
5．調査期間		平成３年１０月２３日～平成３年１１月８日（８．５日間）
6．調査対象地区の 立地		群石山南麓の大木川と安良川に狭まれた段丘上に立地する。この中位段丘は北から南に向けて狭やかに傾斜し、調査地の標高は約５０ｍ～４０ｍを測る。対象地はほぼ全て水田として利用されており、北から南に向けて水路が通る。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地区の立地する中位段丘から低位段丘にかけて、ほぼ全ての地域において遺物の散布が見られる。群石山南麓には、都谷古墳群・牛原古墳群・割石古墳群などの群集墳が存在する。さらに大型の古墳としては付近に塩塚古墳・稲塚古墳等が存在する。
8．調査方法		掘削機と人力により、水路予定部と削平予定部に１２４箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	６４ケ所の試掘溝から遺物及び遺構が検出された。 住居跡と思われる遺構は１４ケ所から確認され、その分布密度は調査範囲の東側部分に濃い。これに対し西側部分では古墳の一部と考えられる遺構が合計９ケ所から検出された。
	・出土遺物	弥生土器・・・壺・甕・高杯 土 師 器・・・杯 須 恵 器・・・杯・高杯・甕
10．所見 その他		対象地の東側部分は弥生時代中期から古代・中世にかけての集落跡となる可能性が高い。時期の中心はその出土遺物から古墳時代後期となろう。 西側部分は後期群集墳が分布していると思われるが、その数など詳細は、墳丘の残るものが道塚以外には無いため、不明である。なお百道塚の周溝は今回の試掘の結果、径約２５ｍであることが判明した。 遺物の推定面積は東側西側を合わせて９．８８ヘクタールである。

1．調査対象地区名 （工事区名）		鳥栖市　鳥栖北部地区（牛原地区）
2．調査対象地所在地		鳥栖市牛原町字前田
3．調査対象面積（ha）		2．1ha
4．調査担当者		鳥栖市教育委員会　事務史員　石橋新次
5．調査期間		平成3年6月26日～平成3年6月27日（2日間）
6．調査対象地区の 立地		標高約50mの北から南へ伸びる中位段丘上に立地する。 西に浅い谷が南から貫入する。現在すべて水田として利用されている。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地区は、周知の遺跡（縄文時代～中世）で、地表面には須恵器片・土師器片の散布が認められる。
8．調査方法		掘削機を使用し、削平部分ならびに水路予定地に22ケ所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	試掘溝22ケ所のうち15の試掘溝から柱穴・土壌・竪穴などが検出された。また、古墳の石室が水田下に埋没した状態で検出された。
	・出土遺物	瓦質の甕・土師器片・青磁片・石鍋片などが多く出土した。また、古墳の石室付近からは須恵器片が出土した。
10．所見 その他		今回の調査で、出土した遺構・遺物の多くは中世のもので、中世集落跡と考えられる。遺構の多くは、削平が著しい状況であった。 また、古墳の石室が1基確認されており、群集墳であれば他にも古墳の存在が考えられる。

1．調査対象地区名 （工事区名）		鳥栖市鳥栖北部（山浦地区）
2．調査対象地所在地		鳥栖市山浦町字三本谷
3．調査対象面積（ha）		6．1 ha
4．調査担当者		鳥栖市教育委員会　事務史員　石橋新次
5．調査期間		平成３年１０月２３日～平成３年１０月２５日（３日間）
6．調査対象地区の 立地		鳥栖市の北西部の山麓から東南へ派生する山浦の丘陵へ東南から貫入する標高４５ｍ～５０ｍの谷部に位置する。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		隣接して東（丘陵上）に山浦新町遺跡、西北～西南に中ノ原古墳群が位置する。それぞれ山浦新町遺跡が、中世の城下町ならびに空堀、中ノ原古墳群が古墳後期の群集墳。
8．調査方法		掘削機により幅３ｍの試掘機を設定し、遺構・遺物の検出に努めるとともに特にその深さ・土層について記録を行い遺跡の有無・状況を把握した。
9．調査内容	・検出遺構	特に遺構は認められなかった。（地盤がしっかりしていた所は削平が著しく、他は砂礫となっており、遺跡立地には不適と考えられた）
	・出土遺物	須恵器片・土師器片が少量出土した。
10．所見 その他		須恵器片・土師器片はすべて、削平されて動いた土や流れ込んだ土からの出土であり、遺構は削平されたものと判断される。

1．調査対象地区名 （工事区名）		鳥栖市　鳥栖西部（立石地区）
2．調査対象地所在地		鳥栖市立石町字惣楽
3．調査対象面積（ha）		２０．５ha
4．調査担当者		鳥栖市教育委員会　社会教育課　石橋新次
5．調査期間		平成３年１１月７日～平成３年１１月１９日（７日間）
6．調査対象地区の 立地		遺跡は雲尾峠（４００．１ｍ）から南下する山麓下に南へ広がる標高約４０ｍの扇状地上に立地する。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		隣接して北に古墳時代後期の群集墳山田遺跡、西の丘陵上に縄文・古代の散布地吹山遺跡、東に縄文～弥生時代の散布地野副遺跡が立地する。
8．調査方法		幅３ｍの試掘機を設定し、掘削機により掘り下げ遺構・遺物の検出に努めた。また、試掘溝・遺構・土層などについて観察を行い記録するとともに、遺跡の有無・状況の把握に努めた。
9．調査内容	・検出遺構	縄文時代の石組、古墳の石室、古代～中世と考えられる住居跡・土壙・柱穴などが検出された。
	・出土遺物	縄文晩期土器片・須恵器片・土師器片などが合計ポリ袋４個分ほど出土した。
10．所見 その他		縄文時代・古墳時代・古代～中世の複合遺跡であることが判明した。遺跡の性格はそれぞれ縄文時代と古墳時代が墳墓、古代～中世が集落跡と考えられる。

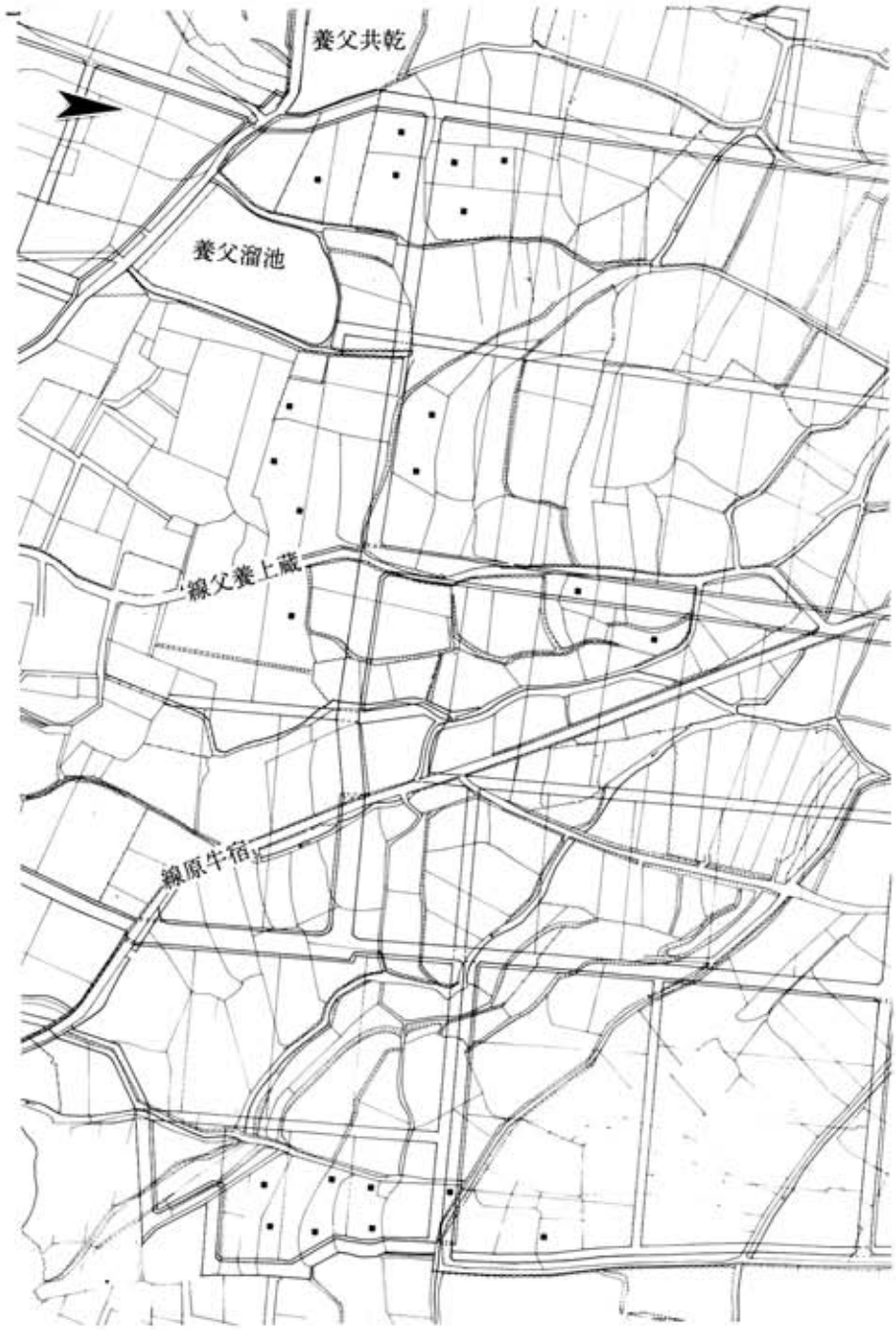


図３　　鳥栖市：鳥栖北部地区（牛原地区）試掘溝設定図

図 4　　鳥栖市：鳥栖北部地区（山浦地区）試掘溝設定図

図５　　鳥栖市：鳥栖西部地区（立石地区）試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		中原町中原北部地区（山田）
2．調査対象地所在地		三養基郡中原町大字簀原字獅々喰・堂ノ瀬
3．調査対象面積（ha）		２０ha
4．調査担当者		中原町教育委員会　社会教育主事　太田　睦
5．調査期間		平成３年１１月１１日～平成３年１１月２２日（４日間）
6．調査対象地区の 立地		本地点は石谷山から南西にのびる段丘上に位置し、標高は５７ｍ～１２０ｍを測る。現在は水田および畑として利用されている。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		周辺には群集墳がみられ、東側の斜面に獅々喰遺跡・山田古墳群が存在する。
8．調査方法		掘削機を使用し、６２箇所の試掘をおこなった。
9．調査内容	・検出遺構	Ｎｏ３１，Ｎｏ４８，Ｎｏ５０～Ｎｏ５２，Ｎｏ５４の６本のトレンチから遺構および遺物包含層を検出した。特にＮｏ５１，Ｎｏ５２トレンチからは古墳の石室と思われる石組を５ケ所検出した。
	・出土遺物	Ｎｏ５２トレンチで検出した古墳の石室内から７世紀頃とみられる土師器の杯が出土した。
10．所見 その他		対象地区には、山田橋の北方の段丘上に２ケ所の群集墳が存在するようである。規模は、北側が約１３，０００㎡、南側は約２２，０００㎡で時期は７世紀頃と考えられる。

図 6　　中原町：中原北部（山田地区）試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		中原町中原北部地区（簑原）
2．調査対象地所在地		三養基郡中原町大字簑原字前田、植松、鬼塚、餅投、水道西
3．調査対象面積（ha）		２０ha
4．調査担当者		中原町教育委員会　社会教育主事　太田　睦
5．調査期間		平成３年１１月１２日～平成３年１１月１５日（２日間）
6．調査対象地区の 立地		対象地区は段丘の端部および谷に立地し、標高は３２ｍ～４５ｍを測る。現在は主に水田として利用されている。東側の段丘上は大正時代に耕地整理がおこなわれている。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		周辺には、西側に縄文～古墳時代の若宮八幡神社遺跡・姫方遺跡があり、東側に弥生～古墳時代の植松遺跡・鬼塚遺跡が存在する。
8．調査方法		掘削機により７４箇所の試掘をおこなった。
9．調査内容	・検出遺構	Ｎｏ１～Ｎｏ３のトレンチから竪穴住居跡・小穴などの遺構を検出した。
	・出土遺物	遺物はＮｏ３のトレンチから弥生土器の小片が出土している。
10．所見 その他		対象地区内の北側に弥生時代と考えられる遺跡（集落跡）が存在する。遺跡の推定面積は約３，０００㎡である。

図７　　中原町：中原北部（養原地区）試掘溝設定図

1．調査対象地区名(工事区名)		中原町中原北部地区（原古賀）
2．調査対象地所在地		三養基郡中原町大字原古賀字七本黒木
3．調査対象面積（ha）		3ha
4．調査担当者		中原町教育委員会　社会教育主事　太田　睦
5．調査期間		平成3年11月6日～平成3年11月7日（2日間）
6．調査対象地区の立地		対象地区は寒水川の自然堤防上に立地（標高は24m～32mを測る）。西側の段丘との比高差は約2mで、現在は主に水田として利用されている。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		西側の段丘上には、弥生時代の原古賀六本黒木遺跡が、寒水川は挟んで東側の段丘上には縄文～古墳時代の姫方遺跡が存在する。
8．調査方法		掘削機により、36箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出しなかった。
	・出土遺物	遺物は耕作土中から土師器小片が出土したのみである。
10．所見その他		対象地区内には遺跡が存在しないものと考えられる。

1．調査対象地区名(工事区名)		中原町中原南部地区（原古賀）
2．調査対象地所在地		三養基郡中原町大字原古賀
3．調査対象面積（ha）		11ha
4．調査担当者		県文化財課　主査　松尾吉高
5．調査期間		平成3年11月5日～平成3年11月8日（4日間）
6．調査対象地区の立地		対象地は、国道204号線の南側・東寒水・西寒水の低丘陵に挟まれた南北に細長い水田部で、標高約20mである。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		対象地区東側の東寒水の丘陵上には弥生時代～中世の集落跡である地蔵町遺跡・天神遺跡が存在する。
8．調査方法		工事による切土部分および水路予定地を掘削機により、54箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	No11，No13，No15，No16，No48，No49の6本のトレンチから土壙状の落ち込み・小穴を検出した。
	・出土遺物	No11トレンチの黒色土中から弥生中期の完形土器が、No49トレンチの表土下の褐色土から弥生土器片が少量出土。
10．所見その他		No11トレンチから完形の弥生土器が出土したものの、他のトレンチの土壙状落ち込みおよび小穴から遺物の出土は全くないことから遺構の広がりは確認されなかった。 遺構はほとんどが削平をうけているものと考えられる。

1．調査対象地区名（工事区名）		三根町大善寺北部地区
2．調査対象地所在地		三養基郡三根町大字天建寺字五本黒木
3．調査対象面積（ha）		１２ha
4．調査担当者		三根町教育委員会　嘱託　池田公一
5．調査期間		平成３年１１月６日（１日間）
6．調査対象地区の立地		三根町東部の飛び地で、西側に筑後川が流れる。標高は３．７７ｍ～４．９７ｍで，現在は水田として利用されている。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		周辺には、土井外Ａ遺跡があり、中世～近世の集落跡がある。
8．調査方法		掘削機により、水路予定地に７箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出しなかった。
	・出土遺物	Ｎｏ４トレンチより中世（１２世紀）の土師皿が１点出土
10．所見その他		対象地区内には中世の集落跡が存在する可能性があるが、削平を受ける水路部分には遺構は存在しないと思われる。

1．調査対象地区名（工事区名）		三根町三根地区（国営筑後川下流農業水利事業・三田川線）
2．調査対象地所在地		三養基郡三根町大字寄人字丁の壺
3．調査対象面積（ha）		０．８ha
4．調査担当者		三根町教育委員会　嘱託　池田公一
5．調査期間		平成３年１１月７日（１日間）
6．調査対象地区の立地		三根町の西端千代田町との境である。標高は３．３８～３．００ｍで、現状は水田及び排土置場として利用されている。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		周辺には、千代田町内に藤木東分遺跡がある。
8．調査方法		掘削機により、水路予定地に１１箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出しなかった。
	・出土遺物	なし
10．所見その他		今回の試掘調査では遺物・遺構ともに発見されず、遺跡は存在しないと思われる。

1．調査対象地区名 （工事区名）		上峰町上峰北部地区
2．調査対象地所在地		三養基郡上峰町大字堤
3．調査対象面積（ha）		１８．２ha
4．調査担当者		上峰町教育委員会　社会教育課　文化財担当　鶴田浩二、原田大介
5．調査期間		平成３年１０月２３日～平成３年１１月５日（７．５日間）
6．調査対象地区の 立地		Ａ地区　船石集落北部、中原町境の丘陵部分 Ｂ地区　塚原集落の南部及び西武谷水田部分 Ｃ地区　町物産直売場北部、県道鳥栖・川久保線以北の丘陵部及び谷水田部分 Ｄ地区　県道鳥栖・川久保線以北、長崎自動車道以南の切通川両岸の水田部分 Ｅ地区　青柳古墳群及び堤六本谷遺跡が立地する丘陵部
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		調査対象地区周辺には、船石遺跡、八藤遺跡、二塚山丘陵遺跡群、屋形原遺跡等の縄文時代から中世にかけての集落や墳墓が位置し、北部の鎮西山周辺には青柳古墳群・新立古墳群をはじめ後期の群集墳が点在している。また、堤土塁が八藤・二塚山の両丘陵間の谷部に位置するなど、本地区及びその周辺は、町内でも高い密度で遺跡が密集している。
8．調査方法		調査対象地区内に２０ｍピッチを基準とし４ｍ×１ｍの試掘杭を設定し、これを掘削機により遺構検出面まで掘り下げ、人力で精査した。
9．調査内容	・検出遺構	Ａ地区　遺構は検出しなかった。 Ｂ地区　遺構は検出しなかった。 Ｃ地区　丘陵東西斜面で、縄文・古墳の、住居跡、土壙、小穴などを検出した。 Ｄ地区　切通川両岸の低位の田面からは検出しなかった。西岸の高位の田面からは、古代の土壙、ピットなどを検出した。 Ｅ地区　縄文～古代の、住居跡、土壙、ピットなどを検出した。
	・出土遺物	Ａ地区　遺物は出土しなかった。 Ｂ地区　遺物は出土しなかった。 Ｃ地区　縄文式土器片、土師器片、黒曜石片などが出土した。 Ｄ地区　土師器片、中世土器片、近世磁器片などが出土した。 Ｅ地区　縄文式土器片、弥生式土器片、土師器片、須恵器片などが出土した。
10．所見 その他		Ａ地区　丘陵上であり遺構の存在が考えられたが検出しなかった。 Ｂ地区　谷部分にあたるので、遺構はないものと考えられる。 Ｃ地区　丘陵の東西斜面から縄文時代と古墳時代の遺構・遺物が検出され、丘陵尾根部からは検出しなかったことから、本来もっと高かった尾根が削平されたものと考えられる。 Ｄ地区　切通川西岸の高位の田面からは、古代の遺構を検出した。低位の田面は、切通川の氾濫原で遺構の存在する可能性は希薄である。 Ｅ地区　本地区は高位段丘が青柳古墳群、低位段丘が堤六本谷遺跡の範囲である。今回の調査においても丘陵のほぼ全域から縄文時代から中世にかけての遺構が検出され、かなりの密度で遺構が存在することが確認された。ただ、高位段丘の最高部は既に削平を受け、遺構が検出できなかった。

図8　　上峰町：上峰北部地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		神埼町　横武地区
2．調査対象地所在地		佐賀県神埼郡神埼町大字横武
3．調査対象面積（ha）		6 ha
4．調査担当者		神埼町教育委員会　主事　桑原幸則
5．調査期間		平成４年２月１９日～平成４年３月３１日（２３．５日間）
6．調査対象地区の 立地		横武城は神埼町のほぼ中央部南よりの標高３～３．５ｍの位置に立地し、クリークに囲まれた島が多く存在している。現在は公園整備のために整地されているが、以前は水田や畑地として利用されていた。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		本所は、横武城と呼ばれるクリークに囲まれた中世の環濠集落とされている。周囲には、横武四本黒木遺跡や下六丁遺跡・館跡・牟田城跡・本告牟田遺跡・姉川城跡などの中世～近世の遺跡が数多く存在している。
8．調査方法		掘削機により、クリークに囲まれた島の内部に、各島に最低１箇所のトレンチを設定し、合計22箇所の試掘を行った。さらに、作業員による検出作業の後、主要な遺構については部分的な掘り下げを行った。
9．調査内容	・検出遺構	調査は、横武城のクリーク公園として整備される地区の東川部分について実施したが、東端部分については遺構は検出されず、調査対象地ほぼ中央部から西側に於いて遺構が検出された。 検出された遺構は掘立柱建物跡・溝跡・土壙などがある。
	・出土遺物	Ｎｏ８トレンチで検出された溝跡及びＮｏ１２トレンチで検出された土壙状の大型遺構から１５～１６世紀の土師器の皿・小皿・鉢・鍋や陶磁器類が出土している。 掘立柱建物跡の柱穴からは良好な遺物の出土は認められなかったがほぼ同様の時期と考えられる。
10．所見 その他		遺構の確認された場所は横武城のほぼ中央部付近に集中しており、外郭の周囲の島は浮き島であった可能性が強い。２棟以上の掘立柱建物跡が検出されたＮｏ１７・１８トレンチを設定した島も横武城のほぼ中央部付近に位置しており、そのことを裏付けているものと考えられる。 遺構の検出面は黒褐色の粘土質であり、少量であるが遺物を包含している。軟弱な地盤に立てられた掘立柱建物跡の柱穴には沈下防止の石は認められず、木製の礎盤当の施設の存在が想定し得るが柱穴の部分掘り下げでは確認できなかった。

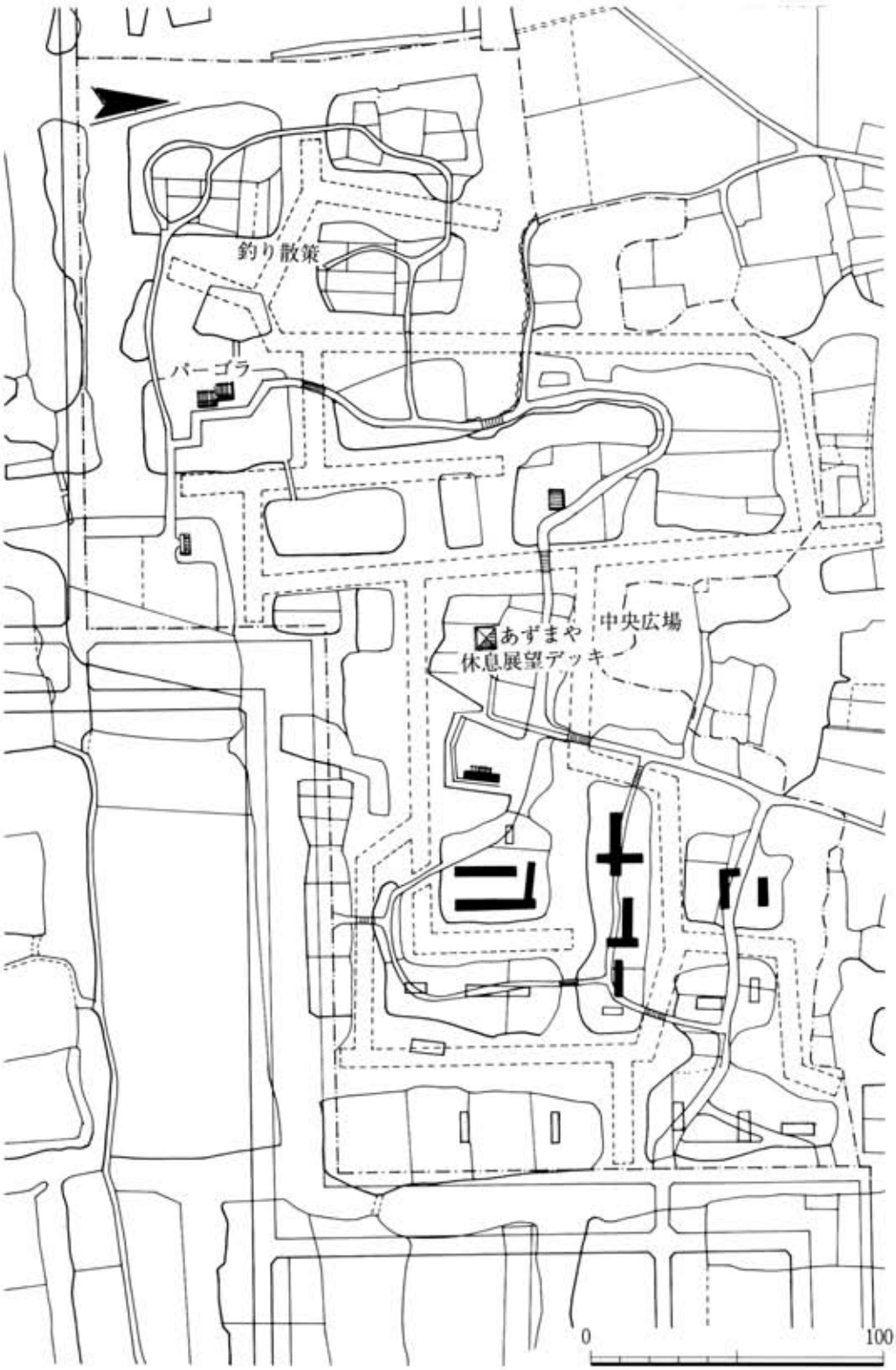


図９　　神埼町：横武地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名（工事区名）		千代田町鯰江樋地区
2．調査対象地所在地		神埼郡千代田町大字下坂（字西二の坪・西三の坪）、大字渡瀬（字古川・田中・芦内・原田・飛渡・鯉橋・八坪・古賀）、大字柳島（字一本柳～十一本柳）
3．調査対象面積（ha）		７０ha
4．調査担当者		千代田町教育委員会　主査　堤　安信
5．調査期間		平成３年１１月１１日～平成３年１１月２１日（８日間）
6．調査対象地区の立地		調査区は、河川による堆積作用で形成された標高２．５～３．５ｍの沖積平野でほとんどが水田として利用されている。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		今回の確認調査地区内には中世の柳島遺跡が存在する。
8．調査方法		掘削機により水路予定地に２２６箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	遺構が検出されたのはＮｏ２１０，Ｎｏ２１１の試掘溝から、柱穴・溝等の遺構を検出した。またその西側のＮｏ２１４では遺物包含層を検出した。またＮｏ２１０，Ｎｏ２１１の北側にはかつて貝塚が存在したという話がある。その他Ｎｏ３１では遺構と思われる柱穴、遺構？が確認された。
	・出土遺物	Ｎｏ２１０，Ｎｏ２１１では中世瓦器椀片・土師器片が、Ｎｏ２１４でも中世土器片が出土。 Ｎｏ１４１～Ｎｏ１５１，Ｎｏ１６１～Ｎｏ２０７～Ｎｏ２０９と柳島集落周辺の試掘溝からは、それぞれ数片のかなり磨滅した土器片が出土。
10．所見その他		今回の確認調査の結果、県遺跡地図にある柳島遺跡の範囲が推定され、ほとんどが集落内にその中心が推定され、集落の回りにはその範囲は広がらないようである。また今回Ｎｏ２１０，２１１の北方に貝塚があったという話があったが、すでに後世の開発で消滅した可能性が高いが、今後改めて確認したい。今回のこの地区は筑後川・田手川の堆積作用により陸地化した場所で、その時期は中世以降であると考えられる。調査区西側には田で田手川の旧河川の地形が多く残り、低湿地として今も利用されているが、全体として良好な地形の場所はなく河川の氾濫により幾度となく地形が変わった場所であろう。集落北方から柳島集落西北には、遺跡の存在に適した地形が残るが、その場所には遺物の量はなく、古代においては生活に適さない地区であったようである。その他柳島地区周辺は瓦用に３０～５０㎝程の土を採取してあり、その影響による遺跡の破壊もあると考えられる。	

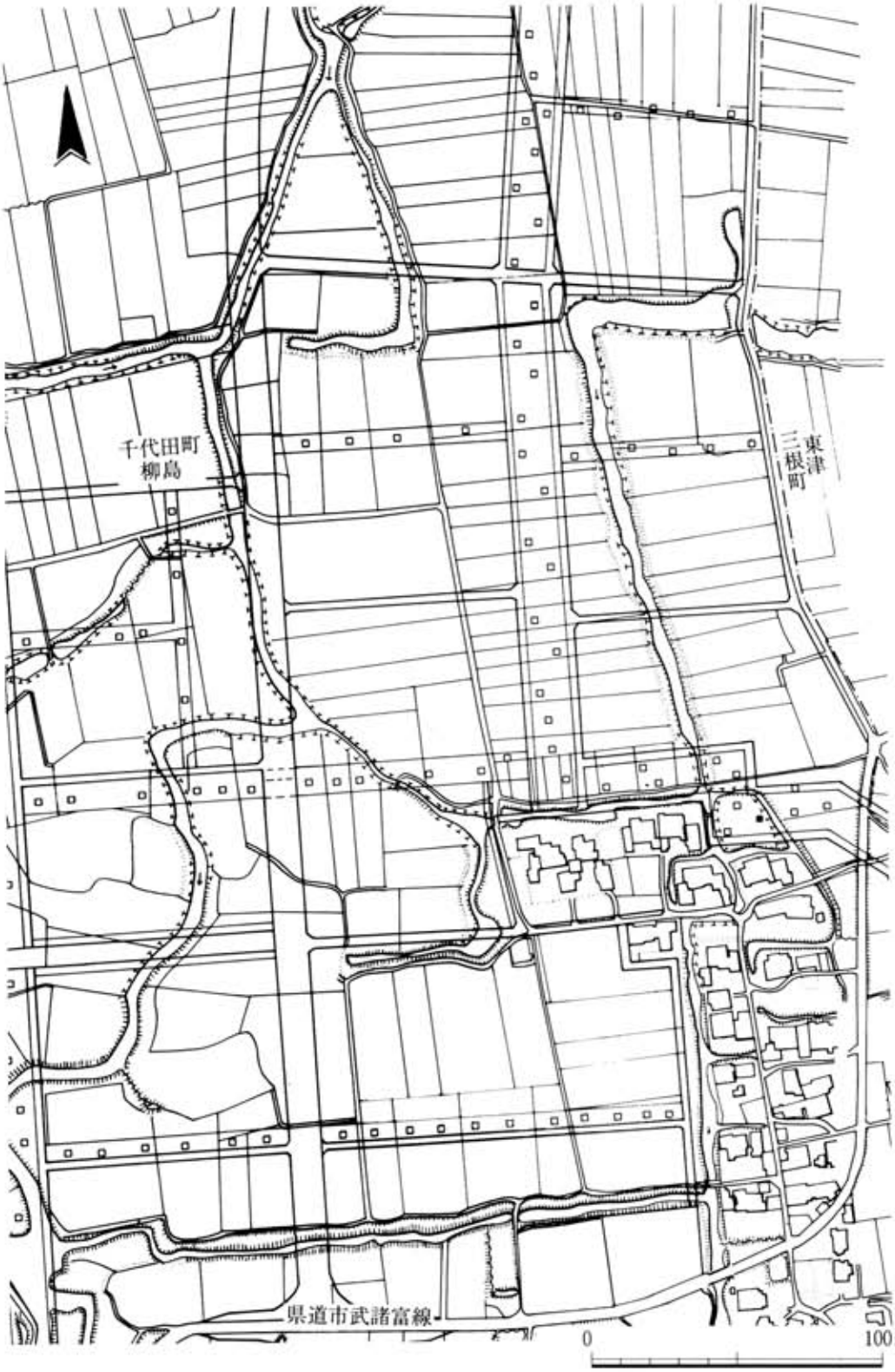


図10　千代田町鯰江襖地区試掘溝設定図

2．佐賀西部地区の調査

図11　　佐賀西部地区周辺地形図（１：100,000）

14 久保泉東部（佐賀市）
15 久保泉西部（佐賀市）
16 久保泉南部（佐賀市）
17 金立南部（佐賀市）
18 金立北部（佐賀市）
19 嘉瀬（佐賀市）
20 城西第一（佐賀市）
21 城西第二（佐賀市）
22 北川副（佐賀市）
23 巨瀬（佐賀市）
24 兵庫南部（佐賀市）
25 江頭（佐賀市）
26 川副中部（川副町）
27 川副北部（川副町）
28 山頭（多久市）
29 萱木（富士町）

1．調査対象地区名（工事区名）		佐賀市久保泉東部地区
2．調査対象地所在地		佐賀市久保泉町大字川久保
3．調査対象面積（ha）		9．8ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課文化財係　事務史員　前田達男
5．調査期間		平成3年11月18日～平成3年11月19日（2日間）
6．調査対象地区の立地		対象地区は神籠池の南西側、清兵衛山の南側に所在する。東方は山地帯の端部、西方は関行丸古墳が立地する洪積段丘面の縁にかかる。全体に谷地形の棚田をなしている。標高22．6～35．8mを測り南に向い傾斜している。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		対象地区は、前田遺跡にかかる。周辺は、熊本山・帯隔山神籠石・関行丸古墳が所在する。県道脊振佐賀線の西側川久保遺跡では、今年度確認調査（久保泉西部地区）で遺構の広がりが確認されている。
8．調査方法		水路・道路予定部分を中心に、40ケ所で、機械力・人力による試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	No26・28～30・32・38・40で遺構が検出され、3地点（No26・28・29・30／No32／No38・40）で遺構の広がりが推定された。第1地点ではNo26で土坑らしきものと小穴、No28では溝状の遺構、No29では土坑らしきもの、No30では小穴が検出された。第2地点では、No32で小穴群が検出された。
	・出土遺物	全体に、中世土師器片が出土しているが、No28では須恵器（古代？）が出土している。
10．所見その他		対象地区内で遺構の広がりが推定される部分の面積は、第1地点で約3，900㎡、第2地点で約3，100㎡、第3地点で約1，200㎡、計約8，200㎡である。 市道南の西側では地権者の同意が得られていない部分が多く、十分な試掘が行えなかったが、遺跡が存在する可能性は低いと思われる。

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　久保泉西部地区
2．調査対象地所在地		佐賀市久保泉町大字川久保
3．調査対象面積（ha）		３９．０ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課文化財係　事務史員　前田達男
5．調査期間		平成３年１１月５日～平成３年１１月１３日（８日間）
6．調査対象地区の 立地		対象地区は、赤井手地区・川久保地区・西原地区に分かれる。赤井手地区は南西に延びる浜積段丘面の西側に所在し、標高１１．５～１４．０ｍを測る水田が南西に向いゆるく傾斜する。川久保地区は巨勢川両岸の河岸段丘にあたり、標高１８．６～２５．５ｍを測り、川に向い棚田を形成している。西原地区は、狭い谷部に棚田が形成され、標高１９～２５ｍを測る。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		赤井手地区は、赤井手遺跡・琵琶原遺跡にかかる。川久保地区は、御手水遺跡・川久保遺跡・川原田遺跡にかかる。西原地区は大日遺跡にかかる。 琵琶原遺跡は昭和５５年に調査が行われ、奈良時代の建物群が検出されている。
8．調査方法		水路・道路予定部分を中心に、１４７ケ所で機械力・人力による試掘を行った。試掘坑の規模は１．５×４ｍを基本とした。
9．調査内容	・検出遺構	赤井手地区では遺構は検出されていない。御手水遺跡では、巨勢川西岸で竪穴住居らしきもの・土坑らしきもの・小穴が確認され（№33，36，37）、４ケ所（№32，34，35，46）で遺物包含層が確認されている。巨勢川東岸では、竪穴住居らしきもの・土坑らしきもの・小穴が８ケ所（№69，71,73，75，77，78，79，81）で検出されている。大日遺跡では、土坑らしきもの・小穴が３ケ所（№145，146，147）で検出されている。
	・出土遺物	全体に古墳時代～奈良時代の土師器・須恵器が出土している。 御手水遺跡の包含層からは古墳時代前半の土師器が出土している。 大日遺跡からは古瓦が出土している。
10．所見 その他		対象地区内の遺構の広がりが推定される部分の面積は、御手水遺跡の巨勢川西岸部分では、約６，７００㎡、東岸部分では約８，２００㎡、川久保遺跡では約９，８００㎡、大日遺跡では約３，０００㎡、計約２７，７００㎡である。 御手水遺跡の巨勢川西岸部分は包含層の堆積が厚く、発掘調査を実施する際には留意する必要がある。

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　久保泉南部地区
2．調査対象地所在地		佐賀市久保泉町大字下和泉
3．調査対象面積（ha）		１８．５ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課文化財係事務史員　前田達男
5．調査期間		平成３年１１月１４日～平成３年１１月１５日（２日間）
6．調査対象地区の 立地		対象地区は、小松川南側に所在し、標高３．７～４．０ｍの平坦な水田が広がり、南へ向いわずかに傾斜する。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地区の北辺は、南宿遺跡・野中遺跡に接する。今回対象地区の西側は、県道脊振佐賀線まで平成２年度に確認調査が行われているが、遺跡は確認されていない。
8．調査方法		水路・道路予定部分を中心に、３４ケ所で機械力・人力による試掘を行った。試掘坑の規模は１．５×４ｍを基本とした。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出しなかった
	・出土遺物	なし
10．所見 その他		北側の幹線道路部分は、東部導水事業関係で試掘が行われるため、今回は対象からはずしてある。

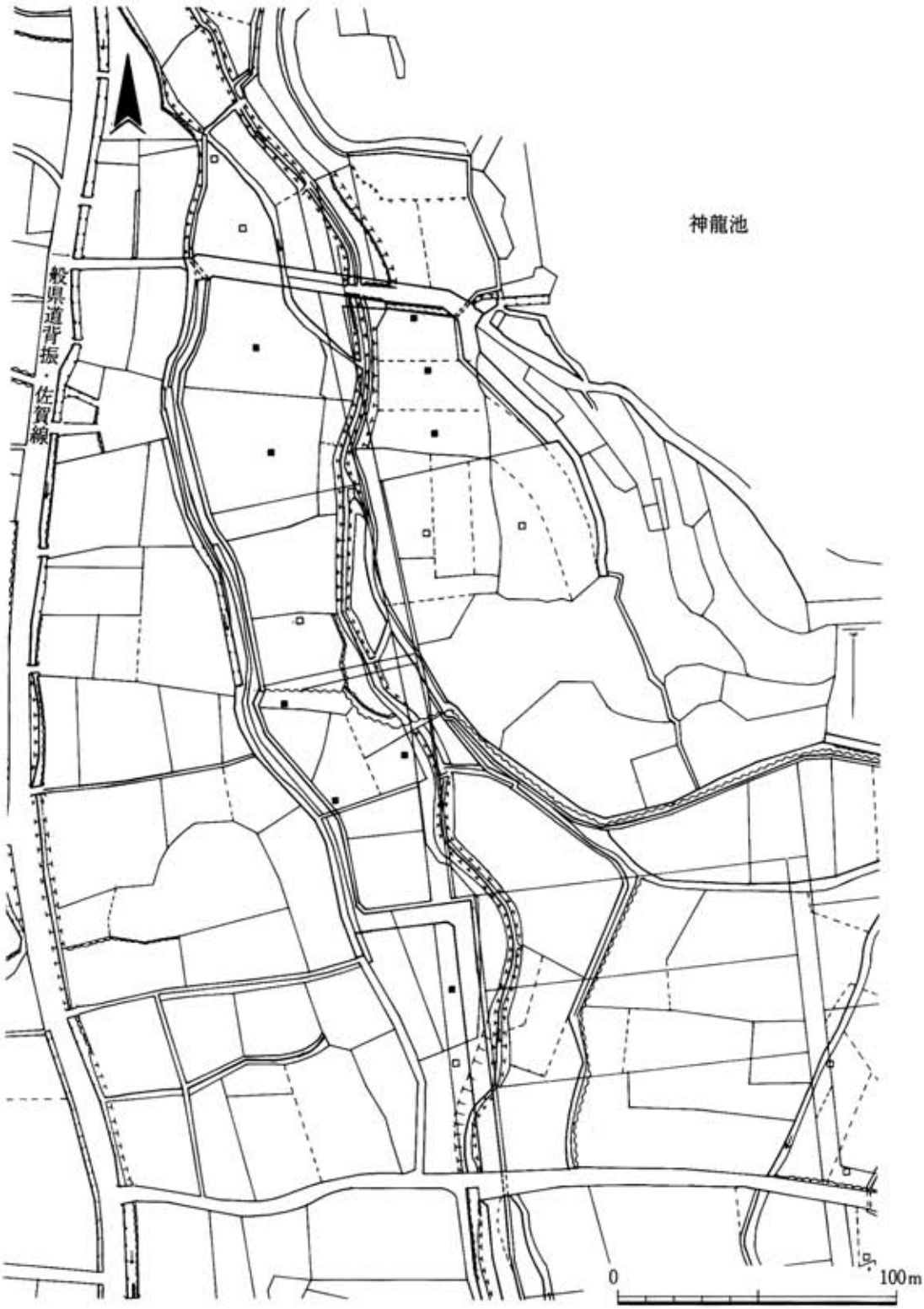


図12　佐賀市：久保泉東部地区試掘溝設定図

図13　　佐賀市：久保泉西部地区試掘溝設定図

図14　　佐賀市：久保泉南部地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　金立南部地区
2．調査対象地所在地		佐賀市金立町大字千布
3．調査対象面積（ha）		３１．６ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課文化財係　事務史員　西田　巌
5．調査期間		平成３年１１月５日～平成３年１１月８日（４日間）
6．調査対象地区の 立地		脊振山南麓に広がる平野部で、対象地の東側には、巨勢川が南北に流れる。調整池に北接し、湿地帯で現在でも水害等で苦渋する地域である。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地は、千布二本松遺跡及び周知外である。北接する千布二本松遺跡では、中世の集落跡を調査している。対象地の北西部において中世と思われる遺構を確認しており、現在の友貞集落を中心に中世の集落跡が存在するものと考えられる。
8．調査方法		水路・道路予定及び比高差のある高畑・水田を中心に、１３８ケ所で機械力による試掘を行った。試掘坑の規模は２×２ｍを基本とした。
9．調査内容	・検出遺構	９ケ所で遺構を検出、２地点において遺構の広がりを確認した。第１地点（Ｎｏ１４）は対象地の東端部に位置し、弥生時代の所産と思われる柱穴・土壙を検出した。第２地点（Ｎｏ８１～８５，１３５，１３７，１３８）は、対象地の北西部に位置し、溝・土壙・小穴を検出した。埋土及び遺物の検出状況からほとんどが中世のものと思われ、何条かの溝を確認しているが、集落の区画溝になる可能性もある。
	・出土遺物	弥生土器及び土師器の細片
10．所見 その他		対象地で遺構の広がりが推定される部分の面積は約４６，８３０㎡である。対象地北西部に中世の遺構が広がっており、現集落の周辺に残存する堀も、中世当時の姿を残している可能性がある。

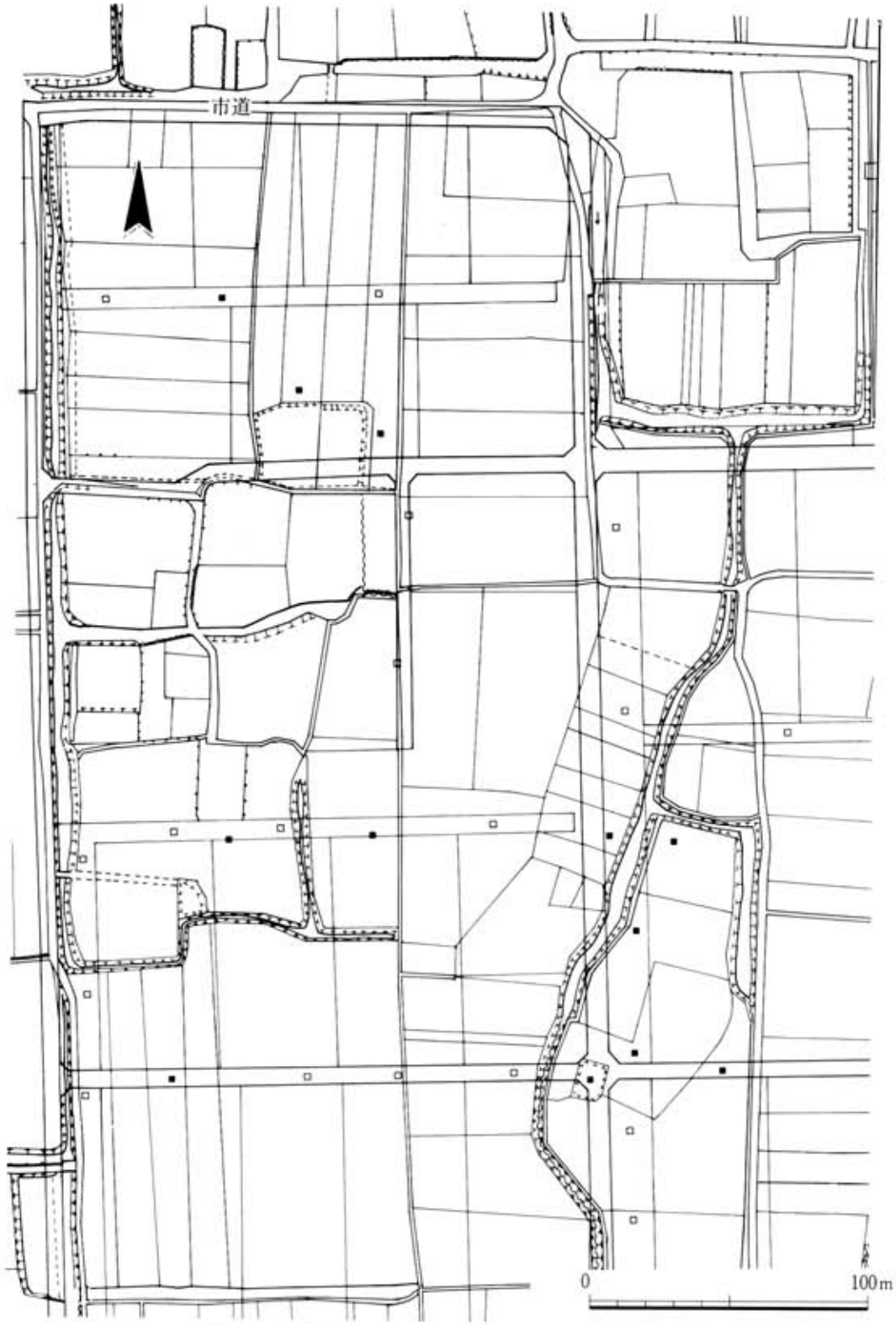


図15　佐賀市：金立南部地区試掘溝設定図

図16　　佐賀市：金立南部地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　金立北部地区
2．調査対象地所在地		佐賀市金立町大字千布
3．調査対象面積（ha）		１７．５ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課文化財係　事務史員　西田　巌
5．調査期間		平成３年１１月５日～平成３年１１月１４日（４日間）
6．調査対象地区の 立地		脊振山南麓に広がる平野部で巨勢川の西岸にあたる。元来、多くの丘陵が存在していたとおもわれるが、水田化によりその多くが地下げられてる。各地点に存在する高畑が、その名残りをとどめている。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地は、大野原遺跡及び野田遺跡に包括される。大野原遺跡では平成３年度に発掘調査を実施し、弥生中期～古墳初期にかけての集落跡が確認されている。
8．調査方法		水路・道路予定及び比高差のある高畑・水田を中心に、９５ケ所で機械力による試掘を行った。試掘坑の規模は２×３ｍを基本とした。
9．調査内容	・検出遺構	北側対象地では、ちょうど丘陵の谷部にあたり、２ケ所で遺物包含層を検出しただけで遺構は全く検出しなかった。 南側対象地では、２ケ所で遺構を確認した。№９，１４で竪穴住居らしきもの・土壙を検出した。
	・出土遺物	弥生土器及び土師器の細片
10．所見 その他		対象地区内で、遺跡の広がりが推定される部分の面積は、５，３３２㎡である。 遺構を確認した地点は、１ケ所は段丘上にあると思われる部分（№９）と、もう１ケ所は北からのびる丘陵上に当たる部分（№１４，№４０）である。№４０では遺構を確認していないが、褐色の地山とその上部に堆積する黒褐色の遺物包含層を検出している。さらに平成３年度発掘調査を実施している地区と近接しており、遺跡が存在する可能性が充分考えられる。 また、高畑以外の水田は、かなり地下げされており遺構が残存している可能性は薄いと思われる。

図17　　佐賀市：金立北部地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　嘉瀬地区
2．調査対象地所在地		佐賀市嘉瀬町大字萩野　鍋島町大字森田
3．調査対象面積（ha）		１４．７ha
4．調査担当者		佐賀県教育委員会　文化財課指導係　徳富則久
5．調査期間		平成３年１１月５日～平成３年１１月６日（２日間）
6．調査対象地区の 立地		嘉瀬川の東岸、国道３４号線とＪＲ長崎本線に挟まれた標高２．５～３．５ｍの低平な沖積平野。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地区内に、周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しない。対象地区からＪＲ長崎本線を越えて南側には中世の遺物散布地である萩野遺跡が、国道３４号線（北部バイパス）を越えて北東部には、弥生時代の遺物散布地である森田遺跡が存在する。
8．調査方法		掘削機及び人力により、２×２ｍ～２×３ｍのトレンチを３６ヶ所設け、遺跡有無、性格等を調査した。
9．調査内容	・検出遺構	№１０，№２９トレンチで溝状遺跡が検出された。近世以降のものと思われ、当該期の地割遺跡であろう。№２１，２２では地山である灰白色粘土質の上に２７．８㎝の暗灰色粘質土層が存在し、この層中に土師器片や青磁器片を包括しており、周辺に遺構の存在が推定される。№３６トレンチは、萩野集落枝村の北側に設けたトレンチで、現状は畑地となっているが、土師器片等を含んだ遺物包含層を検出した。
	・出土遺物	№２１，２２トレンチより、青磁碗片（中国陶磁）、土師器片が出土 №３６トレンチより土師器杯（中世末～近世初）・土錘が出土
10．所見 その他		地区北西部に遺物包含層が検出されたことから周辺に遺構の存在が考えられる。萩野集落枝村北側の畑地に設けたトレンチの所在する場所は、クリークに囲まれ環濠集落状を呈しており、ここを中止とした遺跡の広がりが考えられるが、今回の調査では遺構の存在は確認できなかった。なお、この集落の北東に「いんにゃくさん」と呼ばれている塚があり、元々この塚にあったといわれる石祠が乙護神社に移されていた。この石祠は「印鑰大明神」とされ、文政１１年３月再建となっている。この塚は計画より除外される。

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　城西第１地区・城西第２地区
2．調査対象地所在地		城西第１地区　佐賀市西与賀町大字厘外 城西第２地区　佐賀市本庄町大字正里・本庄
3．調査対象面積（ha）		城西第１地区　１８ha 城西第２地区　３７ha
4．調査担当者		佐賀県教育委員会　文化財課　指導係　指導主事　徳富則久 文化財保護主事　吉本健一
5．調査期間		平成３年１１月７日～平成３年１１月１３日（５日間）
6．調査対象地区の 立地		佐賀市街地の南西部にあたり、西を県道西与賀線が、東を県道本庄－東与賀線が走る。標高１．８～２．８ｍの低平な沖積平野で、周辺に集村が点在する。また、地区内を南北方向を主体としたクリークが縦横に走る。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		地区内に周知の埋蔵文化財包蔵地は所在しないが、地区の西に今津遺跡・南に飯盛遺跡・北東に西川内遺跡が所在する。これらはいずれも中世の遺物散布地である。また、地区内及び周辺を走るクリークが１町を基本とする幅に区画されていることから遺跡上の一時期に大規模な土地区画事業が行われることを窺わせる。
8．調査方法		掘削機により、２×２ｍ～３ｍの試掘溝を設け、遺跡の有無・性格を調査した。
9．調査内容	・検出遺構	№６・№１５・№１６・№２１・№２６・№４３・№４６・№４７・№７０～№７３・№７５・№７６・№７７・№７８・№７９・№８２・№８９・№９２・№９９トレンチで溝状遺構が検出された。また№７２では、溝に畔状遺構も伴う。№４・№３９では、土師器細片等を含む遺物包含層が検出された。
	・出土遺物	№４では、土師器の比較的大きな破片･錆化した鉄･土錘が、№８９の溝より土鍋、№９２の溝より蓮弁青磁が出土した。このほか、いくつかのトレンチで、耕作土等より土師器細片・陶磁器等が出土している。
10．所見 その他		№６・№１５・№１６・№２１・№２６・№４３・№４６・№４７・№６９・№７０～№７３・№７８・№７９・№８２トレンチで検出された溝跡は、近世以降の耕作に伴う遺構と考えられる。これらは、本来地区全体に広がっているものと考えられるが、検出したトレンチからの密度より残りの良さ、あるいは改変の頻繁さを窺わせるものがある。№４６・№４７・№７５・№７６・№９２が検出された溝は、クリークを埋めたもので、とくに№７５のものは、地元の人も「どじょう堀」という名称で記憶しているものであった。№８９・９２で検出された溝跡は、中近世の遺物を包含しているが、このことは、このトレンチを設けた集落を中心とした地域に遺跡が存在する可能性を強く示唆するものといえよう。

1．調査対象地区名（工事区名）		佐賀市　北川副地区
2．調査対象地所在地		佐賀市北川副町大字江上屋敷田
3．調査対象面積（ha）		１９ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課　文化財課　角信一郎
5．調査期間		平成３年１１月２１日～平成３年１１月２６日（４日間）
6．調査対象地区の立地		佐賀市城の南東部に位置し、福満寺周辺の住宅を囲むように標高２．１～２．８ｍを測る水田が広がっている。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		対象地区のほぼ全域が中世の福満寺跡・江上館跡にあたる。また福満寺には貞和年間（１３４５～５０）に描かれたと伝えられる伽藍配置絵図が残っている。
8．調査方法		掘削機により、２ｍ×２ｍの試掘坑を水路及び道路予定地に６３ケ所設定し調査を行った。
9．調査内容	・検出遺構	６ケ所で遺構を検出した。福満寺の南方、水路予定地のNo.48・49・50及びNo.63トレンチで、溝状遺構及び小穴を検出した。また、福満寺東方の水路予定地のNo.33トレンチで井戸状遺構１基、No.39トレンチで小穴を検出した。
	・出土遺物	土師器・瓦器・青磁片等を対象地区全域にわたって、特に集落周辺で比較的多く検出した。
10．所見その他		対象面積１９０，０００㎡中５，１１１㎡の遺構の広がりを確認した。また、No.33・39トレンチで遺構を検出したが、それぞれ単独でその周辺から遺構を検出することはできなかった。

1．調査対象地区名（工事区名）		佐賀市　巨勢地区
2．調査対象地所在地		佐賀市巨勢町大字修理田
3．調査対象面積（ha）		１８．７ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課　文化財係長　福田義彦
5．調査期間		平成３年１１月２０日～平成３年１１月２２日（３日間）
6．調査対象地区の立地		巨勢川と焼原川の間に広がる水田で、標高３～３．３ｍを測る。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		対象地区内に周知の埋蔵文化財包蔵地はない。地区北東約３００ｍに瓦町遺跡が存在する。瓦町遺跡は平成２年度に発掘調査を実施し、弥生時代中期の土壙群が検出されている。
8．調査方法		４８ケ所の試掘坑を設定し、掘削機により掘り下げた。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出しなかった。
	・出土遺物	No.33トレンチから中世の土師器（杯・甕）細片が少量出土した。他地点からの流れ込みによるものと考える。
10．所見その他		確認調査の結果、遺跡は存在しないものと判断する。

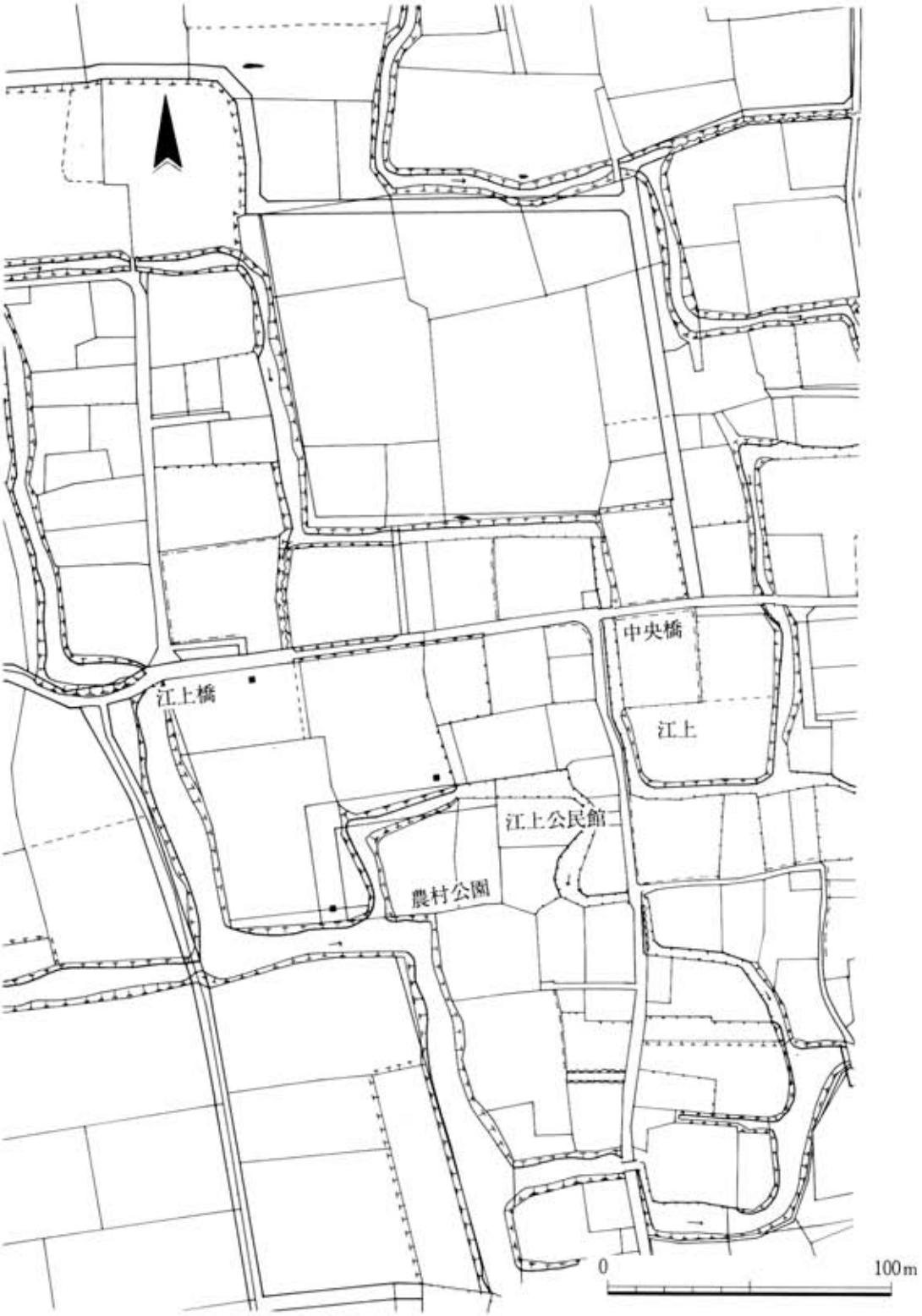


図18　佐賀市：北川副地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　兵庫南部地区
2．調査対象地所在地		佐賀市兵庫町大字瓦町字千住外
3．調査対象面積（ha）		３８．５ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課　文化財係長　福田義彦
5．調査期間		平成３年１１月１１日～平成３年１１月１８日（６日間）
6．調査対象地区の 立地		焼原川流域の東西に広がる平均標高３．５ｍの水田となっている。周辺にはクリーク（堀）が縦横に走っている。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地の南側には牟田寄遺跡がある。この遺跡は平成元年度にＡ．Ｂ．Ｃ．Ｄ地区（３，０００㎡）平成３年度にＥ地区（４，７９５㎡）の発掘調査を実施した。その結果弥生時代から中世にかけての遺物・遺構を検出した。
8．調査方法		１１６ケ所の試掘溝を設定し、掘削機と人力により掘り下げた。
9．調査内容	・検出遺構	１７ケ所のトレンチで遺構を検出した。 遺構の種類には土壙・溝・小穴などがある。
	・出土遺物	弥生土器－甕・杯片 土師器－杯片
10．所見 その他		調査対象地区の北西部で新たな遺跡（忠兵衛屋敷遺跡）を確認した。 千住集落西側で確認した遺跡（千住遺跡）を合わせ、対象地区内で４２，５００㎡の広がりになるものと思われる。

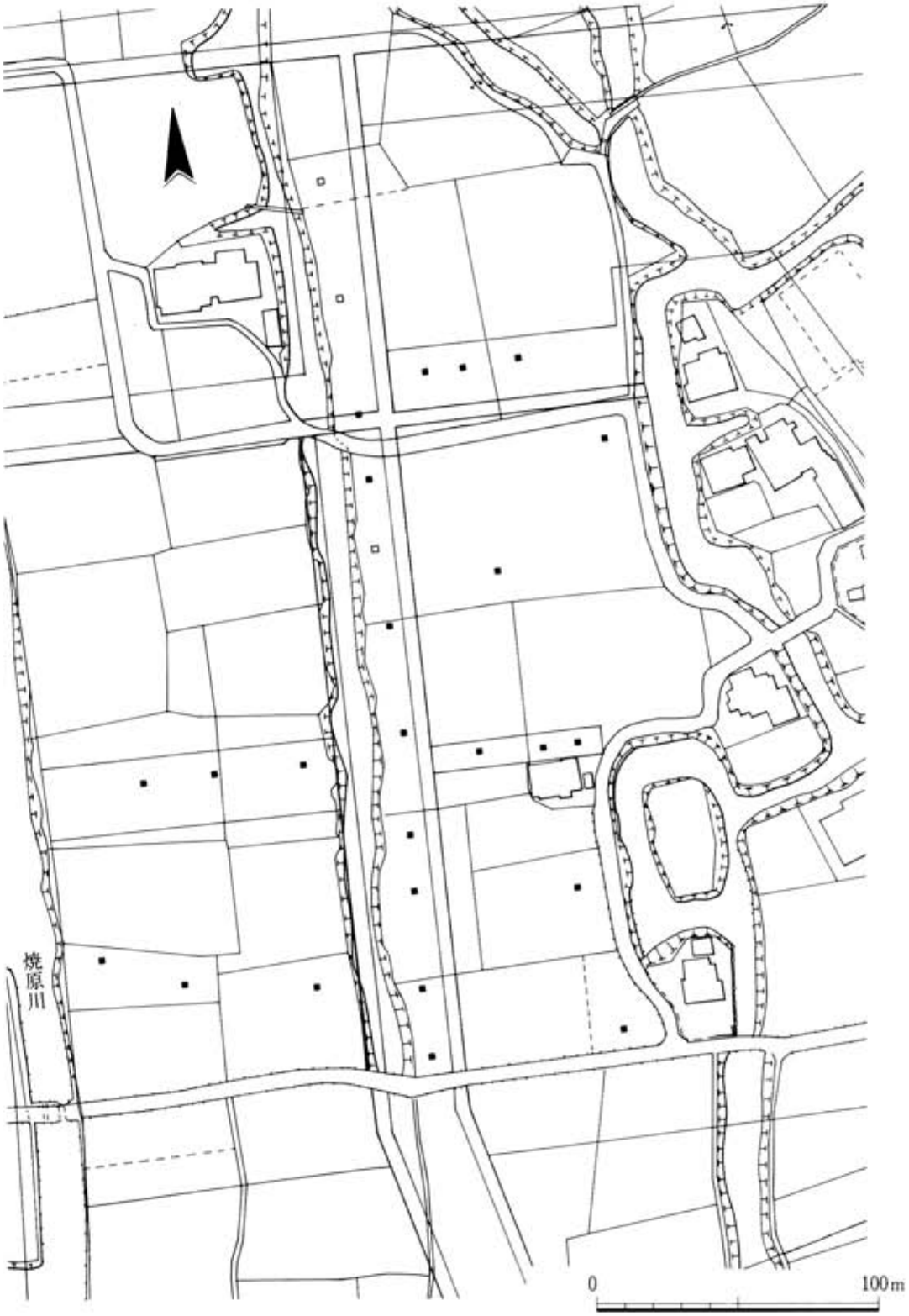


図19　　佐賀市：兵庫南部地区試掘溝設定図(1)

図20　　佐賀市：兵庫南部地区試掘溝設定図(2)

1．調査対象地区名 （工事区名）		佐賀市　江頭地区
2．調査対象地所在地		佐賀市鍋島町八戸溝
3．調査対象面積（ha）		４０．２ha
4．調査担当者		佐賀市教育委員会　文化課文化財係　前田達男　角信一郎
5．調査期間		平成３年１１月１８日～平成３年１１月２２日（５日間）
6．調査対象地区の 立地		嘉瀬川の東側、北の国道３４号線、南のＪＲ長崎本線に挟まれた標高２．６ｍ～３．２ｍを測る水田が広がっている。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		調査対象地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地外である。周辺には国道３４号線を越えた北に弥生時代の森田遺跡、ＪＲ長崎本線を越えた南に中世の五龍神社遺跡、萩野遺跡がある。
8．調査方法		掘削機により２ｍ×２ｍの試掘坑を水路及び道路予定地に７９本設定し調査を行った。
9．調査内容	・検出遺構	対象地区内にある集落の北西部の６ケ所で遺構を検出し２地点で遺跡の広がりが考えられる。１地点（№１７・１８・１９・２４）は水路予定地で土壙・溝状遺構及び小穴を検出した。２地点（№３３・３９）は道路予定地で溝状遺構及び小穴を検出した。
	・出土遺物	瓦器・土師器片及び石鍋片を検出した。
10．所見 その他		対象面積４０２，０００㎡中、１地点１９，１５０㎡、２地点８，０７０㎡計２７，２２０㎡の遺構の広がりを確認した。また今回調査対象地は周知埋蔵文化財包蔵地外であるが、遺構を検出した南の集落内に「大西屋敷」という地名が残っていることから『大西屋敷遺跡』として周地化する必要がある。

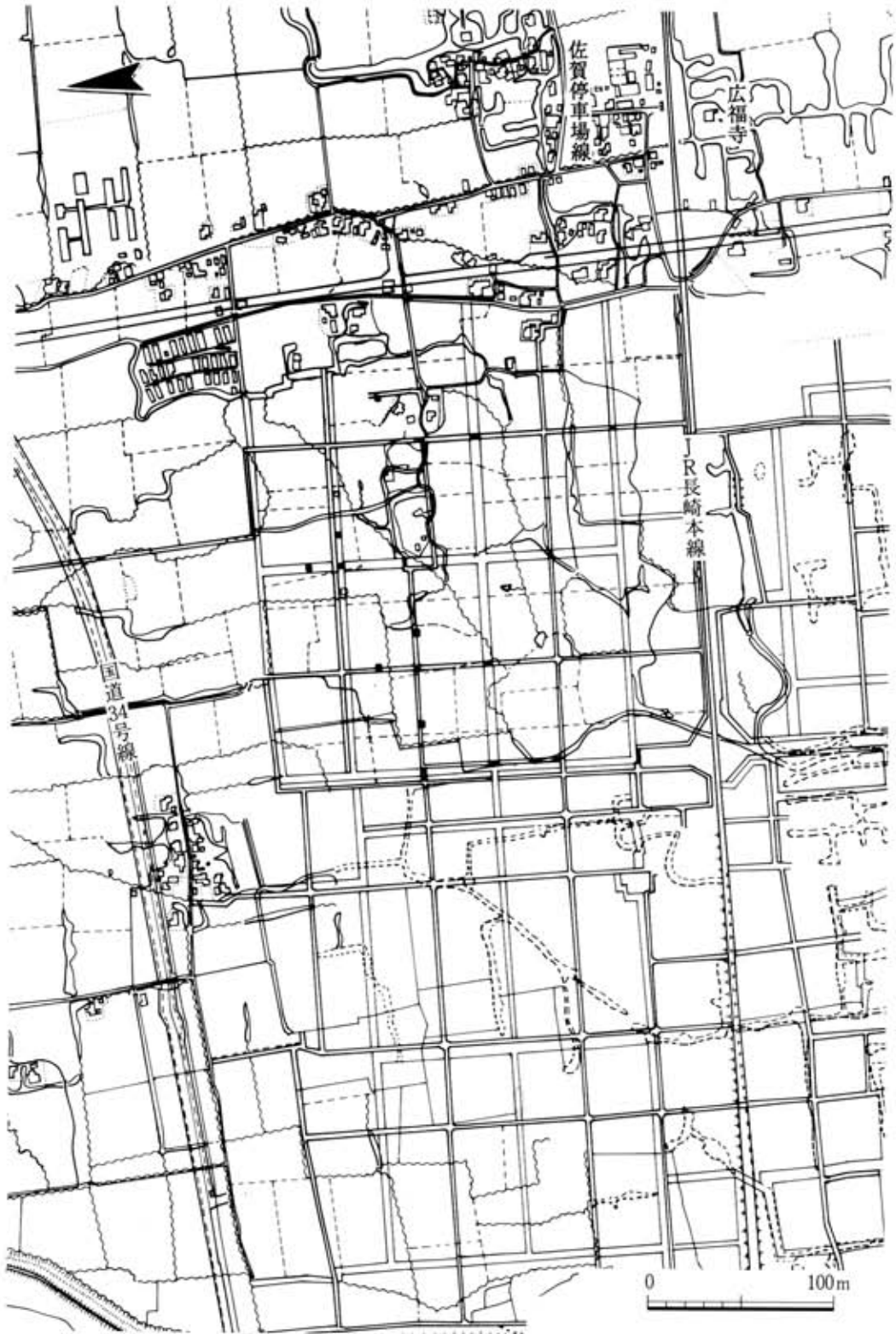


図21　　佐賀市：江頭地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		川副町　川副北部地区・川副中部地区
2．調査対象地所在地		佐賀郡川副町大字南里・大字西古賀
3．調査対象面積（ha）		川副北部地区　２０ha 川副中部地区　　５ha
4．調査担当者		佐賀県教育委員会　文化財課指導係長　天本洋一
5．調査期間		平成３年１１月１２日～平成３年１１月１５日（４日間）
6．調査対象地区の 立地		佐賀平野の南部、川副町の北部に位置し、標高３ｍ程の低平な沖積平野に立地している。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		調査対象地区の北部、南里集落には、中世の西南里、東南里遺跡があるが実態は明らかではない。調査対象地の北東１．５kmの佐賀市新村に中世の新村遺跡が、また東２kmの諸富町には中世の三重村中遺跡がある。 また川副中部地区は中世の鰐江遺跡の範囲に含まれる。
8．調査方法		川副北部地区は国営・県営幹線水路、支線非水路などの水路予定地に、８１ケ所のトレンチ（２ｍ×２ｍ）を、川副中部地区は削平予定地に２ケ所のトレンチを設定して、掘削機にて掘り下げ、遺跡の存否を確認した。
9．調査内容	・検出遺構	川副北部地区は、①層耕作土②層褐色土③層灰褐色土④層灰褐色泥質土となり、いわゆる遺構面がある土層は検出できなかった。 川副中部地区は①層・表土・耕作土②層黒褐色土③層灰黒褐色土（地山）となり、№２トレンチから旧クリーク跡を検出したのみで、遺構は、検出していない。
	・出土遺物	川副北部地区 ２０ケ所のトレンチの②層中から摩滅した土師器の細片が出土しているが、いづれも流れ込みと考えられる。また№21から焼夷弾の一部が出土した。戦時中この周辺に落とされたものである。
10．所見 その他		川副北部地区 今回確認調査を行った箇所は、集落からかなり離れていることもあり遺構や、遺物は検出しなかった。しかし来年度以降は、集落に接近した箇所が確認調査の対象地区となり、今後注意を要する。 川副中部地区 今回確認調査では遺構を検出しなかったが、平成２年度に近隣地の調査で多数の遺跡が確認されており、また地形や、地山の状況から遺跡の範囲に含まれるものと思われる。

図22　　川副町：川副中部地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名（工事区名）		多久市　多久原地区　（林道山頭線）
2．調査対象地所在地		多久市北多久町大字多久原（松ヶ原）
3．調査対象面積（ha）		
4．調査担当者		多久市教育委員会　事務史員　平嶋文博
5．調査期間		平成３年１１月６日～平成３年１１月７日（１．５日間）
6．調査対象地区の立地		天山山系より派生した山稜の谷間で、西方の今出川に下る中程に位置する。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		対象地西方の丘陵上に旧石器・縄文時代の遺物散布地である。八天山遺跡が、南西の扇央部に縄文時代・中世の遺物が出土した。四下大丹遺跡が存在する。
8．調査方法		作業員の人力により林道路線予定地に８ケ所の試掘坑を設定して掘り下げた。
9．調査内容	・検出遺構	№３トレンチより遺物包含層を検出した。
	・出土遺物	中世の石鍋片・土師器片及び黒曜石片・サヌカイト片が出土。
10．所見その他		対象地区内に、約７０㎡の範囲に広がる中世の遺物包含層が存在するものと思われる。

1．調査対象地区名（工事区名）		富士町萓木地区（農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業）
2．調査対象地所在地		富士町
3．調査対象面積（ha）		全長５９５ha
4．調査担当者		佐賀県文化財課指導係　主査　松尾吉高
5．調査期間		平成３年１１月２２日～平成３年１１月２２日（１日間）
6．調査対象地区の立地		嘉瀬川の支流の天河川の左岸の河岸段丘に位置する。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		対岸の萓木部落の西側には縄文時代の散布地である萓木遺跡が存在する。
8．調査方法		２×２ｍの試掘溝を２ケ所設定し、作業員によって掘り下げる。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出しなかった。
	・出土遺物	なし
10．所見その他		調査対象地区内には遺跡は存在しないと思われる。

3．佐賀南部地区の調査

図23　　佐賀南部地区周辺地形図（１：100.000）

30 黒　　牟　　田（武雄市）

31 神　　山（大町町）

1．調査対象地区名 （工事区名）		武雄市黒牟田地区（新農村定住）
2．調査対象地所在地		武雄市武内町大字真手野
3．調査対象面積（ha）		3ha
4．調査担当者		武雄市教育委員会　文化課　事務史員　原田保則
5．調査期間		平成3年11月11日～平成3年11月12日（1日間）
6．調査対象地区の 立地		当該地区は狭い谷水田に位置しており、標高84m～106mを測る。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		周辺には史跡、錆谷窯跡や広高麗窯跡が東側にあり、北側には七曲窯跡が存在する。
8．調査方法		掘削機により、削平を受ける部分について、10ケ所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	№3及び№5より多数の陶片が出土した。時々№3では、焼土も明瞭であり、物原の可能性が強い。№5は陶片が出土する埋土が周辺と同色である。
	・出土遺物	№3及び№5より陶器が出土。器種は皿・椀・鉢・甕等があり、№3の皿には胎土目が残っており、17世紀初頭～前半の時期が想定される。
10．所見 その他		検出した遺構は七曲窯跡の物原の一部と考えられ、№3地点で深さ0．4m程を測る。出土した陶片から17世紀前半頃の物と考えられる。

図24　　武雄市：黒牟田地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名 （工事区名）		大町町　神山地区　（臨時石炭鉱害復旧事業）
2．調査対象地所在地		杵島郡大町町大字大町今寺
3．調査対象面積（ha）		１０．２４ha
4．調査担当者		佐賀県教育委員会　文化財課　指導係　徳富則久
5．調査期間		平成３年１１月１４日～平成３年１１月１９日（４日間）
6．調査対象地区の 立地		杵島平野の北部、聖岳より南に延びる丘陵の間に形成された扇状地状の水田部分。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		対象地の南側に縄文～中世の遺物散布地である杉谷遺跡や今寺遺跡が、対象地区に挟まれた尾根上に縄文・古墳時代の遺物散布地である込堂遺跡が、地区北部に縄文時代の遺物散布地である神山地区が所在する。
8．調査方法		掘削機及び人力にて９１ケ所の試掘溝を設定し、遺跡の有無・性格等について調査した。
9．調査内容	・検出遺構	今寺遺跡として周知されている部分に設けたＮｏ１２・１３・１６・１７・１８・２５・２６・４３・４４トレンチで、柱穴・溝等の遺構が検出された。また、Ｎｏ５２・５３でも小穴が島状に検出されたが、小屋のようなものか。
	・出土遺物	土器小片が出土。
10．所見 その他		今寺遺跡北側で検出された遺構は、過去に調査された今寺遺跡に連続するものと考えられる。

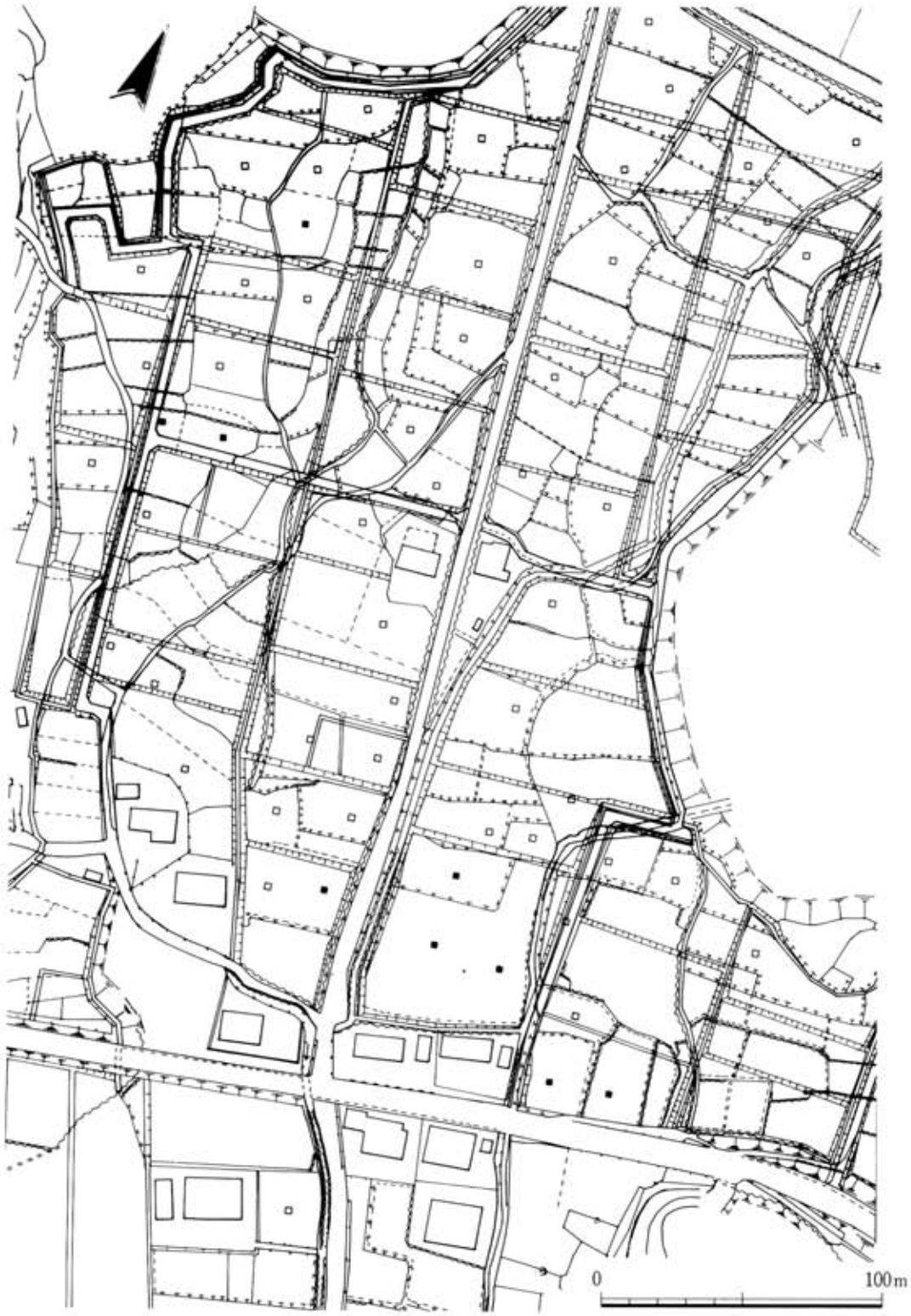


図25　　大町町：神山地区試掘溝設定図

4．佐賀北部地区の調査

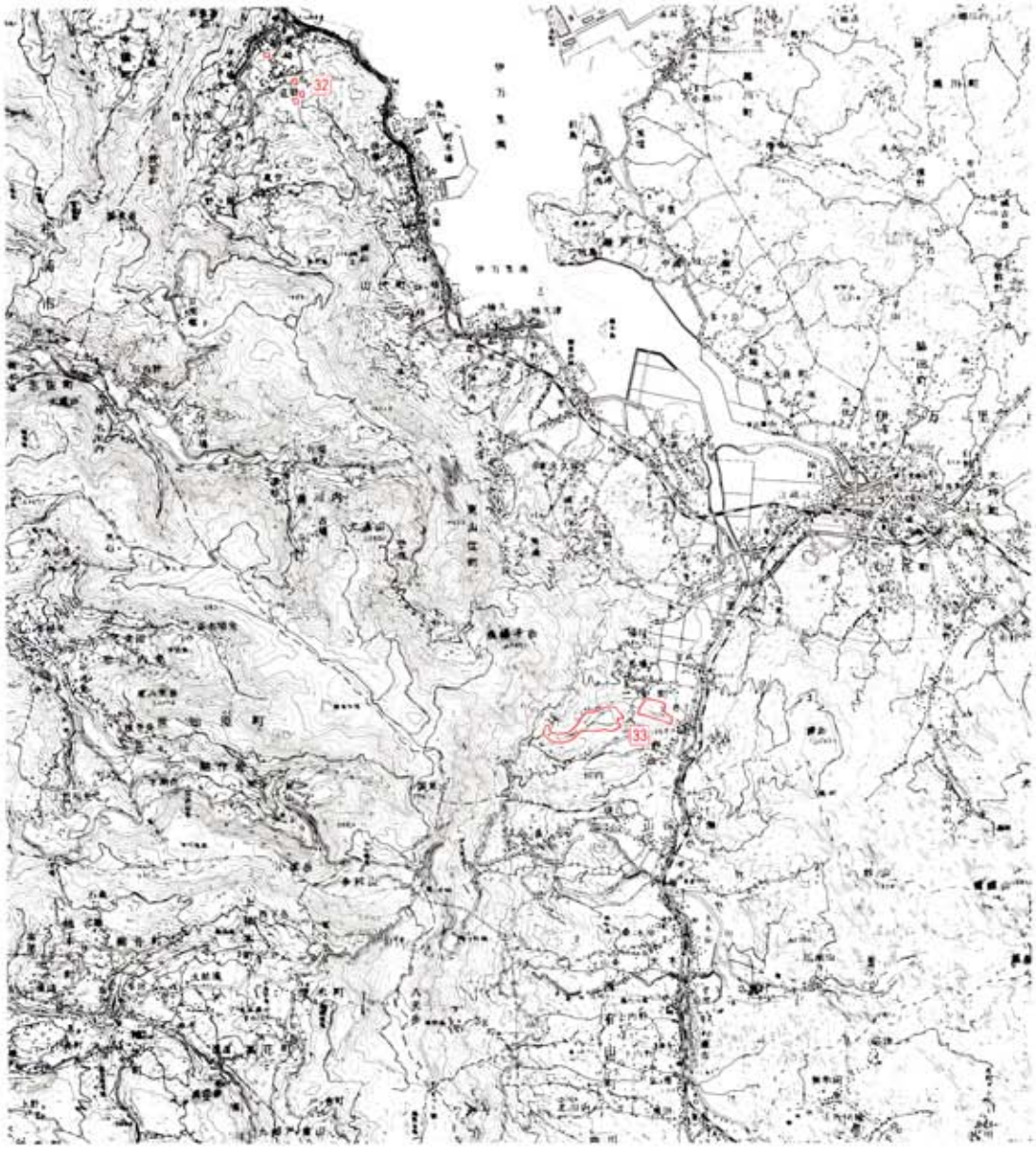


図26　　佐賀北部地区周辺地形図（１：100,000）

32 牧ノ地・立岩（伊万里市）

33 中　　里（伊万里市）

34 立　　部（西有田町）

1．調査対象地区名 （工事区名）		伊万里市　牧ノ地地区・立岩地区（国営圃場整備事業）
2．調査対象地所在地		牧ノ地地区－伊万里市山代町大字久原字脇ノ谷　他 立岩地区－伊万里市山代町大字立岩字柿田代　他
3．調査対象面積（ha）		牧ノ地地区－１５ha 立岩地区－１５ha
4．調査担当者		伊万里市教育委員会　社会教育課　事務史員　船井向洋
5．調査期間		平成３年１２月９日～平成３年１２月１９日（９日間）
6．調査対象地区の 立地		牧ノ地地区－東側に伊万里湾を望む。北から南方向に派生する丘陵上に位置する。立岩地区の東にある。標高は１１３～８３m、現状は果樹園及び荒地である。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		牧ノ地地区－城休遺跡内に位置する。周辺には周知遺跡が隣接しており、高群遺跡・御手洗遺跡などがあるが、確認調査がほとんど実施されておらず、詳細は不明である。 立岩地区－足山遺跡・牧ノ地遺跡・柿田城遺跡・長久保遺跡内に位置する。周辺には周知遺跡が隣接しているが、確認調査がほとんど実施されておらず、詳細は不明である。
8．調査方法		掘削機と人力により、削平を受ける部分を中心に牧ノ地地区－３２箇所立岩地区－２６箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	両地区とも、明確な遺構は確認されなかった。
	・出土遺物	牧ノ地地区－遺物は出土しなかった。 立岩地区－№１８の層から土師質土器が５片、出土したが周辺トレンチからは遺物は出土しなかった。また、他のトレンチに比して層が厚く客土の可能性があると思われる。
10．所見 その他		当初、山城と思われた遺構は確認調査の結果、違うことを確認した。他に明確な遺構は確認できなかった。

1．調査対象地区名（工事区名）		伊万里市中里地区（国営圃場整備事業）
2．調査対象地所在地		佐賀県伊万里市二里町中里字中田及び内ノ馬場地内
3．調査対象面積（ha）		２０ha
4．調査担当者		伊万里市教育委員会　社会教育課　文化係　荒谷義樹
5．調査期間		平成３年１２月９日～平成３年１２月１３日（４日間）
6．調査対象地区の立地		有田川の西岸、国見山系から東へ派生する丘陵上に立地している。標高は２５ｍ～１４５ｍで現況は段々畑である。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		調査区は、内ノ馬場遺跡内およびその隣接地である。踏査の結果、黒曜石の剥り片の散布を確認している。
8．調査方法		人力により、耕地整理予定地に４８箇所の試掘を行った。
9．調査内容	・検出遺構	１９トレ・２０トレ・２２トレ・２３トレ・３０トレ・３５トレ・３８トレ・４６トレの計８ケ所で包含層を検出するが染付片を含み、近世以降、場合によると近代以降のもの、もしくは著しい撹乱をうけているものと思われる。
	・出土遺物	黒曜石のチップが少量出土したが包含層ではなく耕作土中からの出土である。
10．所見その他		中田地区においては遺物の出土はなく問題内と思われる。内ノ馬場地区については踏査の結果、黒曜石のチップの散布があり、遺跡の可能性が高いと思われた。しかし、確認調査の結果はたしかにチップの出土はあるものの、多くが耕作土中からの出土で、明確な遺構や包含層にともなうものはなかった。内ノ馬場地区は大正年間に一度耕地整理が行われており、その際に遺跡は壊されてしまったものと思われる。

1．調査対象地区名 （工事区名）		西有田町立部地区（県単小規模土地改良圃場整備）
2．調査対象地所在地		西松浦郡西有田町大字大木乙字壁岩４４４６－４他
3．調査対象面積（ha）		１．２ha
4．調査担当者		西有田町教育委員会　文化財専門員　宮崎光明
5．調査期間		平成３年５月１６日～平成３年５月２３日（３．５日間）
6．調査対象地区の 立地		西有田町西端の八天岳麓の丘陵上にある。標高は最高１４８．７５ｍ、最低１２７．３９ｍである。調査地は小規模な谷であり、現在は棚田となっており２条麦が植えられていた。棚田は西が急で、東に行くほど穏やかである。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		調査地は北半分が壁岩遺跡として周知されているが、この他にも南には川良遺跡・横久保遺跡が、北には立木原遺跡・とどろ遺跡・東には矢杖遺跡などがあり旧石器・縄文時代の遺跡である。
8．調査方法		人力により、削平を受ける部分に１９箇所の試掘を行った。試掘坑は１．５ｍ×１．５ｍの大きさである。
9．調査内容	・検出遺構	壁岩遺跡は佐賀県遺跡地図によれば散布地との記載があるが、調査前の踏査では数片の黒曜石を採取しただけで、調査でも遺構は検出されなかった。
	・出土遺物	出土しなかった。
10．所見 その他		今回の事業区は北半が壁岩遺跡にかかっていたが、調査内容のように何ら遺構・遺物は検出されなかった。また、調査前の踏査でも数片の黒曜石を採取したのみであり、隣接する調査区外の部分でも何ら採取できなかった。地形を考慮すれば、調査区は谷部であり遺跡の存在は希薄で、北に隣接する丘陵が遺跡の中心であることが推定される。以上のように、今回事業予定地内には埋蔵文化財は認められないと判断される。

5．佐賀上場地区の調査

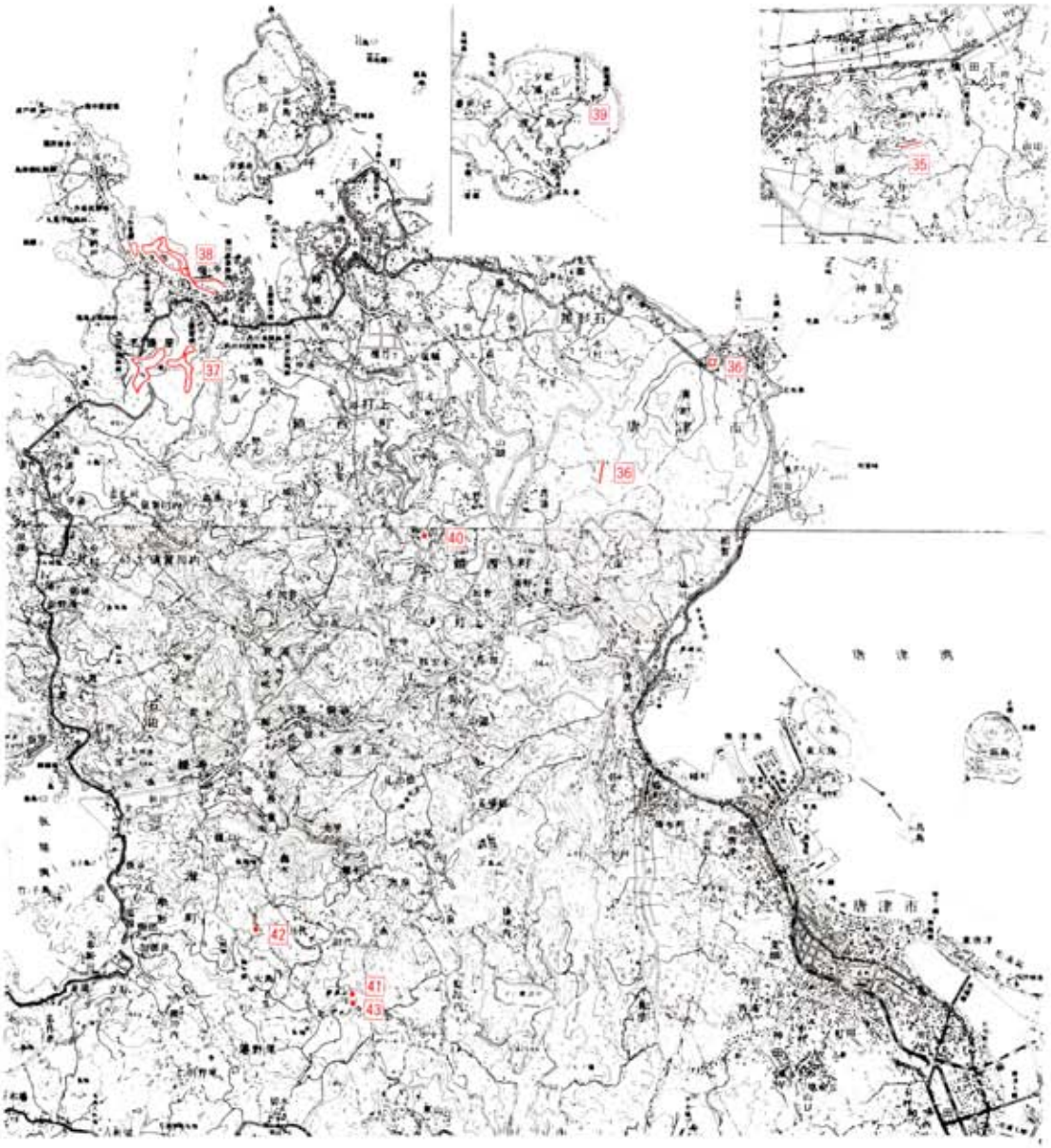


図27　佐賀上場地区周辺地形図（１：100,000）

35 鏡	山（唐津市）	38 麦	原（鎮西町）	41 大	島（玄海町）
36 湊	（唐津市）	39 野	中（鎮西町）	42 牟	形（玄海町）
37 赤 王 毛 1	区（鎮西町）	40 打	上（鎮西町）	43 嘉	藤（肥前町）

1．調査対象地区名 （工事区名）		唐津市鏡山線（林業地域総合整備事業）
2．調査対象地所在地		唐津市鏡字大平６０５２－２８、半田字大巽４４８－１１３－１１４
3．調査対象面積（ha）		延長８５０ｍ
4．調査担当者		唐津市教育委員会文化財課　田島龍太
5．調査期間		平成４年１月２８日（１日間）
6．調査対象地区の 立地		唐津市の東部、脊振山系の西端にあたる鏡山の山頂部に位置する。山頂は凸凹面の緩やかな平原状になっていて、中心部は現在溜池となっている。遺跡はこの溜池をめぐる斜面上にあり、調査地はこの北東部の斜面外側にあたる。
7．周辺の遺跡及び 遺跡の内容		鏡山は唐津地方で初めて先土器時代の遺跡が発見された場所であり、山頂部の平坦面を中心に先土器時代～縄文時代の遺跡が分布し、弥生～古墳時代の遺跡も見られる。古墳時代以降歴史時代には烽など特殊遺構の存在も指摘されている。また、山麓の砂丘上には中世期の遺跡が集中的に遺存していてその中心として鏡神社の経塚群、礎石建物群といった遺構も発見されており、とくに前者は脊振山系とのつながりを考える重要な位置を占めている。
8．調査方法		当該工事予定地に２ｍ×２ｍのトレンチ２箇所を設定し、遺構、遺物包含層の有無を調査した。
9．調査内容	・検出遺構	各トレンチとも地山直上の礫混じり層まで掘り下げた。掘り下げ後は、土層を略測し、写真撮影ののち埋め戻した。 ２トレンチともに上部に大型礫が露出している状況からかなり浅い位置で地山面が確認されると考えていたが、比較的に堆積層は厚く、礫は上部に見られるだけであった。しかし、遺構、包含層は認められなかった。
	・出土遺物	表土より、土師器の小破片がわずかにみられたが、堆積層に遺物はみられなかった。
10．所見 その他		本地点は遺跡の端部にあたり、遺構の存在は認められない。

1．調査対象地区名（工事区名）		唐津市上場Ⅱ期地区　湊工区（県営畑地帯総合土地改良）
2．調査対象地所在地		唐津市湊町字松本１２２４番地
3．調査対象面積（ha）		延長４００m
4．調査担当者		唐津市教育委員会　文化財課　田島龍太
5．調査期間		平成４年３月２４日～平成４年３月２５日（２日間）
6．調査対象地区の立地		調査地点は平成２年度に実施した圃場整備事業に接する部分にあたり、南側の丘陵部より延長する微高砂丘に立地する。砂丘は現況畑地、水田、宅地によってかなり削平、造成が繰り返されているようであり、かつては丘陵部からの自然流路に沿って起伏や水平の凸凹があったものとされる。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		遺跡のある湊地区は唐津市の西部の海岸にあり、第三紀花崗岩を基盤とし、数度の噴出の結果形成された東松浦熔岩大地（上場台地）の東側にあたる。周辺は南、西が台地の端の急斜面となり、北、東を玄海灘に面している。こうした環境より湊周辺は各時代を通じて海とのつながりが強く、弥生時代の湊中野遺跡、古墳時代の鼓遺跡があり、対岸の神集島には鬼塚古墳群などが築造されている。
8．調査方法		工事予定区に沿って１m×２～３mのトレンチ７箇所を設定し、遺構、遺物の有無を確認した。
9．調査内容	・検出遺構	各トレンチでは削平、盛土がみられるものの砂丘の旧状が確認できる堆積状況が観察された。丘陵添いのNo.４，５，６，７では上部層の削平と撹乱がみられるが、下部には黄褐色の砂丘砂が明瞭に観察され、その境部には遺物（土器破片）の混入する層がみられる。No.１，２，３では低地侵入部と考えられ堆積層も厚いが、遺物は出土していない。
	・出土遺物	南側のNo.４，５，６，７トレンチの撹乱層より縄文～現代（陶磁器）の遺物が出土した。
10．所見その他		該当調査区は湊松本遺跡の北西側にあたり、遺構は見られない。これより西では河川まで微高地が続くことより遺跡が広がる可能性があるが、削平が著しく包含層のある凹面部の検出はみられない。

1．調査対象地区名（工事区名）		鎮西町赤玉毛地区（区画整理）
2．調査対象地所在地		佐賀県東松浦郡鎮西町大字名護屋字神ノ木
3．調査対象面積（ha）		9．2ha
4．調査担当者		鎮西町教育委員会　社会教育課　主事　明瀬慎吾
5．調査期間		平成3年10月7日～平成3年10月9日（3日間）
6．調査対象地区の立地		豊臣秀保陣跡の所在する丘陵の東側裾部に立地。標高18～20m・現況は水田である。
8．調査方法		豊臣秀保陣のほか、堀秀治陣跡、鍋島直茂陣跡、南部信直陣跡等の諸大名の陣跡が点在する。
8．調査方法		幅2m、長さ2～6mのトレンチを7ケ所限定、掘削はすべて作業員の人力によった。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出されなかった。
	・出土遺物	遺物はすべて、水田耕作土および床土（客土）から出土した。 土師質土器片、黒曜石片、安山岩剥片、青磁片が出土している。
10．所見その他		遺物はすべて水田耕作土および床土からの出土であり、西側丘陵よりの流れ込みと考えられる。

1．調査対象地区名（工事区名）		鎮西町麦原地区
2．調査対象地所在地		鎮西町大字名護屋字飯塚、神田、古館
3．調査対象面積（ha）		区画整理A＝18．5ha
4．調査担当者		鎮西町教育委員会　社会教育課　主事　堀苑孝志、明瀬慎吾
5．調査期間		平成3年12月13日～平成4年3月30日（45日間）
6．調査対象地区の立地		・区画整理区域…丘陵と谷水田(湿田が多い)との接点に立地。標高21.5m～25m。現況は水田及び畑。 ・支線道路…かなり起伏に富んだ丘陵・谷間を路線が通るが、大半は現道拡幅となっている。調査箇所は畑（標高45m前後）、山林（標高30～33m）、ミカン畑（標高31～36m）の3地点。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		山内橘内陣跡、長束正家陣跡、加藤出羽守陣跡、蒲生飛騨守陣跡、足利義昭陣跡、氏家内膳陣跡等の陣跡が点在する。
8．調査方法		区画整理区域…2～3×2～3mのトレンチを6ケ所設定。 支線道路部分…幅1．5m～2m、長さ2～3mのトレンチを10ヶ所設定。 すべて人力により掘り下げた。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出されなかった。
	・出土遺物	区画整理区域・支線道路部分ともに遺物はすべて耕作土・表土から出土した。 黒曜石片・土器片・陶磁器片が出土している。
10．所見その他		遺物はすべて耕作土中および表土からの出土で、丘陵部よりの流れ込みと考えられる。

1．調査対象地区名（工事区名）		鎮西町　野中地区
2．調査対象地所在地		東松浦郡鎮西町馬渡島字平戸峰・字柳ヶ谷
3．調査対象面積（ha）		
4．調査担当者		鎮西町教育委員会　社会教育課　主事　堀苑孝志
5．調査期間		平成３年１２月２０日～平成４年１月２８日（４日間）
6．調査対象地区の立地		1　平戸峰は海に面する斜面を登りきった平地に位置する。現況は畑地である。 2　柳ヶ谷は南へ延びる緩斜面に位置し、現況は植林である。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		1　平戸峰　馬場ノ辻遺跡（縄文時代遺物散布地） 2　柳ヶ谷　切立遺跡（旧石器・縄文時代遺物散布地）
8．調査方法		２×２ｍの試掘坑を平戸峰に２箇所、柳ヶ谷に３箇所設定した。掘削は全て作業員の人力で行った。
9．調査内容	・検出遺構	1　平戸峰　２箇所設定した試掘坑とも風化岩盤まで削平されていた。 2　柳ヶ谷　約50ｍ掘り下げた所で風化岩盤層に達した。
	・出土遺物	遺物は検出していない。
10．所見その他		平戸峰・柳ヶ谷とも、遺跡の範囲内であったが、遺跡は削平されていた。

1．調査対象地区名（工事区名）		鎮西町　打上地区（打上ダム周辺整備）
2．調査対象地所在地		東松浦郡鎮西町大字打上字西淵山２５６０－１・２５６０－２１
3．調査対象面積（ha）		２９８ha
4．調査担当者		鎮西町教育委員会　社会教育課　主事　堀苑孝志
5．調査期間		平成４年１月８日～平成４年２月４日（１０．５日間）
6．調査対象地区の立地		上場台地上に位置し、幾筋もの支谷によって多くの丘陵が形成されている。この起伏の多い地形をうまく利用したダムが山間部に営まれ、調査対象の遺跡はこのすぐ南側にある。標高８９ｍの南北に緩やかな斜面をえがく小高い丘陵で、現況は松と原生林に覆われている。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		東淵山Ⅰ遺跡、東淵山Ⅱ遺跡、東淵山Ⅲ遺跡、尾箱遺跡いずれも縄文時代の遺物散布地である。
8．調査方法		工事の影響で遺跡が破壊される地点を中心に調査区を設定した。さらに北へと延びていく緩斜面に沿って２×22ｍのトレンチとこれに垂直に交わる東西方向に２×13ｍのトレンチを設定した。
9．調査内容	・検出遺構	土坑１基
	・出土遺物	石鏃１点　黒曜石フレーク１６点
10．所見その他		・土坑は全体的に被熱の影響を受け赤褐色に変色し硬化していた。特に外周はそれが顕著に現れていた。以前行った試掘調査でも、これに類似した土坑を１基確認している。 ・遺物は土器が１点あるが、小片なので時代は不明である。 この周辺では試掘調査時に数点の弥生土器が出土している。

1．調査対象地区名（工事区名）		玄海町大島地区（上場農業水利事業１０号ファームポンド）
2．調査対象地所在地		東松浦郡玄海町大字牟形字大島８０１－１番地
3．調査対象面積（ha）		３９８．８ha
4．調査担当者		玄海町教育委員会　主事補　有光宏之
5．調査期間		平成４年１月２８日～平成４年１月３１日（３．５日間）
6．調査対象地区の立地		標高２５５ｍ前後で、現在は山林である。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		・周辺の遺跡としては、竹迫遺跡が隣接している。
8．調査方法		調査作業員の人力により、工事で削平を受ける部分に３箇所（２ｍ×２ｍ）と１箇所（１ｍ×２ｍ）の試掘溝を設定し、調査を行った。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出していない。
	・出土遺物	彫器、ナイフと思われるもの各１点その他黒曜石３点及び安山岩が検出された。
10．所見その他		調査対象地において４箇所トレンチを設定し調査を行った。調査の結果、トレンチでは２０㎝前後掘り下げると、黒曜石が１点出土し層目（遺物包含層）より、３点（ナイフ、彫器）出土した。２・４トレンチより黒曜石が各１点出土した。３トレンチからは遺物・遺構とも検出されなかった。

1．調査対象地区名（工事区名）		玄海町牟形地区（上場農業水利事業９号ファームポンド）
2．調査対象地所在地		東松浦郡玄海町大字牟形字稗田７３１－５番地
3．調査対象面積（ha）		０．２４ha
4．調査担当者		玄海町教育委員会　主事補　有光宏之
5．調査期間		平成４年１月２１日～平成４年１月２２日（２日間）
6．調査対象地区の立地		標高２０８ｍ前後　現在畑地及び果樹園
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		・周辺の遺跡としては、稗田遺跡、牧ノ地Ⅰ遺跡、牧ノ地Ⅱ遺跡が点在している。
8．調査方法		調査作業員の人力により、工事で削平を受ける部分に９箇所（２ｍ×２ｍ）の試掘溝を設定し、調査を行った。
9．調査内容	・検出遺構	遺構は検出していない。
	・出土遺物	なし
10．所見その他		調査対象地において９箇所トレンチを設定し調査を行った。調査の結果、Ａ地区では７０㎝前後掘り下げたが、遺物・遺構とも検出されなかった。Ｂ地区は、耕土の下層からは地盤と見られる層が浅くあり、遺物包含層は残っておらず、遺物・遺構とも検出されなかった。

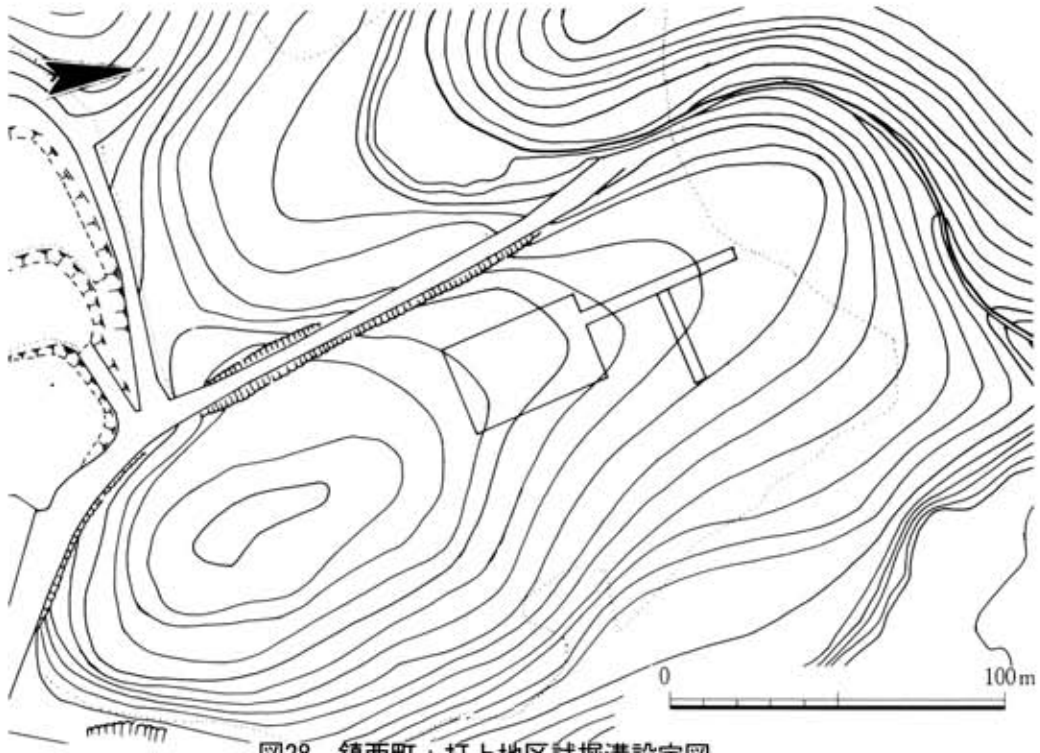


図28　鎮西町：打上地区試掘溝設定図

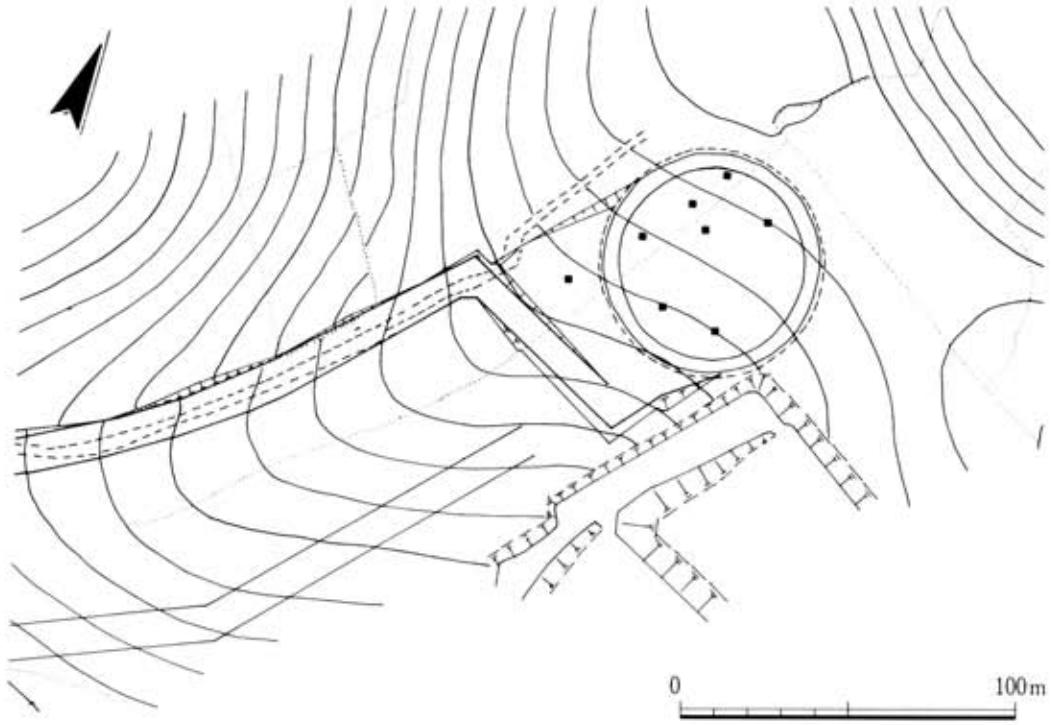


図29　玄海町：大鳥地区試掘溝設定図

1．調査対象地区名（工事区名）		肥前町　嘉藤地区（上場農業水利事業１０号ファームポンド）
2．調査対象地所在地		東松浦郡肥前町大字切木字嘉藤甲９０５－１８１
3．調査対象面積（ha）		０．１ha
4．調査担当者		肥前町教育委員会　藤井浩司
5．調査期間		平成４年１月２８日～平成４年１月３０日（３日間）
6．調査対象地区の立地		調査対象地区は、上場台地のほぼ中央部、標高２５９．９ｍの野高山の南側斜面に位置する。野高山は唐津市・玄海町・肥前町との境をなし、山頂と調査対象地区は約３０ｍの距離である。
7．周辺の遺跡及び遺跡の内容		周辺には、野高山遺跡・野高山西遺跡・加藤・遺跡・竹迫遺跡等・先土器・縄文時代の遺跡が分布している。
8．調査方法		２×２ｍトレンチ４箇所、２×１ｍトレンチ１箇所を設定し人力により掘り下げた。
9．調査内容	・検出遺構	遺跡は、玄海町側も含めると、旧石器～縄文時代の包含層が確認できた。 ３トレンチ層より不整形の土坑を検出した。最大長０．９０ｍ，最大幅０．６７ｍ、最大深０．２５ｍである。
	・出土遺物	２トレンチⅡ層より安山岩製石鏃１点、剥片１点、黒曜石製チップ１点出土 ３トレンチⅡ層より黒曜石製剥片２点出土 ４トレンチⅢ層より黒曜石製で、微細剥離ある剥片１点、層より黒曜石原石１点、土器片１点出土
10．所見その他		遺跡は旧石器時代から縄文時代のものと考えられる。また、層序は、山林のため保存状態は良好である。

Ⅳ平成３年度　発掘調査の概要

1．山田遺跡

遺跡の所在地

鳥栖市立石町字吉原

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

平成３年４月～５月

調査面積

７４０㎡

遺跡の概要

図30　山田遺跡周辺地形図（1:25,000）

山田遺跡は、鳥栖市北西部の石谷山から南下する標高約７０メートルの山麓裾に位置する。周辺の遺跡としては、北・北西の山麓部に立石古墳群、立石開拓古墳群、東の山麓裾に立石遺跡、南の笛吹山丘陵には笛吹山遺跡などが立地する。立石古墳群が円墳７基、立石開拓古墳群が円墳３基、立石遺跡が古墳時代～中世の遺物散布地、笛吹山遺跡が古墳群ならびに縄文時代～古代の遺物散布地として知られている。今回の調査対象地山田遺跡は、立石開拓古墳群から続く山麓下に位置しており、当初から古墳の存在が予測されていた。

調査は平成２年度から実施しており、今年度は設計変更で調査追加地区となった７４０㎡について発掘調査を実施した。調査の結果、新たに２基の古墳が確認され、仮にＡ・Ｂ号古墳と呼称したい。なお、平成２年度調査分とあわせ合計２０基の古墳の存在が明らかになり、この山田遺跡が一大群集墳墓地であることが判明した。古墳の状態は、Ａ号・Ｂ号とも墳丘ならびに石室上部を欠いており、石室の腰石付近以下が残存していた。古墳石室の平面プランはいずれもやや長方形を呈するもので、複室構造をなす。床にはＡ号が径１０cm～４０cm、Ｂ号が１０cm～３０cmの敷石が敷かれていた。

遺物は、Ａ号・Ｂ号古墳ともに石室の床面上を中心に、須恵器、土師器、小玉、丸玉、耳環などの装飾品、鉄鏃・刀子などの鉄製品が出土した。

調査の結果、山田遺跡は平成２年度調査分も含め未調査区域を考慮すれば、２０基以上の古墳から構成される群集墳墓地であることが明らかになった。古墳の造営時期は、出土遺物などから６世紀後半～７世紀前半と考えられる。なお、この古墳群は古墳の周溝が接するほど群集密度の高いのが特徴で、しかもそのうち最大のものは石室全長６メートル強を測る複室三重墳であり、この最大のものに限り馬具が出土したことが注意される。また、古墳の石室プランが複室を呈するものの比率が高いことが注意されるとともに、古墳は山裾の方から低地方向へ順次造営されたと考えられ石室の平面プランもやや長方形の複室構造のものから正方形の単室構造のものへと変化したことがうかがわれた。

1山田遺跡　A号墳石室全景　3A号墳石室（後室より前室）　5B号墳　石室全景（1）　7B号墳石室（後室より前室）
2A号墳石室（前室方向より）　4A号墳後室　遺物出土状況　6B号墳　石室全景（2）　8B号墳前室　遺物出土状況

2．牛原前田遺跡（略号：ＦＵＭ）

遺跡の所在地

鳥栖市養父町字前田

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

平成３年６月１日～平成４年３月３１日

調査面積

１２，０００㎡

図32　牛原前田遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

牛原前田遺跡は群石山南麓を流れる大木川と安良川に挟まれた扇状地上に位置する。この扇状地は北から南に緩やかに傾斜し、調査区の標高は約４０ｍ～５０ｍを測る。

遺跡の西を流れる安良川を北西に遡ると、筑紫氏によって整備された中世末期の城下町（山浦新町遺跡）と、その本城である勝尾城を中心とする山城群に至り、これにたいして遺跡の南方向には養父郡衛推定地の養父遺跡が存在する。

調査区は北からＡＢＣの３地区に分かれ、それぞれの概要は、Ａ区：後期の古墳群と中世の墳墓群、Ｂ区：弥生時代後期の集落跡、Ｃ区：古代～近世集落と墓域である。

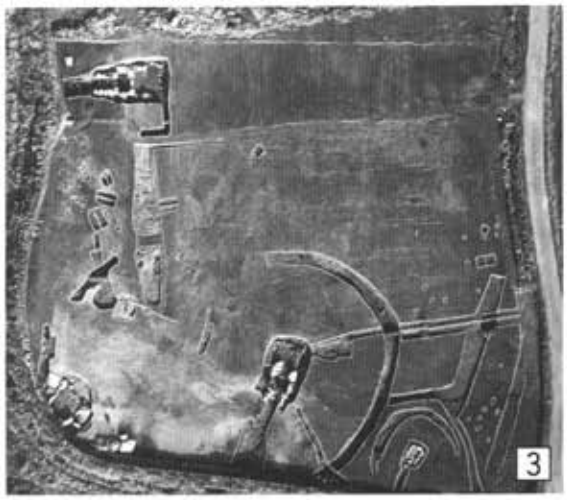
縄文時代　Ａ区において、径約８０㎝の集石遺構が２基検出された。

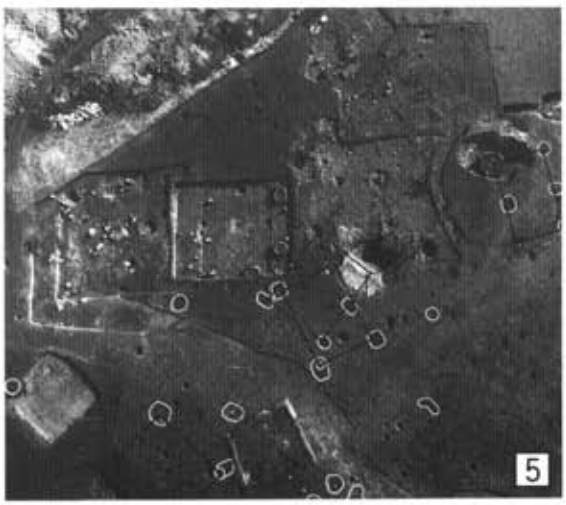
弥生時代　Ｂ区の標高４０～４６ｍの範囲に分布する。検出された遺構は、竪穴式住居３９軒（中期３、後期３６）、掘立柱建物６１棟（後期）、土壙１３基を数える。特に後期の集落では掘立柱建物が卓越しており、これらがムラの中でどのような機能を果たしていたのか、興味の有るところである。遺物はミニチュア土器を含む多量の土器類をはじめ、斧、鎌、鉇等の鉄器類が出土している。

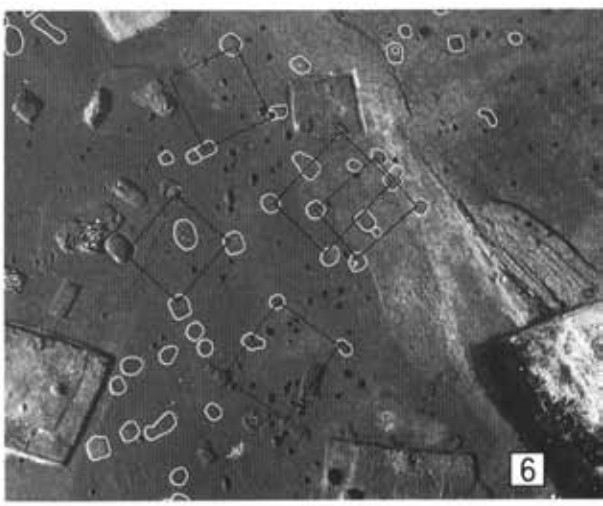
古墳時代　Ａ区の標高４６ｍ以上のラインに古墳が分布する。６世紀から７世紀にかけて築造された、合計８基の古墳が検出された。これらの古墳はいずれも墳丘を失っていたが、その全てで横穴式石室が確認された。第５号墳の石室は最も大きく、玄室長約３．２ｍ、幅３ｍの規模を有する複室構造である。また、石室主軸とほぼ直行して幅約４ｍ、深さ約１．６ｍの溝が存在するが、これが墓道となるか前方後円墳の周濠（主軸長約５０ｍ）の一部となるかは意見の分かれるところであろう。出土した遺物は、須恵器、土師器の土器類をはじめ、鉄鏃、轡等の馬具類、勾玉・小玉・管玉・耳飾り等の装飾品類が検出されている。

古代　Ｃ区において竪穴式住居１軒と柱穴群、土壙墓が検出された。

中世　Ａ区及びＣ区において、土壙墓及び柱穴群が検出され、輸入磁器の他、青銅製の箸状遺物などが出土している。







1牛原前田遺跡A区全景
2第5号墳
3第1～第4号墳
4B－1区遠景
5B－1区近景
6B－1区近景

3．高柳大塚古墳（略号：ＯＴＫ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字原古賀字二本櫻

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成３年１２月～平成４年２月

調査面積

１，１００㎡

図34　高柳大塚古墳周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

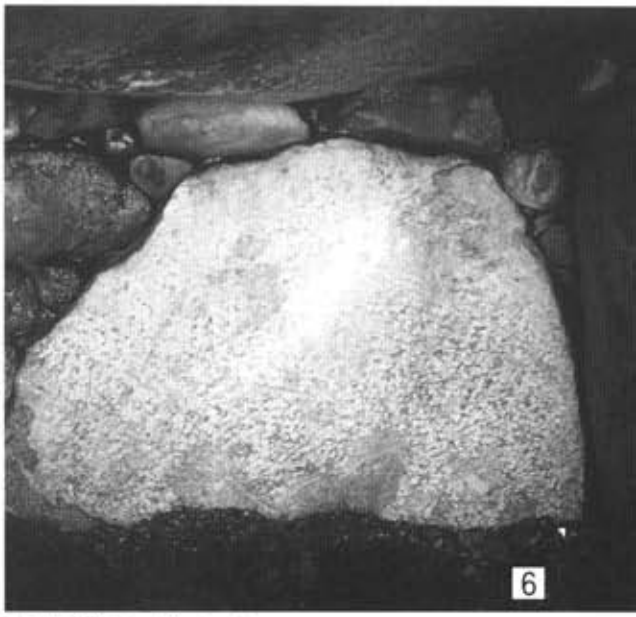
高柳大塚古墳は脊振山系より南に伸びる丘陵上に位置し、標高約６５ｍを計る。調査以前は円墳と考えられていたが今回の調査で前方部の周溝が検出され前方後円墳であることが確認された。全長約２８ｍの前方後円墳で、後円部径約１８ｍ、前方部長約１０ｍを計る。主体部は複室構造の横穴式石室で、全長約１０ｍ、玄室長４ｍ、を計り、玄室の奥壁と側壁には１枚石を使用するいわゆる巨石墳である。

周溝は、前方部全面で幅２．４ｍ、側面で幅約８ｍを計る。後円部西側の周溝は大きく広がっており本来の周溝であるかどうかは不明である。前方部の墳丘端部にはやや大きめの川原石を並べている他周溝内にも礫がみられることから葺石があった可能性が高い。

遺物は主に前方部全面の周溝内から出土し、須恵器の杯、有蓋高杯、壷、甕、横瓶、甕、大甕、土師器の高杯、鉄器片がある。杯は固体数では３０個体近くあるが、小破片になっており復元できたものは少ない。ほとんどが小型の物で小田編年のⅣ期に比定される。これに対し有蓋高杯は完形に近いものが多く、杯部の径が大きく長脚で２段透かしをもつものともたないものがあり小田編年のⅢ期に比定され杯と時期差がみられる。この他壷や甕等は小破片になっているが甕、横瓶はほぼ完形になるなど出土状況に違いが見られる。

古墳時代の遺構の他には中世の包含層及び土壙がある。包含層は厚さ１０ｍほどで調査区の西側に広がっており、土器片や陶器片、石鍋の破片等が出土した。土壙は調査区東側及び南側にあり、土器片が出土した。

今回の調査では高柳大塚古墳が県内でも数少ない終末期の前方後円墳であることが確認されるなど重要な成果をあげることができた。



1高柳大塚古墳全景
2調査区全景（南から）
3東側周溝
4西側周溝
5石室入口
6石室（玄室）

4．拾徳遺跡（略号：ＪＴＫ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字原古賀字岩崎

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成３年７月～平成４年２月

調査面積

６，８００㎡

図36　拾徳遺跡周辺地形図（１／25,000）

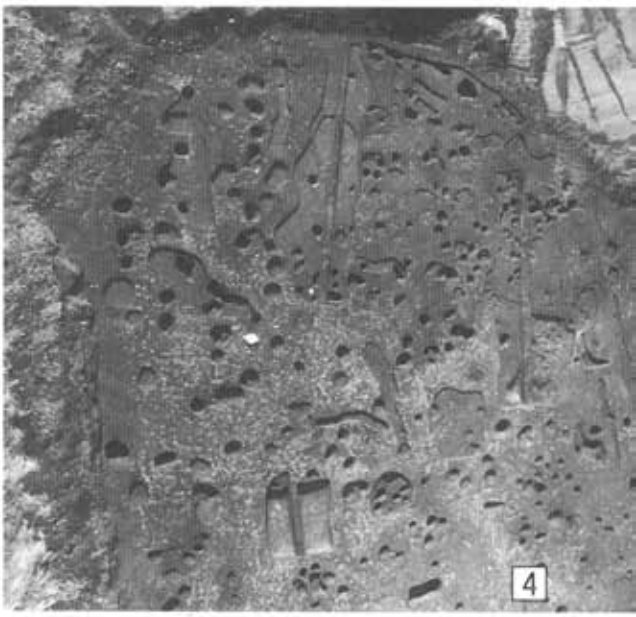
遺跡の概要

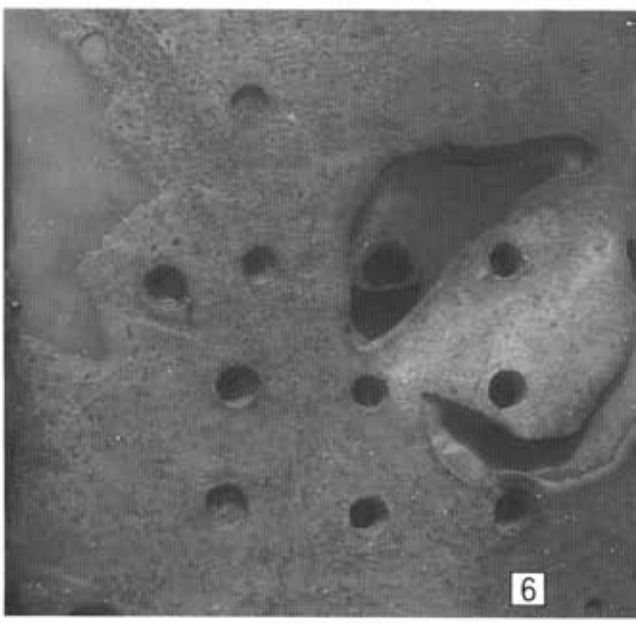
本遺跡は脊振山系より南に伸びる丘陵の東側縁辺部に位置し、標高は４０ｍから４５ｍを測る。遺跡の性格は縄文時代後期、弥生時代前期末から中期及び奈良時代の集落跡である。

検出された遺構は、縄文時代の土壙があり、この他に自然流跡がある。縄文時代の土壙は円形で深いものと不定形で浅い物があり、内部からは縄文時代後期の土器、石器、剥片が出土した。弥生時代の溝は南北に伸びる溝が２条あり北側で切りあっている。両者とも幅約１ｍ、深さ約５０㎝で断面形が逆台形を呈し、西側の溝は張り出し部を有する。内部からは弥生土器の甕、壷、高杯片等が出土したが、出土量は少ない。土壙は中期のもので、内部からは甕、壷片の他管玉が１点出土した。奈良時代の掘立柱建物は３棟ありいずれも２間×２間の総柱建物である。土壙は方形のものと不定形のものがあり、内部からは須恵器の杯、甕、土師器の甕等が出土した。溝は幅約５０㎝　、深さ約１０㎝　程の浅いもの、直線的に伸びるものと直角に曲がるものがある。溝内からは須恵器の杯や土師器の甕等が出土した他須恵質の土馬の脚部と見られる破片が出土しており水に関する祭祀が考えられ興味深い。

自然流路跡は南北に伸びるものと東西に伸びるものがあり調査区の関係で両者の関係は不明である。幅約５ｍ　、深さ約１ｍを計り上面に黒色土、底付近は砂や礫が堆積している。内部からは弥生時代前期の甕や須恵器の甕等が出土したが、出土量はわずかである。

今回の調査では縄文時代の遺構が検出され土器や石器等の資料が得られたこと、弥生時代の環濠の一部が検出されたこと、奈良時代の集落が広がりが確認されたことなど重要な成果をあげることができた。





1拾徳遺跡北西部（上空より）
2調査区北東部（上空より）
3調査区中央部（上空より）
4調査区南西部（上空より）
5調査区南東部（上空より）
6掘立柱建物跡

5．土井外Ａ遺跡（略号：ＤＨＡ）
土井外Ｂ遺跡（略号：ＤＨＢ）

遺跡の所在地

三養基郡三根町大字天建寺字五本黒木

調査主体者

三根町教育委員会

調査期間

平成３年７月～１１月

調査面積

１，０４０㎡

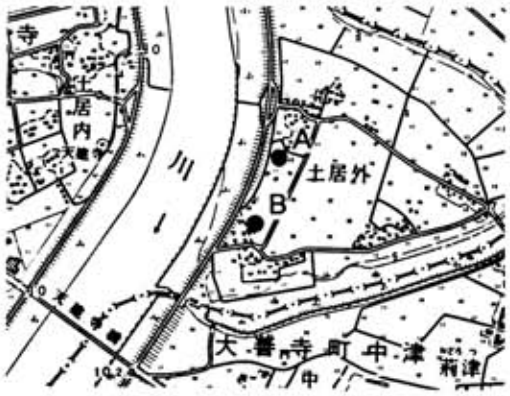


図38　土井外Ａ遺跡・土井外Ｂ遺跡周辺地形図（１／25,000）

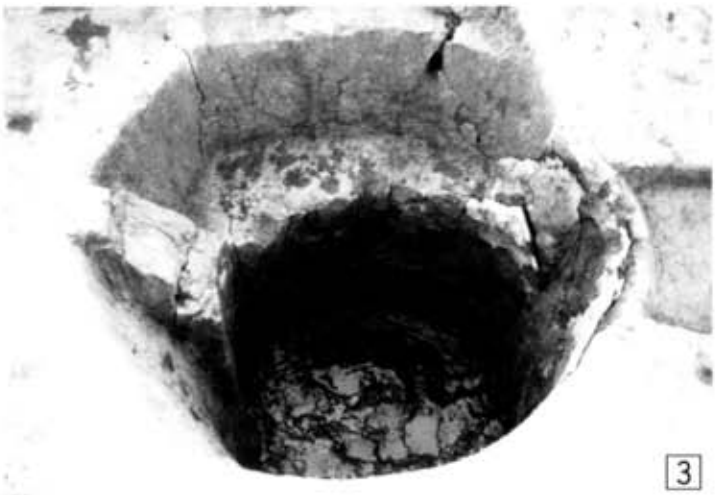
遺跡の概要

土井外Ａ遺跡は、三根町中心部より筑後川を挟んだ東端の飛び地、標高３ｍ余りの沖積平野に位置する。この遺跡の所在する土井外地区は明治時代まで三根町内と陸続きであったが、河川改修工事により、現在の様な飛び地となった。この周辺には天建寺土井内遺跡があり、また久留米市安武・大善寺地区には、縄文時代の南野口遺跡、弥生時代の大善寺遺跡・道蔵遺跡、古墳時代の御塚古墳、権現塚古墳、歴史時代の三潴郡衙衛と推定される古賀遺跡、鎌倉時代の荊津館跡・隈城跡がある。標高１０ｍ前後の低台地上に位置している安武・大善寺地区の遺跡と土井外地区の遺跡は性格を異にし、町内の天建寺土井内遺跡と似ている。

土井外Ａ遺跡で検出された遺構は、掘立柱建物跡１棟、溝跡１０条、井戸跡１０基、土壙１５基、柵列２条である。掘立柱建物跡は、１間×２間である。井戸跡は、単掘り井戸４基、二段掘り井戸５基、溜め池状の井戸１基の３種類に分けられ、どの井戸跡も溝跡を付随している。出土遺物は、土師器、東播系須恵器鉢、瓦器碗、龍泉窯系青磁碗、同安窯系青磁碗、白磁碗、土錘２２点、砥石、青銅製和鏡１面が出土している。遺物で注目されるものは、井戸跡より出土した青銅製和鏡で、当時の井戸の掘り替えによる水への信仰を研究するうえで貴重な資料である。遺跡の時期については、１２～１３世紀頃と考えられる。また、この土井外Ａ遺跡の西側、筑後川底には弘安６年（１２８３）に納江出雲守源義宣が創建した矢俣八幡神社（現在、三根町南島に所在）が３３０年間所在しており、この矢俣八幡神社との関係も興味深いところである。

土井外Ｂ遺跡は、土井外Ａ遺跡の南側２００ｍの地点に位置している。検出された遺構は、土壙８基、溝跡１条である。出土遺物は、瓦器碗が出土しているのみである。

今回の調査によって、三根町の鎌倉時代の生活や信仰を検討する上で、重要な資料を得ることができた。



1 土井外A遺跡全景（南から）
2 SE127・SE128
3 SE124
4 土井外B遺跡全景（西から）

6．八藤遺跡（略号：ＹＴＯ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字迎原

調査主体

上峰町教育委員会

調査期間

平成３年７月～平成４年２月

調査面積

１５，０００㎡

遺跡の概要

図40　八藤遺跡周辺地形図（1／25,000）

八藤遺跡は、脊振山系から派生する標高２２ｍ～３６ｍの中位段丘上（八藤丘陵と仮称）に立地する、縄文時代から奈良時代にわたる集落を中心とした複合遺跡である。八藤丘陵は、西を切通川支流の大鳥居川、東を切通川支流の大谷川に開析され、南北に延びる丘陵となっている。本遺跡の周辺には、北方の山麓部および洪積世丘陵高位面には古墳時代後期の小円墳からなる古墳群が広がり、西方の二塚山遺跡群が、また南東方の船石丘陵には船石遺跡群が所在しており、弥生時代を中心とした各時代の遺跡が濃密に分布している。また、本丘陵から西方へ派生する一支丘が古代に堤土塁として成形利用されている。

本年度の調査は、遺跡の中央から東側斜面にかけての、１カ所、２地区（Ⅵ区：11,250ｍ・Ⅶ区：3,750ｍ）について実施し、縄文時代から弥生時代、奈良時代の各期にわたる遺構、遺物が検出された。

縄文時代の遺構としては、後期の土壙が５基、調査区の北西部において検出された。これらに伴い、縄文土器片、石器、剥片、チップ類が出土したが、前年度調査したⅣ区に比して量的には少量である。

弥生時代の遺構としては、中期前半の円形住居跡３軒、大型の円形土壙４基、後期初頭の竪穴式住居址１軒が、調査区の南部において検出された。特に、大型の円形土壙は、直径３ｍ深さ２ｍ弱を計り、特異な遺構である。出土遺物は、弥生土器片、黒曜石のチップ類があるがこれも量的には少量である。

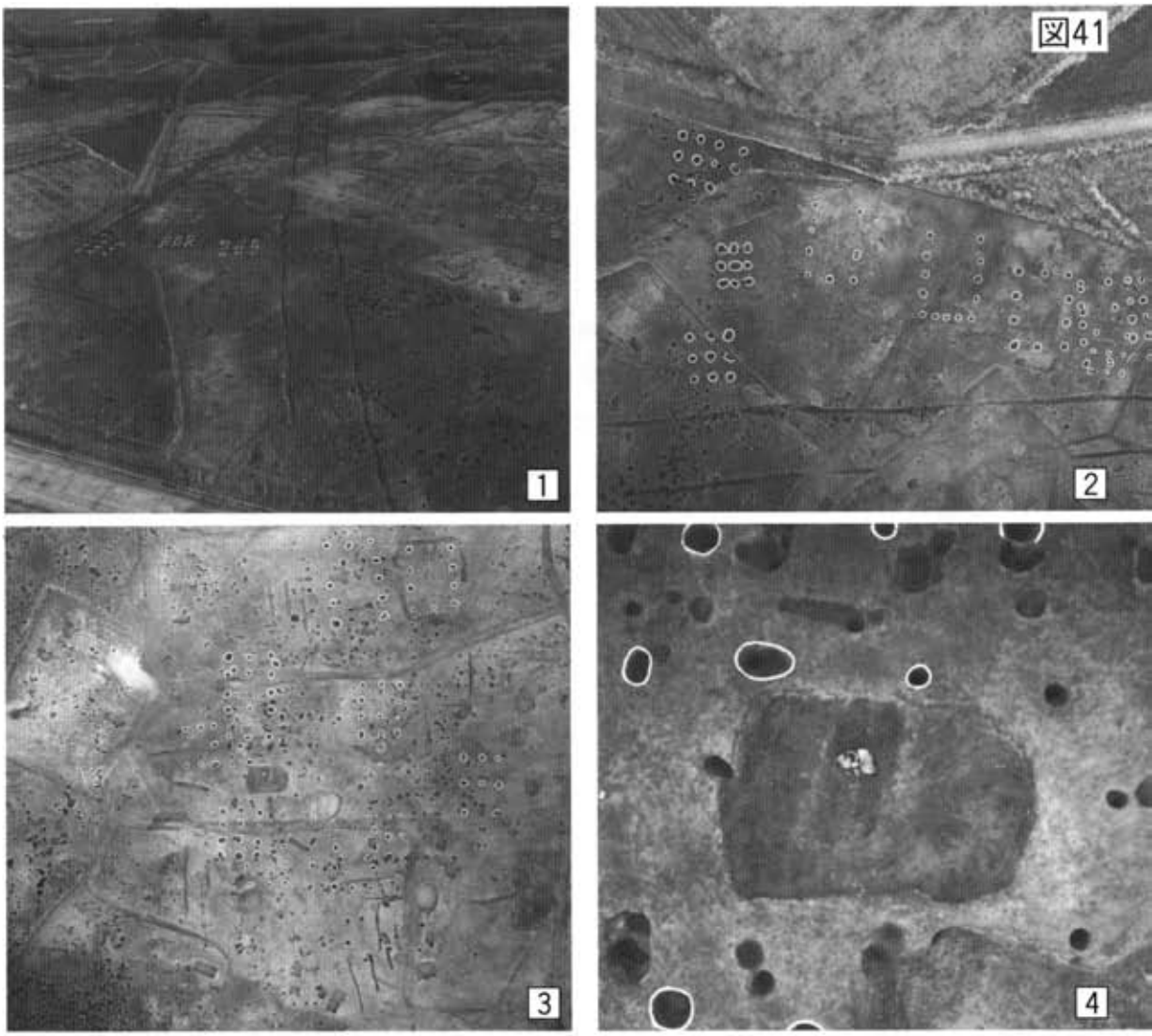
奈良時代の所産と考えられる遺構としては、溝、掘建柱建物跡、土壙、火葬墓などが検出され、土師器片、須恵器片がまとまって出土している。土壙のなかには、覆土に多量の炭、焼土を含むものもあり、鉄滓も検出された。

前年度の調査で確認された約６ｍの間隔で並行する２条の溝は、調査区北部を横断する形で本丘陵東端まで断続的に検出された。また、掘建柱建物跡は、この溝の南北から合計２０棟が検出された。南北の建物群の建物は、主軸、規模などから、数期にわたる建て替えがあったも

のと考えられる。南部の建物群のなかには、周溝が巡っているものもある。また、北部の建物群は、平成４年度調査予定地区に広がる可能性が高い。これら南北の建物群と前述の２条の溝にに重複関係が認められないことは、両者の併存の可能性を示唆し、堤土塁の性格付け、有機的関連を考える上で貴重な資料といえよう。

火葬墓と考えられる遺構は、南部の建物群の北に位置し、方形の二段掘りの土壙中央に、坏で蓋をした短頸壺を倒置し礫で固定したもので、後世の耕作で原位置は大きく損なわれている。

今回の調査では、奈良時代の遺構・遺物がまとまって検出された。これらの遺構群の性格については、即断できないが、今後の調査の成果によっては、官的施設の存在も考えられる。当地において、このような規模で当時の遺構が検出された前例はなく、当時の社会のあり方、堤また、堤土塁とあわせて本遺跡の歴史的意義を考える上で貴重な資料といえる。



1道路状遺構　2道路状遺構北部の建物群　3道路状遺構南部の建物群　4火葬墓遺構

7．上石動遺跡（略号：ＫＩＮ）

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字石動字四本杉ほか

調査主体

東脊振村教育委員会

調査期間

平成３年５月～平成４年３月

調査面積

１，５００㎡

図42　上石動遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

東脊振村は佐賀県の東部に位置し、村南部は脊振山系の南麓で高中位段丘が南北に細長く広がる丘陵地帯である。

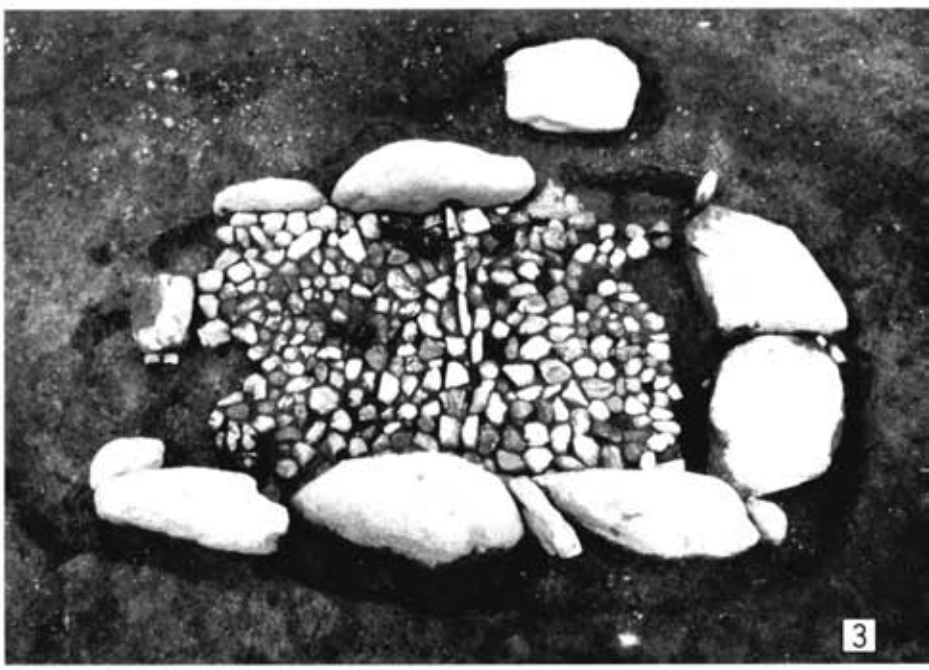
上石動遺跡はこれらの段丘の中の二塚山段丘・目達原段丘が脊振山系に結び付いた南麓のゆるやかな傾斜地に立地し、田手川の東岸に広がる標高５０ｍのところに広がる縄文時代から近世にかけての墓地と集落の遺跡である。上石動遺跡周辺には青銅器や鉄器を多く出土した弥生時代の二塚山遺跡群、古代末から近世の山岳仏教遺跡である霊仙寺跡などがあり遺跡の密度は高い地域である。

上石動遺跡の調査地区周辺は現況の水田に古墳らしい痕跡が認められ、また、隣接する下石動遺跡からは古墳や古墳時代の竪穴式住居跡がかなりの数確認されている。

上石動遺跡調査地区からは、古墳時代のものとしては竪穴式住居跡１軒、かなり破壊された横穴式石室を内部主体とし、周溝をもった古墳２基が確認された。奈良・平安時代の遺構はなく、鎌倉時代から室町時代にかけてとみられる、掘立柱建物跡１棟・溝跡多数・穴多数を検出した。

出土遺物としては、縄文土器・黒曜石・サヌカイト・土師器・須恵器・鉄器・など多種多様であった。横穴式石室の墓道からは土師器・須恵器・鉄器が出土している。

上石動遺跡調査地区は、検出遺構から、古墳時代の集落跡・墓地・中世の集落跡の大きく分けて３つの時期の活動痕跡があった。各々の時期の間に空白期間はあるが、田手川東岸の石動地区の開発史とともに目達原段丘の遺跡とのつながりを考える上で興味深い。



1上石動遺跡全景

2古墳全景

3古墳石室

8．塚原遺跡（略号：ＴＫＨ）

遺跡の所在地

佐賀県神埼郡神埼町大字尾崎字塚原

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成３年６月～２月

調査面積

４,０６０㎡

図44　塚原遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

塚原遺跡は、神埼町北西部の標高約１６～１８ｍの微高地上に立地する。調査の結果、３・４区より旧石器時代から中世にいたるまでの多数の遺構・遺物を検出した。

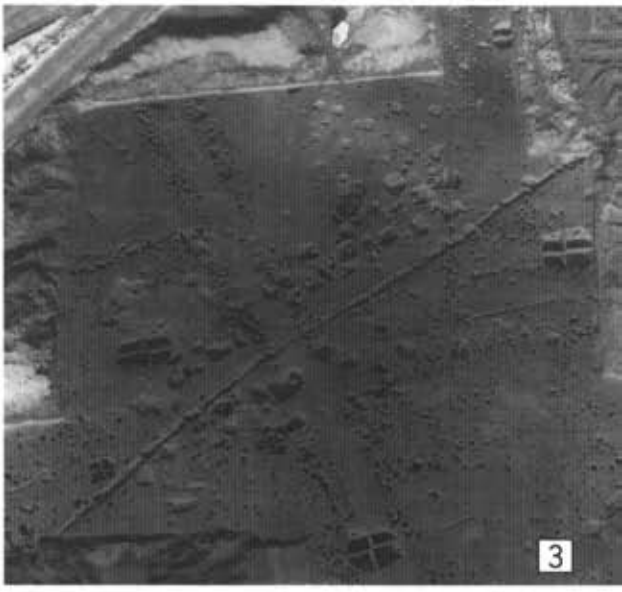
旧石器時代としては、大きく２カ所の遺物集中部分を確認した。遺物の出土状況は、後世に削平を受けており包含層の遺存状況は良くない。出土した遺物は約１５０点と少なく、ナイフ形石器が数点あるほかは、剥片がほとんどである。ナイフ形石器の中には国府型ナイフが含まれている。

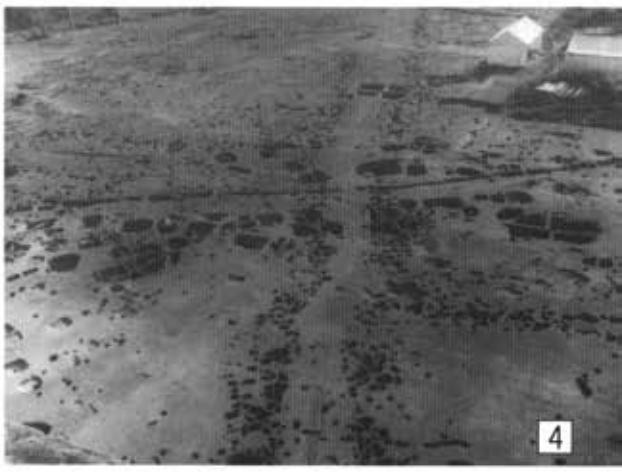
縄文時代の遺構としては、早期の押型文土器を伴う集石が２基存在する。

弥生時代の遺構としては、前期から中期前半にかけての竪穴住居跡・土壙・溝跡が調査区南半部に分布し、調査区中央部に甕棺墓を主体とする墓地を確認した。この墓地は、甕棺墓４５基・土壙墓５基・祭祀遺構３基で構成されており、東西に長い列埋葬の構造を持ち、墓域の中で群の存在を認めることができる。遺物としては、土壙墓より磨製石鏃がまとまって出土している。

奈良・平安時代の遺構としては、この遺跡の南端を東西に走る古代官道と関係するものと考えられる道路跡・掘立柱建物跡・土壙・井戸跡などがある。道路跡は、側溝にあたる部分を小穴が連続して認められ、官道には直行せず、やや西偏する方向で北にのびている。さらに、部分的にこの道路跡より直行する東西方向の小穴列が存在し区画施設の存在を伺わせる。また、調査区中央部を東西に走る同時期の溝跡が、この道路跡と交差する部分が切れており出入口施設の可能性がある。掘立柱建物跡との関係は、主要な建物跡は調査区南半部の官道に近い地区に分布する。３・４区の北部に位置する２区では、東西方向の並行する溝跡の存在が、３・４区の道路跡に直行する位置関係にあり、道路遺構ではないかと考えられる。この地区においても数棟の掘立柱建物跡・土壙・井戸跡が集中している。

本遺跡は旧石器時代から中世にいたる複合遺跡である。弥生時代の集落と墓地の検出はこの地区における集落と墓地のあり方を知る上で重要であり、さらに官道に関係する道路跡と建物跡の存在は非常に重要な成果である。





1 塚原遺跡 3 区全景
2 4 区全景
3 3 区近景
4 3 区道路跡

9．小林遺跡Ⅰ～Ⅴ区（略号：ＫＢＹ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字小林

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成３年５月～平成４年３月

調査面積

２，０００㎡

図46　小林遺跡Ⅰ～Ⅴ区周辺地形図（1/25,000）

調査の概要

遺跡は、神埼町北西部の標高１３～１５ｍを測る水田部に立地している。本遺跡は、北に塚原遺跡、南に祇園原遺跡と隣接しており、北側の塚原遺跡との境界には官道の推定路線が東西方向にはしり、その痕跡と考えられる切り通しも存在している。

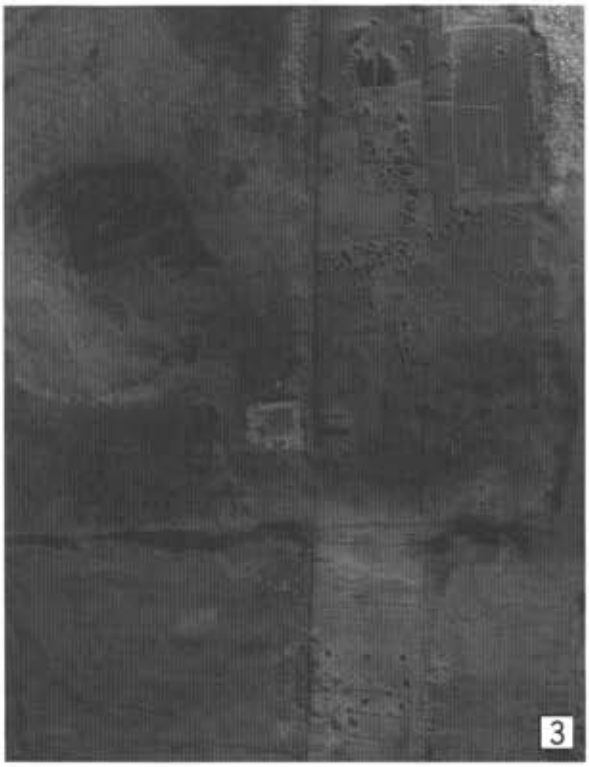
調査は、圃場整備により掘削・削平去れる部分を対象に実施したため、小林遺跡の周知の範囲内で調査地点がⅠ～Ⅴ区の５ケ所に分かれており、この中でⅠ・Ⅱ・Ⅴ区は微高地上に、Ⅲ・Ⅳ区は谷状の暗部に立地している。調査の結果、弥生時代・古代・中世の遺構が多数検出された。

弥生時代の遺構は、Ⅴ区のみで確認されており土壙や円形周溝状遺構があるがその数は少ない。

古代の遺構は、調査地点の全てにおいて多数確認されており、掘立柱建物跡や井戸跡・土壙・溝跡などがある。特にⅠ・Ⅱ区において掘立柱建物跡が１０棟、井戸跡１基、廃棄土壙８基、溝跡１条などが検出されており、これらからの出土遺物は９世紀末～１０世紀の様相を呈している。その中で区において、２基の土壙より長沙窯系の水注の破片が、溝跡より越州窯系青磁椀が多量の須恵器や土師器の杯・皿・甕などと共に出土しており注目される。

中世の遺構は、Ⅰ・Ⅱ区において数条の溝跡が確認されているのみであるが、Ⅱ区において東西方向に延びて、底の部分に礫を敷き詰めた溝跡が確認されており、その状況より通路状の施設の可能性のあるものも存在している。

以上のように、本遺跡の調査で確認された遺構では古代の遺構が最も多く、特に官道に隣接するⅠ・Ⅱ区における集中が顕著である。この官道を挟んで北に隣接する塚原遺跡においても同様の遺構が多数検出されており、官道そのものの存続期間やその周辺の状況を考える上での好資料を得ることができた。



1小林遺跡Ⅰ・Ⅱ区全景

2Ⅲ区全景

3Ⅳ区全景

4Ⅴ区全景

10. 祇園原遺跡Ⅰ・Ⅱ区（略号：ＧＢＲ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字祇園原

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成３年５月～平成４年３月

調査面積

３，５００㎡

図48　祇園原遺跡，Ⅰ･Ⅱ区周辺地形図（1/25,000）

調査の概要

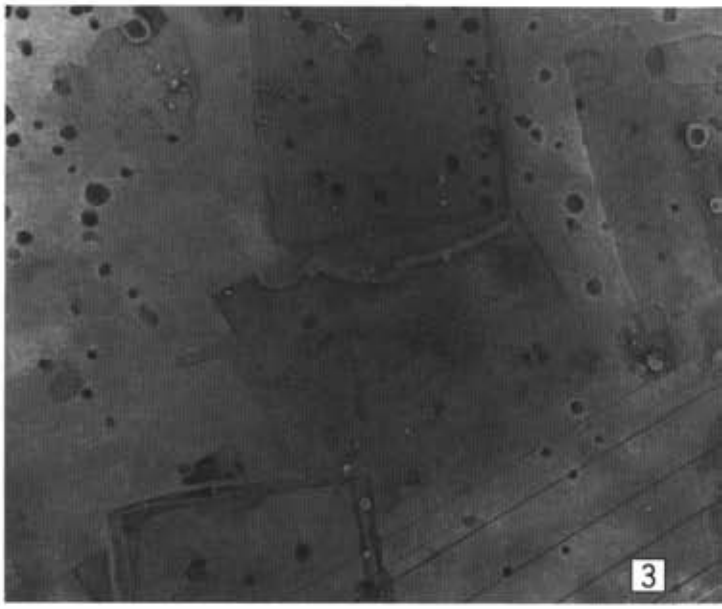
遺跡は、神埼町北西部の標高１３～１４ｍを測る微高地上に位置しており、本遺跡の周辺には小林遺跡、迎田遺跡、井手遺跡が存在する。

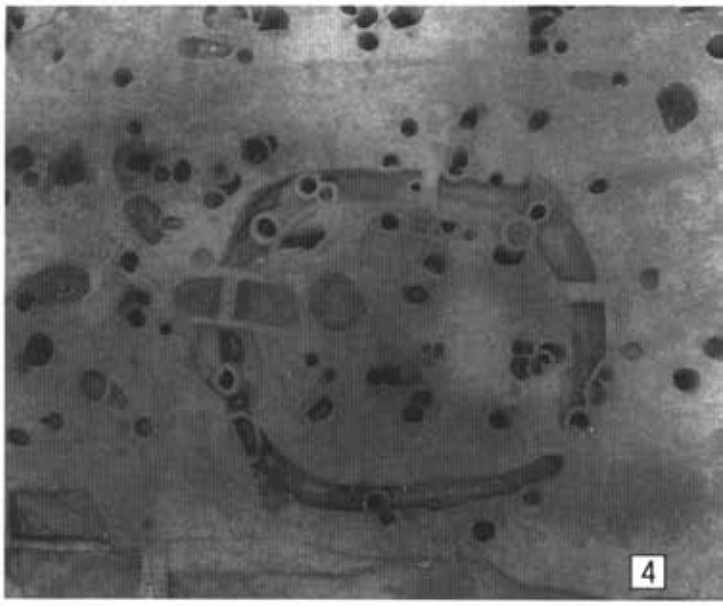
調査圃場整備により水路の埋設部分及び掘削・削平される部分でおこなわれた調査の結果、弥生時代後期～終末から古墳時代初頭では竪穴住居跡、土壙、不明遺構、円形周溝状遺構。古代では、土壙。中世では、溝跡が確認された。

弥生時代後期～終末から古墳時代初頭の竪穴住居跡に関しては、調査区中央部に弥生時代後期のものが、調査区南部に終末から古墳時代初頭のものが存在する。平成２年度に調査された迎田遺跡（道路を挟んで西側）で確認された住居跡群との関連が指摘される。円形周溝状遺構に関しては、弥生時代後期のもので、幅０．５ｍで、径５．０ｍの円形を呈するもので、北西隅に陸橋部をもっている。

古代の遺構に関しては、９世紀末～１０世紀の遺物の出土する土壙が確認されている。これに伴う掘立柱建物等は確認されていない。

中世の遺構に関してはⅠ区でほぼ並行して延びる溝跡が、Ⅱ区では「Ｌ」字状に屈曲する溝が確認されている。Ⅰ区の並行溝は道路の側溝の可能性をもつが、溝の間部（路面）は硬果面等は観られなかった。Ⅱ区の「Ｌ」字に屈曲する溝に関しては、建物に関連する溝と考えられるが、溝内部の柱穴群に掘立柱建物を構成するものが存在する可能性がある。





1 祇園原遺跡Ⅰ区全景

2 Ⅱ区全景

3 竪穴住居跡

4 円形周溝遺構

11. 野畠遺跡（略号：ＮＢＴ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成３年５月～平成４年３月

調査面積

２５０㎡

図50　野畠遺跡周辺地形図（1／25,000）

調査の概要

遺跡は、神埼町北西部の標高約１６ｍを測る水田部に立地している。調査地は古代の官道の推定路線上に立地し、西側には小規模な切り通しが存在している。

調査は、圃場整備により水路埋設のために掘削される部分について実施した。

調査の結果、調査地の北側において中世～近世と考えられる溝跡２条及び小穴などが、中央部～南側において何らかの整地と考えられる痕跡が確認されたが全体的な遺構の密度は希薄である。

これらの遺構の中で、整地の痕跡と考えられる部分は官道の推定路線上に位置している。この部分は、緩い谷状の落ち込みの上に立地しており、約８ｍの幅で４０㎝程度の厚さが残存している。この部分は、砂質土や粘質土が２～１０㎝の厚さで交互に堆積しており、その上面はかなり硬化している状況で、何らかの人為的な整地を窺わせるものである。

この部分が前述のとおり官道の推定路線上にある点や、その幅が調査地の西に存在する切り通し部分の幅とほぼ一致するなど、これを官道の路面と推定するうえで有効な状況は備えているが、調査地の状況が低湿地であるにもかかわらず側溝などの排水施設が確認されていないことや、この調査地に隣接した地点での発掘調査（県教委が実施した肥前西海道確認調査）において今回同様の整地などは確認されていないことなどから、この部分を官道の路面と確定するには至らない状態である。今後このような官道推定路線上の調査例の成果を総合的に検討する必要があるものと考える。

1野畠遺跡より西方官道路線
遠景（東より）

2野畠遺跡全景

3官道路線全景

12. 轡田遺跡Ⅰ・Ⅱ区（略号ＫＢＹ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎字

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成３年５月～平成４年３月

調査面積

１，５００㎡

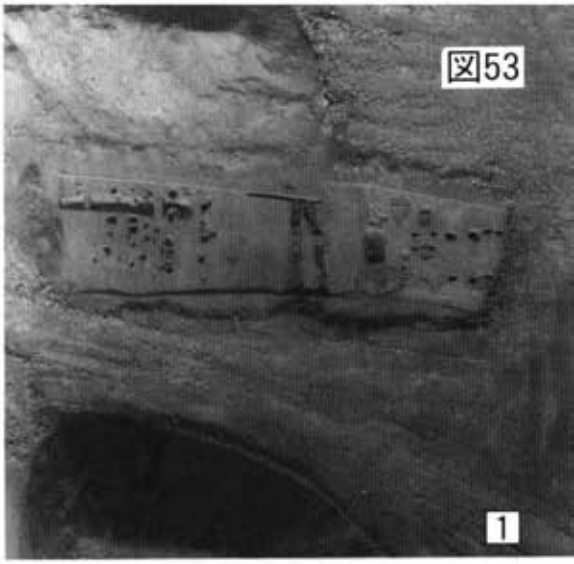
図52　轡田遺跡Ⅰ・Ⅱ区周辺地形図（1/25,000）

調査の概要

遺跡は、神埼町の北西部の標高１１～１２ｍを測る水田部に立地している。調査は、圃場整備により掘削・削平される部分を対象に実施したため、Ⅰ・Ⅱ区の２地点に分かれている。

調査の結果、近世の掘立柱建物跡や溝跡、土壙などが確認された。Ⅰ区においては、調査区の東端部付近において溝跡や小穴が、南端部において東西に延びる溝跡が確認されたが調査区の中央部付近に於いて遺構の検出は皆無であり、東端部や南端部において検出された遺構もその密度は希薄である。出土遺物も少なく、南端部において検出された溝跡より瓦質の甕や陶磁器の破片が少数あるのみである。

Ⅱ区においては、調査地が区に比べてやや高い位置にあるため遺構の密度は高く、掘立柱建物跡１棟や溝跡５条、土壙４基などがある。掘立柱建物跡は１×２間以上の規模であり調査区の北側に延びる可能性がある。溝跡は、東西や南北方向に延びておりこれらはほぼ直交する関係のものもある。出土遺物は、土師器の甕などの破片や陶磁器などがあり、これらは１７世紀後半～１８世紀と考えられる。



1 轡田遺跡調査地全景

2 Ⅰ区全景

3 Ⅱ区全景

13. 馬郡遺跡（略号：ＭＧＩ）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字鶴字馬郡

調査主体者

神埼町教育委員会

調査期間

平成３年１１月～平成４年３月

調査面積

２１５㎡

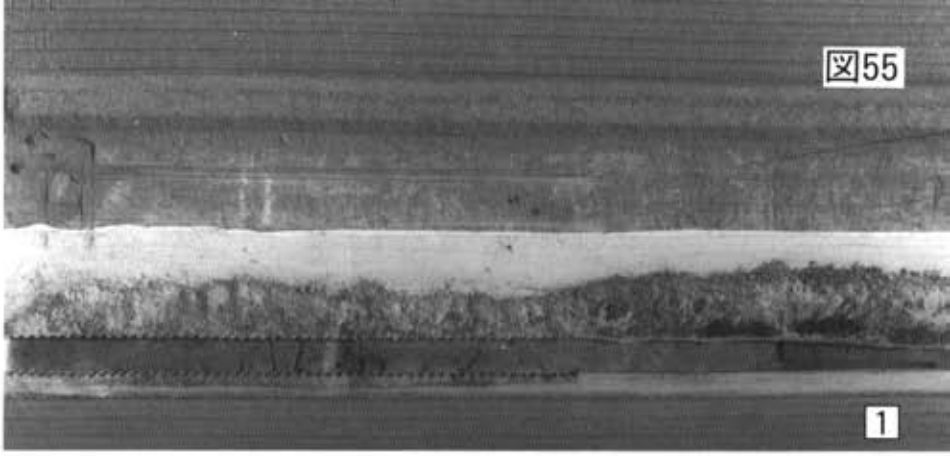
図54　馬郡遺跡周辺地形図（1／25,000）

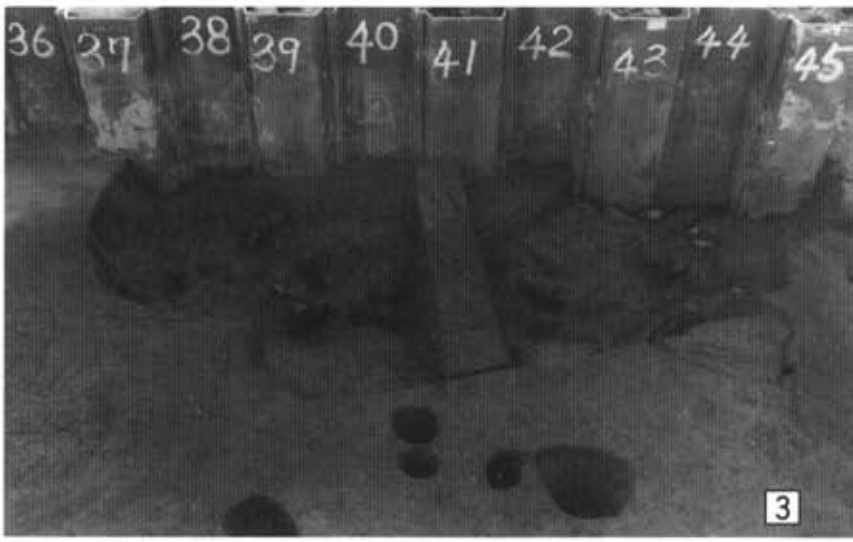
遺跡の概要

遺跡は、神埼町東部に存在する吉野ケ里丘陵と呼ばれる南北６㎞にわたる舌状丘陵の西に広がる標高約１０ｍの水田地帯に位置している。

調査は、国営水路千代田線の工事に伴い行われた。調査の結果、弥生時代中期の土壙、円形周溝状遺構、溝跡が検出され、調査区南部分に関しては、地形的な落ち込みが確認された。円形周溝状遺構に関しては、西半部は調査区外であるが、幅１．０ｍの溝で、径３．５ｍの円形を呈するものと考えられる。

出土遺物には弥生時代中期の甕、壷があったが、いずれも小片での出土であった。





1馬郡遺跡全景

2溝　跡

3土　壙

14. 宿野遺跡（略号：ＳＫＮ－１～８）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉字御供田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成３年６月～１２月

調査面積

１０，０８０㎡

図56　宿野遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

宿野遺跡は、佐賀市域北東部に位置し、周辺には畑地及び棚田が広がる。遺跡は、南に舌状に突き出す低位段丘面とその下位の沖積面に分布し、西端の区は段丘面上の開析谷にかかり、２～６区は段丘面上、７・８区は段丘東側の扇状地面に立地する。標高は遺構検出面で１７．５～１９．５ｍほどである。調査区の西端は平成２年度に発掘調査を実施した東高田遺跡Ⅰ区に接し、同じ段丘面上の南１．５㎞には樫木遺跡の広型銅戈出土地点が所在する。

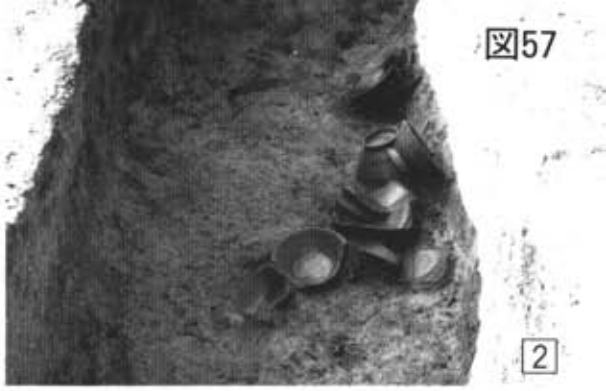
今回の発掘調査は宿野遺跡における初例であり、調査区は工事の関係や道路・水路により８地点に分割された。各調査区の主な調査成果は以下のとおり。

西端に位置するⅠ区では、明確な遺構はなく、奈良時代と近世の遺物がわずかに出土した。西側の２区では近世以降の撹乱により遺跡は消滅していた。段丘面のほぼ中央に位置する３区は、葡萄畑による撹乱が激しくかなりの遺構が消滅していた。良好な状況の包含層ではないが、縄文時代早期の押型文土器が３０点ほど出土した。押型文は楕円のものと山形のものがある。また、平安時代前半の土壙墓（ＳＰ３０４）を検出し、土師器の一括資料を得た最も高所に位置する４区は、１５世紀の用水路（ＳＤ４０２・４０３）と溜め舛（ＳＫ４０４）らしきものと、１５～１６世紀の溝を検出した。５区の西側に接する６区は、中世集落の一部にあたり、用水路・区画溝（ＳＤ６０４）らしきものと土壙群を検出した。７区では奈良時代の土壙（土器溜）を検出した。東端の８区は近世以降の撹乱により遺跡は消滅していた。

参考文献

西田巌・木島慎治（１９９２）：原ノ町遺跡・東高田遺跡・樫木遺跡・北宿遺跡・南宿遺跡（佐賀市文化財調査報告書３８）佐賀市教育委員会

前田達男（１９９３）：宿野遺跡（佐賀市文化財調査報告書４４）；佐賀市教育委員会



1 宿野遺跡 3 区 SP304土壙
2 3 区 SP304土壙遺物出土状況
3 4 区 SK404土壙、SD402・403溝
4 4 区 SD401堀
5 4 区 SD604溝

15. 篠木野遺跡（略号：ＳＧＮ－２～５）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字上和泉字篠木野

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成３年６月～３年１１月

調査面積

２，３４０㎡

調査の概要

図58　篠木野遺跡周辺地形図（1／25,000）

篠木野遺跡は佐賀市の北東部、脊振山系南麓から派生する丘陵の先端部、または微高地状上高まり及びその縁辺部に位置し、標高約１０ｍを測る水田及び畑地下に所在する。

周辺の遺跡には、弥生時代の集落である琵琶原遺跡・村徳永遺跡、古墳時代の集落である大野原遺跡、中世の館跡である徳永遺跡がある。

今回の発掘調査は４地区に分かれて実施し、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物を検出した。

弥生時代の遺構は、土壙・甕棺墓等がある。特に甕棺墓は今回の調査区内では２区で大部分を削平され残存状況が悪いものを１基検出したにすぎないが、調査地の３区に接する畑に所在する支石墓の存在や、４区に接した地点でも確認されたことを考えると、現篠木野集落を中心とした大規模な墓域の存在が想定できる。

古墳時代の遺構は、井戸がある。素堀のもので、径１．５ｍ、深さ１ｍ程を測り、甕・高杯・小形丸底坩を検出した。

中世の遺構で注目されるのに大溝がある。２区で一部を検出したのみでその全容を把握できなかったが、幅３ｍ、深さ０．５ｍを測り、周辺に所在する中世集落を巡る溝である可能性がある。検出した遺物は瓦器（椀）、土師器（皿）等がある。

近世の遺構は、溝、井戸、土壙等がある。溝は幅０．７ｍ～１．５ｍ、深さ０．３ｍ～０．５ｍを測り、大量の磁器（碗・染付け皿）、陶器（碗・皿）を検出した。井戸はいずれも素堀で、径１．５ｍ、深さ１ｍを測る。土壙には長軸２ｍ、短軸１ｍ、深さ１ｍを測り、平面プランは隅丸方形を呈し、底面から瓦質の甕・染付け皿・五輪塔を検出した近世の甕棺墓と思われるものを検出した。

今回の調査で篠木野遺跡は弥生時代から近世に及ぶ複合遺跡であり、その主体は中世から近世にかけての集落であることがわかった。

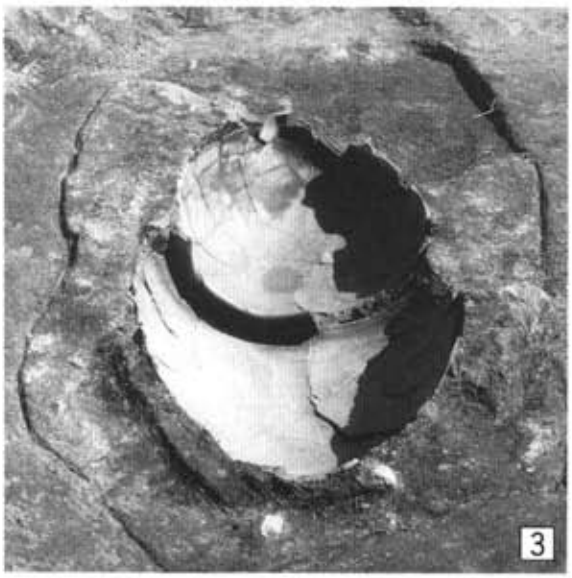
図59

1 篠木野遺跡 5 区全景

2 2 区SK041

3 4 区SJ101

4 5 区SE001



16. 琵琶原遺跡（略号：ＢＷＢ－２～３）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字川久保字原地内

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成３年１０月～１１月

調査面積

７８０㎡

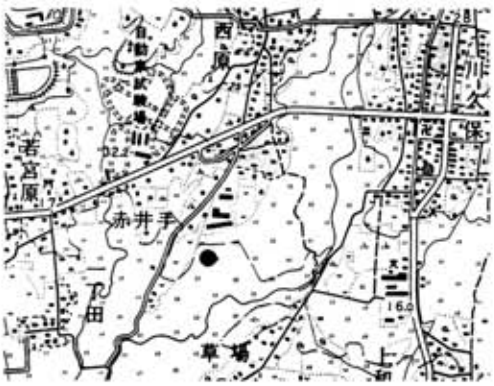


図60　琵琶原遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

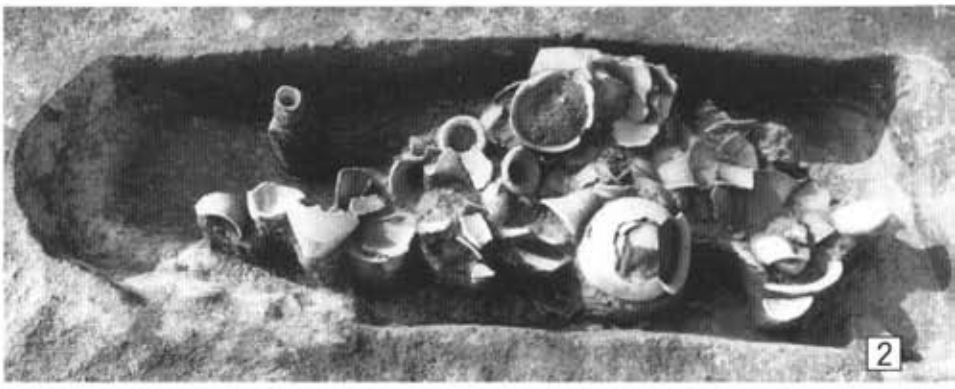
琵琶原遺跡は、脊振山系南麓から派生する舌状丘陵地に位置し、標高約１４～１５ｍを測る。今回調査を行った地点は、その丘陵の縁辺部にあたり調査区の大部分が谷地形の落ち込みにかかっていた。琵琶原遺跡では、今回の調査地点の北側（現柱寿園）で昭和５５年度に発掘調査を実施し、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居を５０軒以上検出している。今回の調査は、それに続く２・３次調査である。調査の結果、弥生時代と江戸時代に属する遺構、遺物を検出した。

弥生時代の遺構は、後期に属する土壙を検出した。なかでもＳＫ００１・ＳＫ００３は、いずれも長軸１．５ｍ程を測り隅丸長方形を呈しており、一括資料として良好な土器が大量に出土した。出土した土器は甕・壷・高杯・鉢・器台等がある。

江戸時代の遺構は、幅１．５ｍ・深さ０．３ｍ程を測る溝を検出し、土師器（皿）、磁器（染付け皿・碗）、陶器（碗・皿・摺鉢）、五輪塔等が出土した。しかし、ほとんどが調査区外に及んでおり、全長およびその性格については不明である。

この他に、遺物包含層から口縁部及び胴部上位にそれぞれ一条の刻目突帯文をめぐらした縄文時代晩期に属する土器や、弥生時代から古墳時代にかけての土器片・石包丁等を検出した。

今回は調査範囲が狭いうえに大部分が自然落ち込みにかかっていたため検出した遺構も少なく、弥生時代と江戸時代に属する集落の一部を確認したにすぎなかつたが、包含層から縄文時代晩期の土器を検出したことでこの周辺の集落がこれまで確認されていた時期よりさらにさかのぼった時期より営まれていたことが考えられる。



1 琵琶原遺跡 2 区全景
2 2 区SK003土壙
3 2 区SK003土壙
4 3 区全景

17. 大野原遺跡（略号：ＯＮＲ－１～４）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布字大野原

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成３年１０月～平成４年２月

調査面積

３，８４９㎡

遺跡の概要

図62　大野原遺跡周辺地形図（1／25,000）

大野原遺跡は佐賀市の北部にあって、標高１０ｍ前後の複合扇状地上に立地する。遺跡の東には巨勢川が南北にその流路をとり、また西から南にかけては金立川が南流し巨勢川にそそいでいる。周辺には史蹟である銚子塚古墳や、弥生後期～古墳初頭の集落が調査された琵琶原跡、また巨勢川を挟んで対岸には、１００棟以上にのぼる掘立柱建物を検出した弥生後期の拠点集落である村徳永遺跡などが存在する。

今回の調査地点は４地区に分割されており、便宜的に北から１区・２区・３区・４区と呼称し調査を行った。以下、各調査区ごとにその概要を述べる。

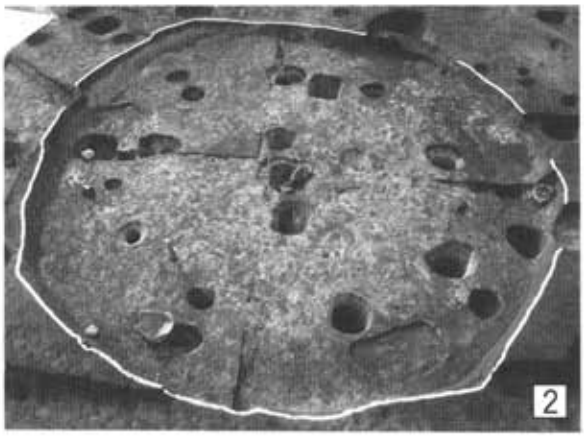
１区では弥生～奈良時代にかけての溝・土壙・遺物包含層等を検出した。なかでも奈良時代の溝は古代官道の推定ライン上にあたり、官道に伴う側溝である可能性が高い。また遺物包含層からは、弥生後期を中心とした遺物が比較的まとまって出土した。

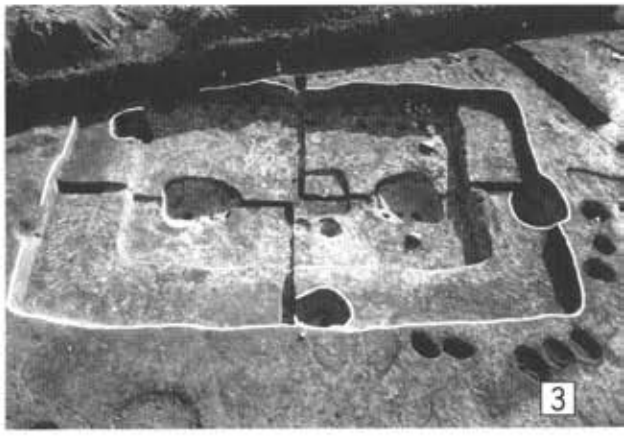
２区では弥生～古墳時代にかけての竪穴住居・掘立柱建物・土壙墓・溝・土壙等を検出した。特に竪穴住居は、弥生中期前半・弥生後期後半～古墳初頭のもので３０数棟を検出した。比較的遺存状態がよく、そのほとんどが当該期特有のベット状遺構を有するものであった。また遺物もまとまって出土しており、当時の土器編年を考える上で貴重な資料を提供している。

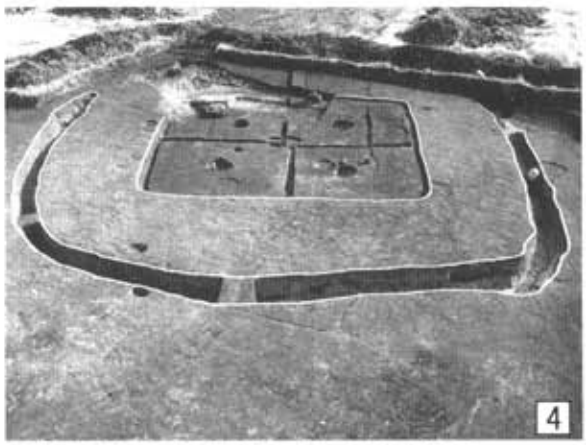
３区では縄文～古墳時代にかけての掘立柱建物・溝・土壙等を検出した。なかでも縄文時代の所産と思われる土壙は、落し穴状遺構と考えられるもので、佐賀市域では初見である。また掘立柱建物は２区で検出した建物と同時期のものと考えられ、集落の広がりが窺える。

４区では古墳時代初頭の竪穴住居・溝・土壙等を検出した。竪穴住居は４本柱、低いベット状遺構を有するもので、住居の外側には幅４０ｍ程度の周溝を巡らしていた。また土壙は埋土中より鉄滓等が出土しており、製鉄関連の遺構である可能性がある。

大野原遺跡の調査は今回が初めてで、弥生後期～古墳初頭を中心とした集落跡であることが確認された。同時期の集落跡の調査は、佐賀市域では琵琶原遺跡がある程度でその調査例は少なく、今回の調査成果が貴重な資料となると考えられる。







1大野原遺跡2区全景　2 2区円形住居　3 2区方形住居　4周溝を巡らす住居
5焼失住居

18. 千布二本黒木遺跡（略号：ＣＮＫ－１～５）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布字二本黒木

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成３年７月～１０月

調査面積

２，１００㎡

図64　千布二本黒木遺跡周辺地形図（1/25,000）

遺跡の概要

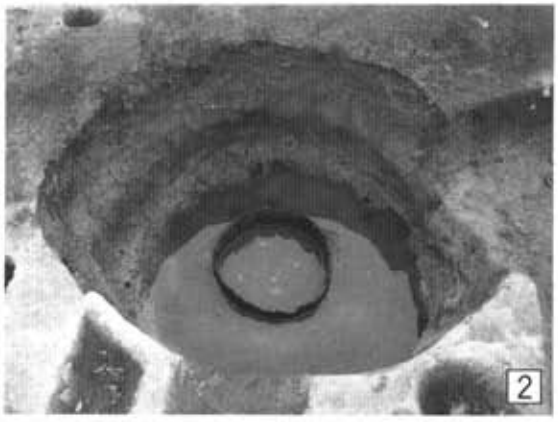
千布二本黒木遺跡は佐賀市の北部にあって、標高５ｍ前後の沖積地との境に近い複合扇状地の先端部分に立地する。東には巨勢川が南北にその流路をとる。周辺には弥生中期の甕棺墓群である東千布遺跡、古墳初頭の集落の一部を調査した久富遺跡、弥生時代～中世にかけての複合遺跡である友貞遺跡、また巨勢川を挟んで対岸には、１００棟以上にのぼる掘立柱建物を検出した弥生後期の拠点集落である村徳永遺跡などが存在する。

今回の調査地点は５地区に分割されており、便宜的に北から１区・２区・３区・４区・５区と呼称し調査を行った。いずれも狭小な調査区で遺跡の全容を明らかにするものではなかったが、調査の結果、縄文時代～近世の遺構・遺物を検出した。その内中心をなすものは弥生時代中期と中世に属する集落跡であった。

弥生時代の遺構は、中期を中心とした掘立柱建物・溝・土壙等を検出した。溝は２条検出した。断面逆台形を呈し幅３．０～３．５ｍ、深さ０．５～０．６ｍ前後で、比較的大量の弥生土器が出土した。掘立柱建物は１×１間の規模を有するものを２棟検出した。隣接する甕棺墓群が検出された東千布遺跡と関連する集落である可能性が高い。

中世の遺構は、１３～１４世紀を中心に掘立柱建物・井戸・土壙・溝等を検出した。掘立柱建物は３×１間を基本とし、２０棟前後を確認することができた。狭い範囲に集中的に検出しており、何度かの立て替えが行われたことが考えられる。また屋敷地を区画するかと思われる溝も検出されている。

今回は調査範囲が狭く、中世集落の一部が明らかにされたに止まるが、調査地の周辺には、「久富」・「友貞」・「東名」といった中世的な地名呼称が残っていて、この地域には広い範囲で中世の荘園村落が分布していたものと思われる。



1千布二本黒木遺跡4区全景

2 4区井戸

3 2区全景

19. 牟田寄遺跡（略号：ＭＴＹ－Ｅ）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字瓦町字牟田寄

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成３年６月～１２月

調査面積

４,８７５㎡

図66　牟田寄遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

牟田寄遺跡は佐賀市の東部にあって、平均標高３．５ｍを測る水田下に所在する。遺跡は牟田寄・千住集落間に広がっている。その中間に焼原川があり、蛇行しながら南流する。牟田寄遺跡は平成元年度に３,０００㎡の発掘調査を実施し、調査区をＡ～Ｄに分けている。今次調査区は焼原川の東岸にあつてＥ地と呼称し発掘調査にあたった。

今回の調査でこのＥ地区は弥生時代後期・古墳時代を中心に営まれた集落跡であることがわかった。

弥生時代の遺構には井戸・溝・土壙・掘立柱建物等がある。井戸は径１ｍ、深さ１．５ｍ程度を測り、すべて素掘の一段掘りである。埋土下層からは井戸の廃棄の際投入されたと見られる甕・壷・鉢等が出土し、その遺存状況も良好なものが多い。土壙は上面の平面形はすべて不定形を呈し、弥生土器片を検出した。溝は幅０．５ｍ～５ｍ、深さ０．３ｍ～０．６ｍを測るものを検出したが、調査区外にも及んでいるため全長は不明。埋土からは弥生土器片を多量に検出した。掘立柱建物はほぼ調査区全域に及んでいた。弥生時代後期を中心に造営されたものと考える。今回の調査で掘立柱建物は数十棟存在するものと考えるが、柱穴どうしの切り合いが激しく、柱穴の連続性が確実なものは数棟を数えるにすぎない。今後遺構配置図や柱穴個別実測図を検討し、建物の棟数を確定していきたい。また、これらの柱穴のほとんどは抗の底に樹皮又は葦状植物を一定方向に敷きつめ、その上に刳り込みを入れた横木を置き柱を立てている。市域南部の軟弱地盤対策であろう。

古墳時代の遺構には土壙・掘立柱建物等がある。土壙で代表的なものとしてはＳＫ３３８がある。これは調査区南半で検出したもので須恵器杯・高杯を一括して検出し、須恵器編年の好資料となる。掘立柱建物は５棟検出した。いずれも２間×２間の総柱のものでＳＢ３５９から３６２掘立柱建物は北東から南西方向に一列に並び、倉庫群を連想させるものである。

今回の調査区点は牟田寄遺跡の北東部にあたり、この遺跡の集落が北方の千住遺跡にまで続いていることがわかった。佐賀平野南部の集落を考える上で重要な資料となる。

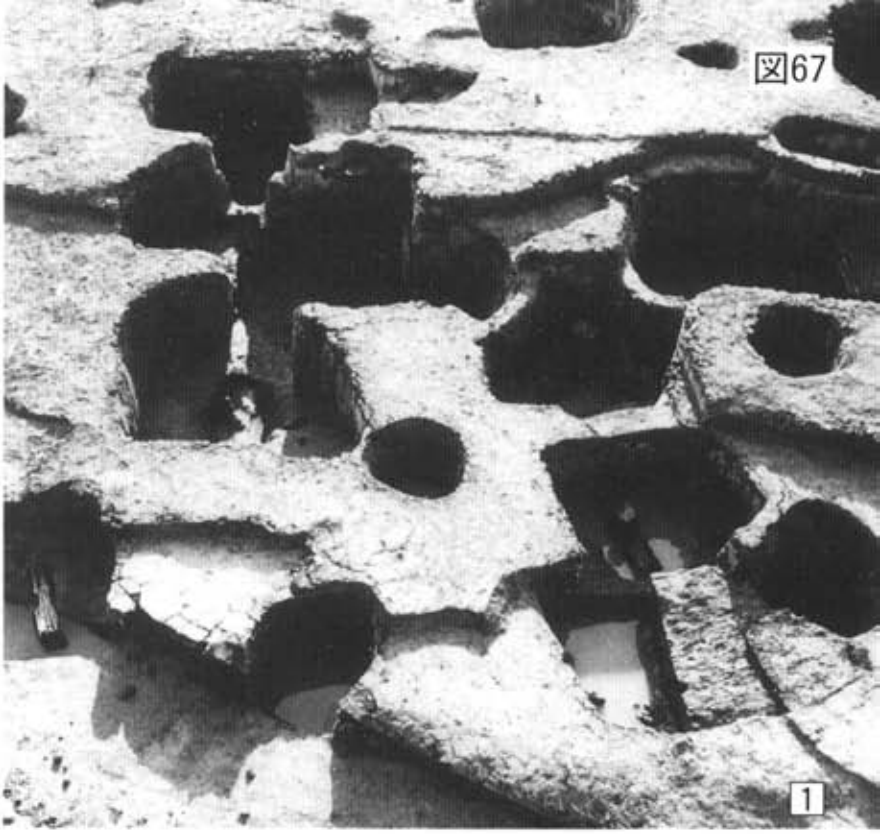
図67

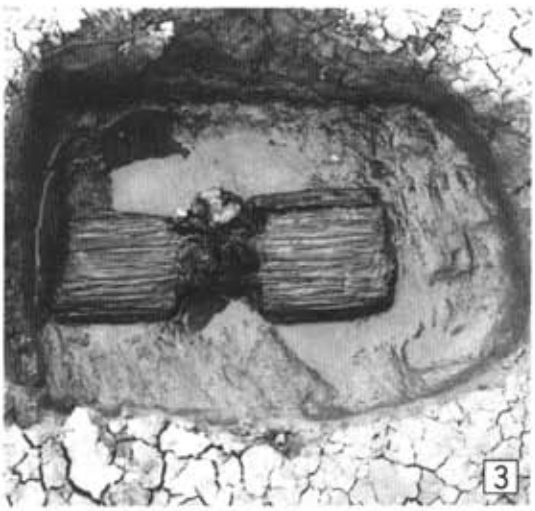
1 柱穴群

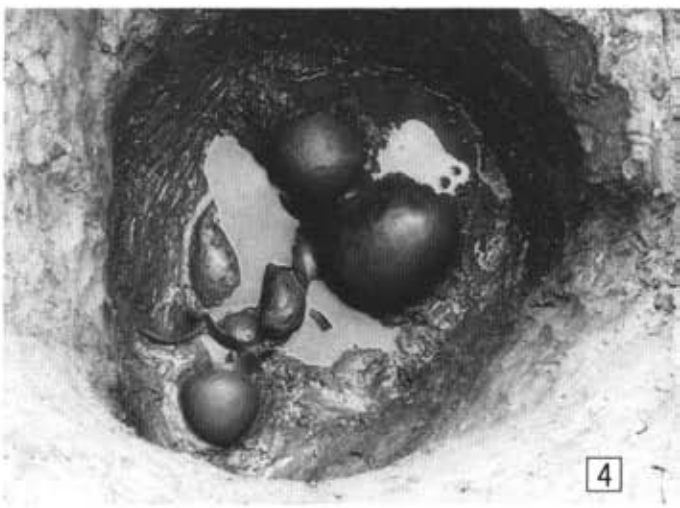
2 柱穴

3 柱穴

4 遺物出土状況







20. 観音遺跡（略号：ＫＡＮ－１）

遺跡の所在地

佐賀市北川副町大字弘法字屋敷田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成３年１１月～１２月

調査面積

４８０㎡

遺跡の概要

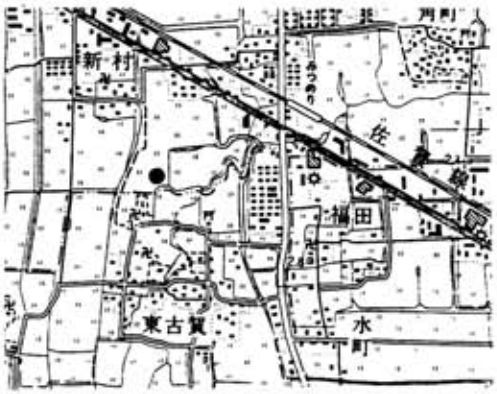


図68　観音遺跡周辺地形図（1／25,000）

観音遺跡は周知の埋蔵文化財包蔵地外の地区で新たに発見された遺跡で、佐賀市の南東部、平均標高約２ｍ程を測る低平な平野部に位置する。

調査の結果、中世から近世に属する遺構・遺物を検出した。

中世の遺構は井戸・土壙・溝がある。井戸はすべて素掘のもので、掘り込み上面１．２～１．５ｍ、深さ１．４～１．５ｍを測り、土師器・瓦器片を検出した。土壙は平面プランがほぼ円形及び不定形を呈し、土師器（皿）等を検出した。溝は南北に延びる屋敷地を区画すると思われる幅３ｍ、深さ０．５ｍのものと、幅０．５ｍ、深さ０．６ｍを測るものを検出したが、ほとんどが調査区外に延びるためその全容は不明である。検出した遺物には、土師器（杯・皿）・瓦器（椀）・南宋の龍泉窯産である磁器（碗）等がある。

今回の調査で観音遺跡は鎌倉時代から江戸時代に営まれた集落跡であることがわかったが、調査範囲が狭いため一部を確認したにすぎない。しかし今回検出した井戸や屋敷地を区画すると思われる溝は、地元に伝承される「屋敷の内」という地名呼称に何らかの歴史性が存在することを証明したものである。同じように、北川副町の梅屋敷遺跡、鍋島町の大西屋敷遺跡、兵庫町のウー屋敷遺跡でも、屋敷に関する地元呼称が残っている地点で中世の集落遺跡が新発見されている。地元に残る地名呼称の歴史性を考える上で、非常に興味深い。

図69

1観音遺跡調査区全景

2SE005井戸

3SK007土壙

21. 高木川内遺跡（略号：ＴＫＧ）

遺跡の所在地

多久市北多久町大字小侍字高木川内

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成３年９月～１１月

調査面積

７５０㎡

調査の概要

図70　高木川内遺跡周辺地形図（1／25,000）

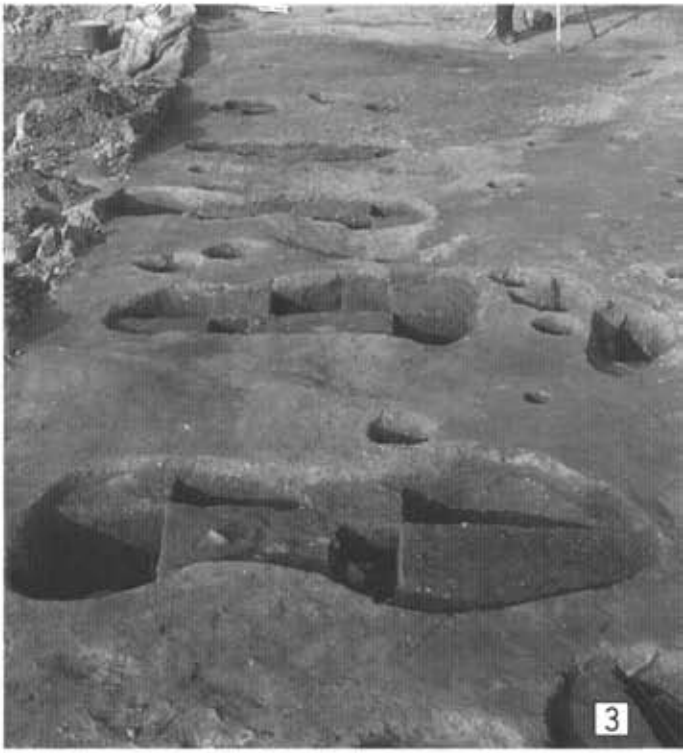
多久市北東部で、八幡岳（標高７６３ｍ）、船山（標高６８４ｍ）から東に派生した丘陵に南北を挟まれた狭小な谷あいに位置する。現況は、標高４０ｍの水田である。遺跡の周辺には、いままで遺跡の分布が希薄な地区であり、この遺跡も平成２年度の確認調査で発見された。しかし、この周辺に遺跡が所存しないことを物語るものではなく。今まで近代の炭鉱等の開発により遺跡が発見されにくかったことに起因するものであろう。

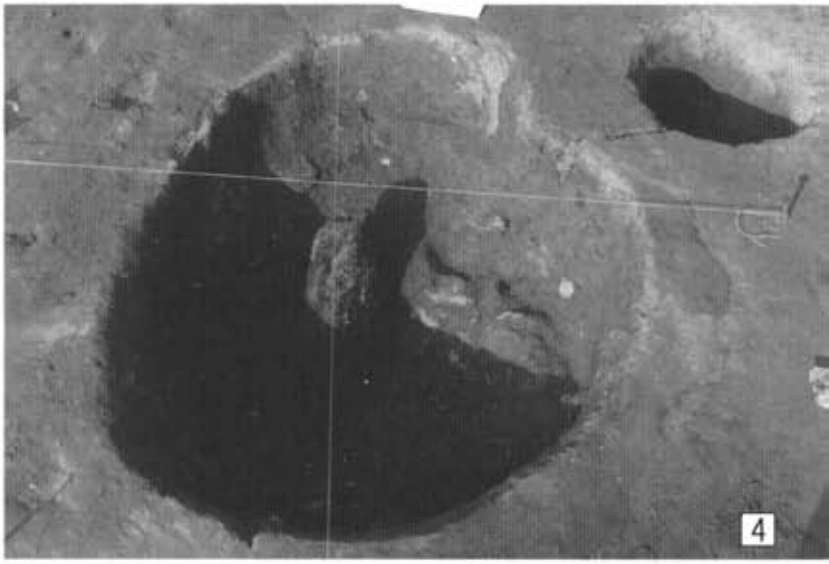
調査は、遺跡が分布する約１０,０００ｍに対して、水路部分と削平を受ける部分について実施したので、調査区はＴ字形となつた。

高木川内遺跡は、中世の掘立柱建物跡６棟、土壙１５基、その他多数のピットを検出した。この遺跡では、ほとんどの建物跡、および、いくつかのピットで柱痕が検出された。柱痕は、灰色砂質土の中に黒色の柱痕跡であった。また、３号建物跡では、ピットに柱材の木片を検出したが、しかし、形状は既に腐食が進み不明瞭である。材質についても不明である。ただ硬質の木材であり雑木であろう。柱は総じて径１５～１０㎝のものであった。一方、この遺跡では建物に関する規制（規則）を感じさせる建物が検出され、６号建物跡は、同規模の建物がほとんど同じ位置に立替えが実施されていた。

また、ＳＫ２０６号土壙は、平面規模２０６㎝×１２１㎝の細長く、深さ４２㎝の中に炭や焼土が充満していた。壙内の層序は、下層に炭や炭混じりの土壙で、上層に焼土が全面張られたような状態であり、壙内で火を燃やしたことは確かであるが、燃焼する土壙の上から粘土を投げ込んでいることは、何を意味するのか不明である。

以上のような特筆すべき遺構が検出されたが、それらについての歴史的裏付けや用途不明な点が多い。今後、調査により類例が検出され、資料が累積により検討を要するものであろう。





1 高木川内遺跡全景

2 SK206土壙（南から）

3 6号掘立柱建物跡（南から）

4 3号掘立柱建物跡柱穴（南から）

22. 上早一本松遺跡（略号：ＫＩＭ）

遺跡の所在地

佐賀郡川副町大字早津江

調査主体者

川副町教育委員会

調査期間

平成３年１２月

調査面積

５００㎡

図72　上早一本松遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

上早一本松遺跡は筑後川の支流、早津江川右岸に位置し、標高２ｍの水田部及び畑地に立地する。本遺跡周辺部は微高地となっている。今回の調査は水路工事による掘削部２箇所計５００㎡についてＡ、Ｂ地区に分けて行った。

Ａ地区

Ａ地区では溝跡２条、土壙３基、井戸跡１基を検出した。これらの遺構の埋土すべてにはカキを中心とした貝殻が含まれていた。

ＳＤ００１溝跡は調査区南から西にかけて大きく湾曲している。また、北側において北方向に枝分かれする。最大幅は２．５ｍ、深さ０．５５ｍ。この溝跡には貝層が含まれており２～３度にわたって廃棄されたものと考えられる。また、各貝層には埋土が殆ど含まれず、短期間に形成されたと考えられる。

ＳＤ００２溝跡は調査区南から北に延びる。最大幅２．４ｍ、深さ０．８５ｍ。土壙は３基検出しており、ＳＫ００４土壙、ＳＫ００４土壙、ＳＫ００５土壙には貝殻を廃棄している。

ＳＥ００６井戸跡は調査区南西隅で４分の１程度検出している。深さ１．３ｍ。この井戸跡にも人為的に形成されたと考えられる貝層が含まれている。また、最深部以下には自然堆積と

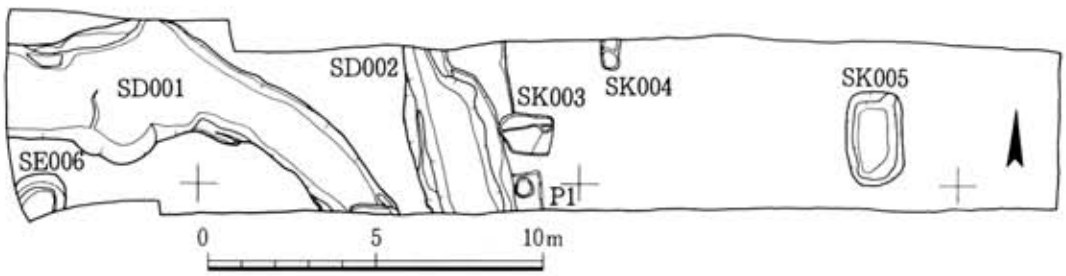


図73　上早一本松遺跡Ａ地区　遺構配置図

考えられる貝層を検出した。

主な出土遺物としてはＳＤ００１溝跡、ＳＤ００２溝跡を中心として土師器杯、小皿、青磁碗、常滑の大甕、瀬戸の梅瓶等が見られ、１５～１６世紀と考えられる。

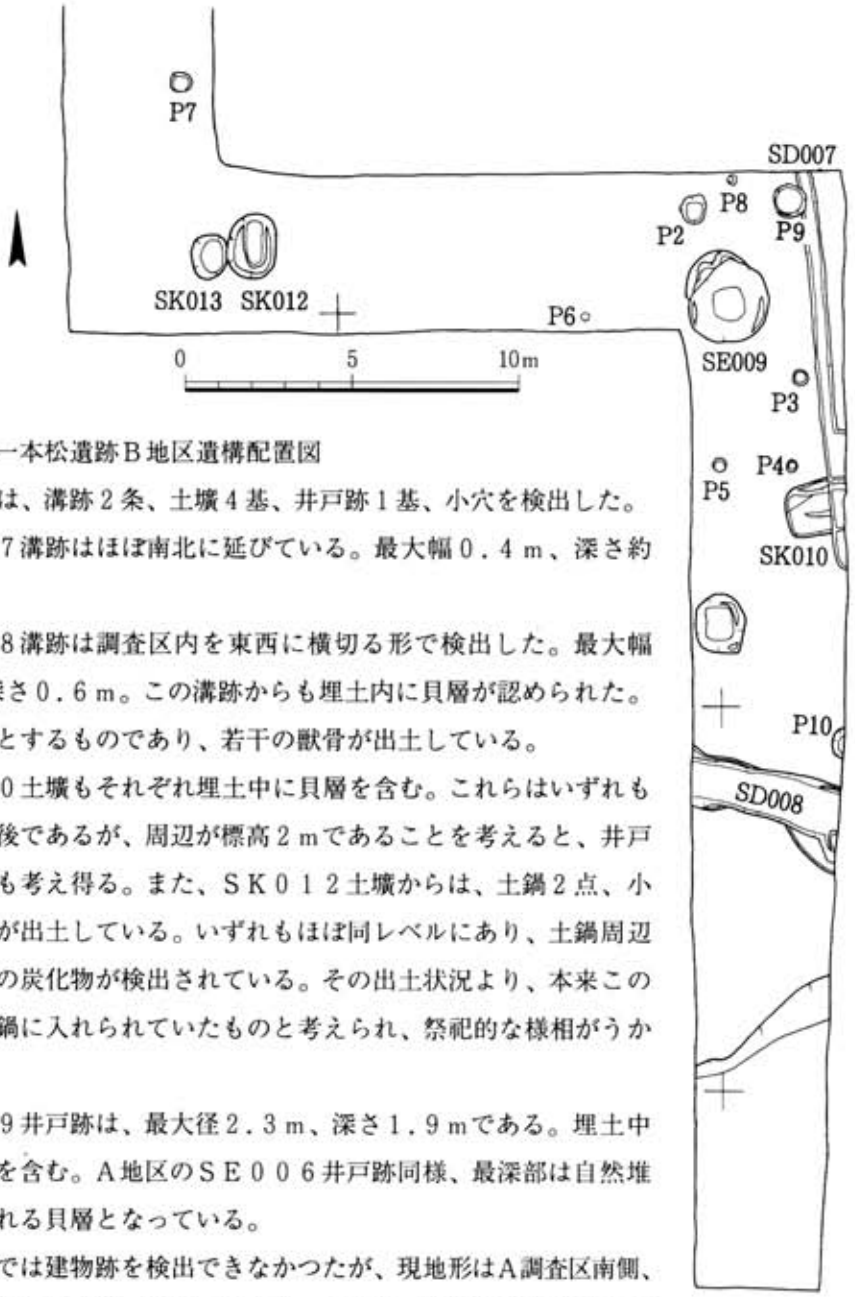


図74　上早一本松遺跡Ｂ地区遺構配置図

Ｂ地区では、溝跡２条、土壙４基、井戸跡１基、小穴を検出した。

ＳＤ００７溝跡はほぼ南北に延びている。最大幅０．４ｍ、深さ約０．２ｍ。

ＳＤ００８溝跡は調査区内を東西に横切る形で検出した。最大幅１．３ｍ、深さ０．６ｍ。この溝跡からも埋土内に貝層が認められた。カキを中心とするものであり、若干の獣骨が出土している。

ＳＫ０１０土壙もそれぞれ埋土中に貝層を含む。これらはいずれも深さ１ｍ前後であるが、周辺が標高２ｍであることを考えると、井戸跡の可能性も考え得る。また、ＳＫ０１２土壙からは、土鍋２点、小皿６点以上が出土している。いずれもほぼ同レベルにあり、土鍋周辺には籾殻状の炭化物が検出されている。その出土状況より、本来この炭化物は土鍋に入れられていたものと考えられ、祭祀的な様相がうかがえる。

ＳＥ００９井戸跡は、最大径２．３ｍ、深さ１．９ｍである。埋土中に若干の貝を含む。Ａ地区のＳＥ００６井戸跡同様、最深部は自然堆積と考えられる貝層となっている。

本調査区では建物跡を検出できなかつたが、現地形はＡ調査区南側、Ｂ調査区の東側に向かって微高地になっており、集落中心部はこの微高地上に存在すると考えられる。

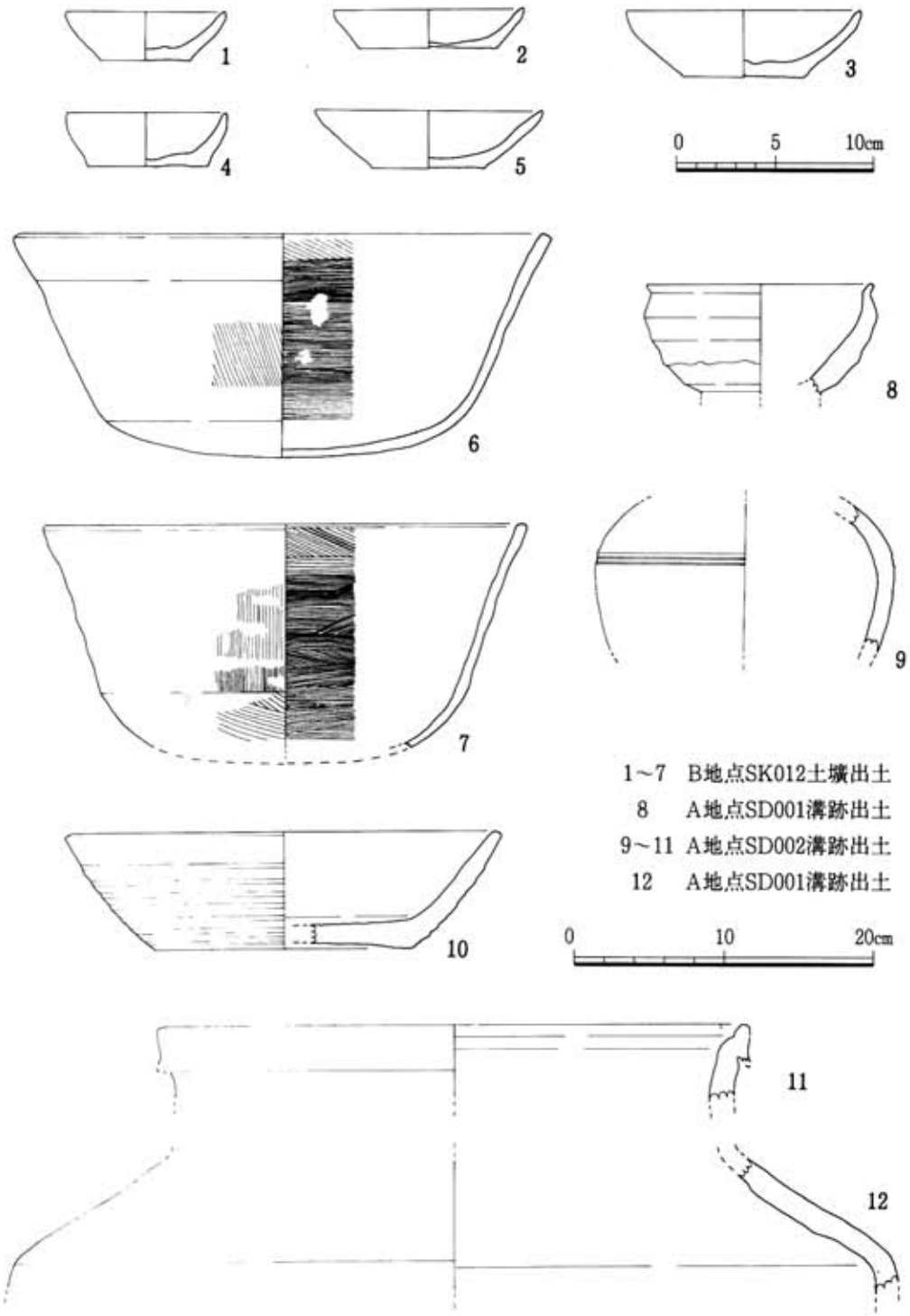
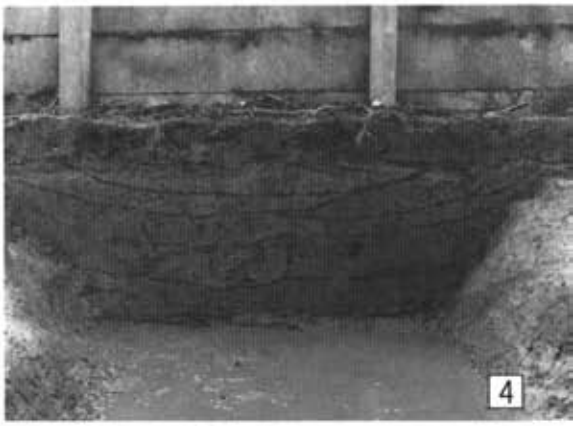


図75 上早一本松遺跡出土遺物実測図

1

2

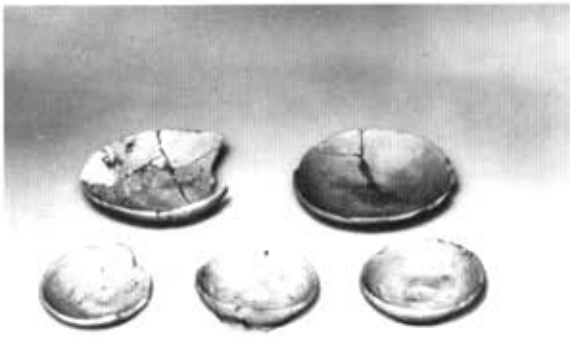
3


4

5

6

7


8

1 A地区全景　2 A地区全景　5 B地点SE009井戸跡　6 SK012土壙（東から）
3 SD001溝跡（西から）　4 SD002溝跡（北から）　7 SK012土壙出土の土器　8 出土陶磁器

23. 遠ノ江一本松籠遺跡（略号：ＴＩＭ）

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字遠ノ江字一本松籠

調査主体者

白石町教育委員会

調査期間

平成３年１１月

調査面積

３３０㎡

遺跡の概要

図77　遠ノ江一本松籠遺跡周辺地形図（1/25,000）

遠ノ江一本松籠遺跡は、白石町大字遠ノ江字一本松籠に位置する。白石町の中心部から約１．５㎞南側、標高約１．３ｍを測る水田地帯に広がる。

この地域がいつ陸地化されたかは不明であるが、天仁３（１１００）年の「大政官符案」には、現在の白石町和泉地区に存在した太宰府観世音寺の荘園「中津荘」の四至として、「東限海、南限七条日自里北畦、西限馬田東畦、北限大江（六角川）」と記されており、平安時代末期までは陸地化されていなかったことが分かる。江戸時代初期には、佐賀藩初代藩主鍋島勝茂が現在の佐賀県立農業高等学校敷地内に「屋形」を造営させ、遺跡の周辺で盛んに鷹狩を催しているので、少なくとも戦国時代にはある程度の陸地化が進行していたものと推定される。

東西方向の小水路部分を調査したが、面積が狭く土壙３４基、溝１本、土壙墓２基、木棺墓１基が検出されたが、遺物の出土した土壙はわずかであり、その遺物も近世陶磁器、瓦質土器、土師器等少量である。

土壙墓２基はいずれも隅丸長方形の墓壙底部に幅約２㎝の角材で長方形の枠を組み、その上に直接遺体を屈葬して安置し、更に遺体の上に径約２㎝の丸材を墓壙に平行する形で敷き並べ、埋土を被せている。遺体はいずれも男性と推定され、ＳＰ０１の埋土から土師器小片・瓦質鍋と思われる小片が出土したにすぎない。土壙墓２基は同様な埋葬形態を示し、また近接していることから、ほぼ同時期に埋葬されたと考えられる。

木棺墓は上部が大幅に削平を受けており、楕円形の墓壙底部に丸桶を設置し、男性と推定される遺体が北枕の坐葬に安置されていた。副葬品としては桶底部から数球と思われる青いガラス玉１個が割れた状態で検出された。棺外の副葬品としては、墓壙北側に土師器坏３枚と小皿６枚が検出された。

調査面積が狭く、遺跡全体を充分に把握できたとは言い難いが、遺構から推定すると遺跡は集落の周辺部にあたり墓地として使用された可能性が高い。特殊な土壙墓が検出され、中世末から近世における葬送を考察するうえで貴重な資料を得ることができた。

1 調査地区全景（東から）
2 SP01土壙墓　（南から）
3 SP01人骨出土状況（南から）
4 SP01　墓壙底部（南から）
5 SP02　（南から）
6 SP02人骨出土状況（南から）
7 SP02　墓壙底部（南から）

24. 妻山遺跡（略号：ＴＭＹ）

遺跡の所在地

杵島郡白石町大字馬洗字馬洗

調査主体者

白石町教育委員会

調査期間

平成３年９月～１０月

調査面積

１，２６５㎡

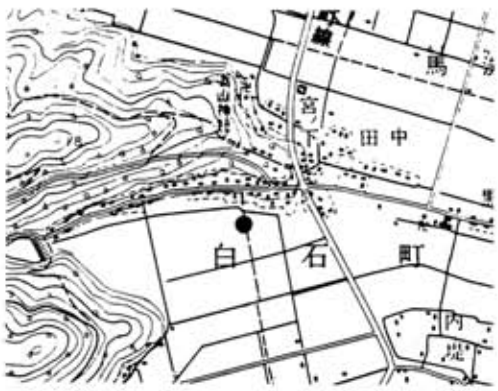


図79　妻山遺跡周辺地形図（1／25,000）

遺跡の概要

妻山遺跡は白石町大字馬洗字馬洗に位置する。白石平野西端をほぼ南北に延びる杵島山丘陵から東に派生する妻山丘陵東端の南山麓部分、標高約３．８ｍを測る水田地帯に所在する。

検出された遺構は土壙は土壙３４基と、調査地区北側を東流する小水路の旧河道である。土壙は大半が浅く遺物もほとんど出土しない。遺物の出土した土壙も近世以降のものである。

遺構ではないが、調査地区東側で旧河道によって削平された弥生時代の包含層が確認され、弥生土器片が出土している。また前年度の確認調査の際にも石包丁片が出土している。

検出された遺構は近世遺構のものが大半であるが、旧河道の埋土から弥生土器・土師器・須恵器等が出土し、また弥生時代の包含層が確認されたことから、調査地区周辺から古代の集落が存在した可能性が考えられる。

妻山遺跡北東約４００地点で調査された馬洗上黒木遺跡からも、弥生時代中期を中心とする土器・土弾、古墳時代の土師器・須恵器等が出土し、また妻山丘陵東端に遺物の散布が見られることから、弥生時代中期を中心とする船野遺跡や弥生時代後期の湯崎東遺跡の他に、同時期の集落が妻山丘陵東端付近に存在することが推定されるのである。

1 妻山遺跡全景（空中写真）
2 SK029（南から）
3 SK036（西から）
4 SK037（北から）
5 SD001 旧河道(南から)

25. 坊所三本松遺跡（略号：ＢＪＳ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字坊所

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

平成３年９月～１１月

調査面積

８２０㎡

遺跡の概要

図81　坊所三本松遺跡周辺地形図（1／25,000）

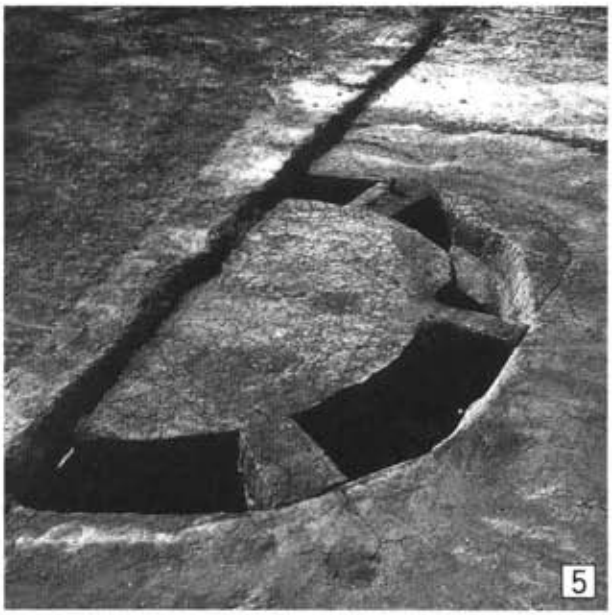
坊所三本松遺跡は切通川西岸約１．５ｍで、脊振山系南麓の鎮西山から南へのびる丘陵、標高約９～１０ｍの南端に位置する。周辺の遺跡として本遺跡の北側には筑紫米多国造の首長墓群と考えられている目達原古墳群や杉寺遺跡が、西方２５０ｍには塔の塚廃寺比定地があり、その他に西峰遺跡、小坊所遺跡が隣接しており、本丘陵は遺跡の密集地帯となっている。

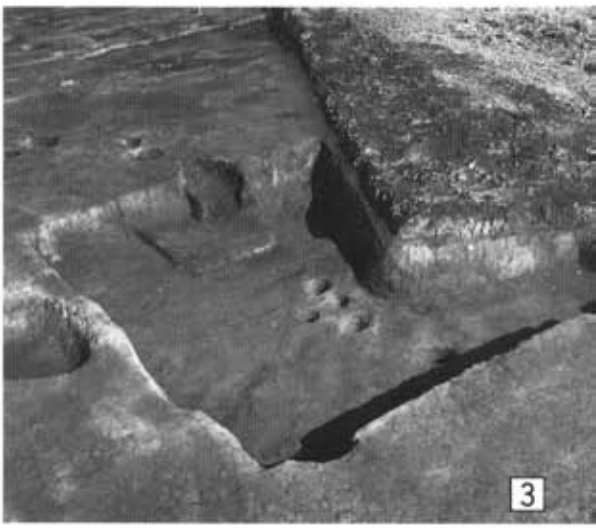
調査地点の現状は畑地であり、調査区の東側ではやや遺構密度は低いものの、ほぼ全域にわたって遺構を検出でき、弥生時代中期および奈良時代の集落跡であることがわかった。

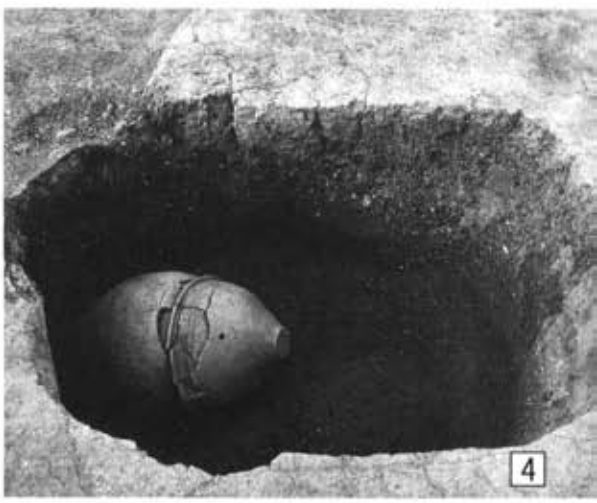
弥生時代の遺構には竪穴住居跡１３軒、円形周溝１基、甕棺墓１基の他、土壙、小穴がある。竪穴住居跡の平面形態は円形、長方形、隅丸長方形とバラエティーに富む。ＳＢ００３、００４は平面円形で直径５～５．５ｍを測る。ＳＢ００３は６本柱で床面中央には両端にピットをもつ径約１ｍの土壙がつくられる。ＳＢ００４はＳＢ００５より切られるが住居跡内小穴より支脚３点がまとまって出土した。ＳＢ００１、００５、０１３は平面方形で径３～４ｍを測る。ＳＢ００７は平面長方形で、長辺５．５ｍ、遺存壁高２５ｍと比較的遺存状況は良い。これらの住居跡では円形住居を除いて柱穴を明確に検出することができなかつた。ＳＸ０１８は円形周溝で周溝外径約４ｍ、溝幅約０．５ｍをはかり溝断面計はＵ字形である。周溝内出土の土器片より中期後半と考えられる。ＳＪ０４１は鉢と甕からなる小児用複式棺でその接合部には部分的に粘土の目張りを施す。甕は口縁部を打ち欠く。

奈良時代の遺構には竪穴住居跡４軒、掘立柱建物跡１棟がある。竪穴住居跡３軒はカマドを付設する。ＳＢ００２、０１４は平面方形でともに北壁にカマドをもち、規模は一辺の長さが３～３．５ｍを測る。ＳＢ０１２、０１６は平面長方形で住居跡としては小形である。ＳＢ００９は掘立柱建物跡で３間×３間、芯心距離は１．１～１．４ｍを測る。

この他、落とし穴と推定される土壙を１０基検出した。平面形態は隅丸長方形で径は１ｍ内外を測り、埋土はすべて茶色である。このうちＳＫ０２３は壙底に小穴をもつ。遺物が出土しておらず時代の特定は困難であるが遺構の切り合い関係や埋土から縄文時代のものと考えられる。







1坊所三本松遺跡全景（東から）
2竪穴住居跡群（南から）
3SH014竪穴住居跡（南から）
4SJ041甕棺墓（南から）
5SX018円形周溝（東から）

Ⅵ 総　括

平成３年度に実施した農業基盤整備事業に係る文化財調査のうち確認調査は、佐賀東部地区で鳥栖市・中原町・三根町・上峰町・神埼町・千代田町の１３地区、佐賀西部地区で佐賀市・川副町・富士町・多久市の字１６地区、佐賀南部地区で武雄市・大町町の２地区、佐賀北部地区で伊万里市・西有田町の３地区、佐賀上場地区で唐津市・鎮西町・玄海町・肥前町の９地区である。

発掘調査は、佐賀東部地区１３遺跡、佐賀西部地区９遺跡、佐賀南部地区２遺跡、及び筑後川下流用水事業地区内１遺跡の合計２５遺跡について実施した。

以下、確認調査については地区ごとに、発掘調査については時代ごとにまとめる。

【文化財確認調査】

佐賀東部地区　鳥栖市鳥栖北部地区・鳥栖西部地区、中原町中原北部地区、上峰町上峰北部地区、神崎町横武地区、千代田町鯰江樋地区で遺構の存在が確認された。

鳥栖北部地区では、弥生～中世の集落跡、鳥栖西部地区では縄文・古墳時代の墳墓、古代～中世の集落跡が確認され、中原北部地区では弥生時代集落跡と古墳群が確認されている。上峰北部地区は、六本谷遺跡・青柳古墳群の範囲に含まれ、縄文～中世の住居跡・土壙などの遺構が検出され、該期の集落跡と考えられる。横武地区は中世館跡である横武城のほぼ中央にあたり、堀立柱建物跡・溝跡・土壙等が検出されている。鯰江樋地区は、柱穴・溝跡が検出され中世の集落跡と考えられる。また、今回の調査で地区内に含まれる柳島遺跡の範囲が確定できた。

佐賀西部地区　佐賀市久保泉東部地区・久保泉西部地区・金立南部地区・金立北部地区・嘉瀬地区・城西第一地区・城西第二地区・兵庫南部地区・江頭地区、川副町川副中部地区、多久市多久原地区で遺跡の存在が確認された。

久保泉東部地区では古代～中世と思われる溝跡・土壙が検出され、久保泉西部地区では古墳～奈良時代の集落跡が確認されている。金立南部地区・金立北部地区では弥生時代～中世の集落跡が確認されている。特に金立南部地区で検出された中世の溝跡は集落の区画溝になる可能性があり注目される。嘉瀬地区・城西第一地区・城西第二地区・兵庫南部地区・江頭地区では弥生時代～近世の溝跡・土壙・遺物包含層を検出しており、集落の存在が予想される。川副中部地区では今回の調査では遺構は検出されなかったが、近接地の調査結果などから中世の集落である餌江遺跡の範囲に含まれるものと考えられる。多久原地区では中世の遺物包含層が確認されている。

佐賀南部地区　武雄市黒牟田地区・大町町神山地区で遺跡の存在が確認された。

黒牟田地区でが窯跡の物原の一部が検出され１７世紀初頭～前半の陶器片が多数出土した。

神山地区では中世～近世の柱穴・溝跡が検出されており該期の集落跡の存在が予想される。

佐賀北部地区　明確な遺跡は確認されていない。伊万里市中里地区は、地区内に多数の遺物が散布しており、当初遺跡の存在が予想されたが、調査では遺構は検出されず、遺跡は大正年間に行われた耕地整理により削平されたものと考えられる。

佐賀上場地区　鎮西町打上地区・玄海町大鳥地区・肥前町嘉藤地区で遺跡の存在が確認された。

打上地区では土壙１基が検出された。この土壙は熱を受け赤褐色に硬化変質していたが、土器の小片しか出土していないため時期は不明である。大鳥地区・嘉藤地区では旧石器～縄文時代の土壙および遺物包含層が確認され、ナイフ形石器・彫器・土器片などが出土している。

【発掘調査】

旧石器時代・縄文時代

旧石器時代の遺跡の調査は塚原遺跡で遺物包含層・遺物集中地点が検出され、ナイフ形石器剥片が出土している。ナイフ形石器には国府型ナイフが含まれており注目される。

縄文時代の遺跡の調査としては牛原前田遺跡・塚原遺跡で早期の遺物包含層が検出され押型文土器が出土している。拾徳遺跡・八藤遺跡では後期の土壙が検出されている。大野原遺跡・坊所三本松遺跡では落し穴状遺構は検出されている。出土遺物がほとんどなく時代決定が困難だが、県下では数少ない落し穴状遺構の資料として重要である。琵琶原遺跡からは晩期の刻目突帯文土器が出土している。

弥生時代

弥生時代の遺跡の調査は多く、特に神埼町・佐賀市での調査例の増加が著しい。

集落跡としては、牛原前田遺跡・拾徳遺跡・八藤遺跡・塚原遺跡・小林遺跡・祇園原遺跡・馬郡遺跡・篠木野遺跡・琵琶原遺跡・大野原遺跡・千布二本黒木遺跡・牟田寄遺跡・妻山遺跡・坊所三本松遺跡から竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土壙・円形周溝・溝跡などの遺構が検出されている。なかでも拾徳遺跡で確認された張り出し部を有する前期の溝跡は集落を囲む環濠となる可能性が強く注目される。坊所三本松遺跡では、調査例の少ない中期前半の竪穴住居跡が、検出されている。牛原前田遺跡・牟田寄遺跡では後期の竪穴住居跡と掘立柱建物跡が多数調査されており、当時の集落構成を知る上で重要な資料となる。また、琵琶原遺跡の土壙から良好な土器がまとまって出土しており一括資料として重要である。

墓地は、塚原遺跡・篠木野遺跡で甕棺墓・土壙墓群が検出されている。このうち、塚原遺跡では墓地のほぼ全域を調査しており、墓域の構成や変遷を知る上で多くの成果が得られた。この墓地は集落の北側にあり、中期を主体とする甕棺墓４５基・土壙墓５基・祭祀遺構３基で構成され東西に長い列埋葬であることが判明している。土壙墓から磨製石鏃がまとまって出土しており注目される。

古墳時代

集落跡は、上石動遺跡・祇園原遺跡・篠木野遺跡・大野原遺跡・牟田寄遺跡から竪穴住居跡・井戸跡・掘立柱建物跡・溝跡・土壙が調査されている。このうち大野原遺跡から検出された外側に周溝を巡らした4世紀の竪穴住居跡および土壙は製鉄関連遺構（鍛冶炉）と考えられ注目される。祇園原遺跡では弥生終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居群がまとまって検出されており当時の集落の光世・変遷を知る上で重要である。牟田寄遺跡では、北東から南北方向に一列に並ぶ掘立柱建物跡が検出されており、倉庫群と考えられている。また、土壙から杯・高杯など須恵器の一括資料が出土しており編年の好資料となる。

古墳は、高柳大塚古墳・山田遺跡・牛原前田遺跡・上石動遺跡から前方後円墳・円墳が調査されている。高柳大塚古墳は複室の横穴式石室を主体部にもつ全長約２８ｍの前方後円で、6世紀後半に築造され7世紀にかけて埋葬が行われたと考えられている。県内で最終段階に築造された前方後円墳の調査であり重要である。山田遺跡では、平成2年度からの継続した調査で横穴式石室を主体部にもつ２０基の古墳が確認されている。このうち、1基の古墳は、全長6ｍ以上の大型石室を有し馬具が副葬されており注目される。

古代（奈良・平安時代）

拾徳遺跡・八藤遺跡・塚原遺跡・小林遺跡・祇園原遺跡・宿野遺跡・大野原遺跡・坊所三本松遺跡から竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路跡・井戸跡・土壙・土壙墓・火葬墓が調査されている。拾徳遺跡では、溝跡から須恵器の土馬が出土しており、水に関する祭祀が考えれら注目される。八藤遺跡では、なら時代の道路跡の両側に２０棟以上の掘立柱建物跡が検出されており、堤土塁と関連する官衛施設の存在も考えられる。塚原遺跡は南端を東西に官道が走っており、これに関連すると思われる道路跡・掘立柱建物跡・井戸跡・土壙が検出されている。主要な建物跡が南側の官道に近い部分に分布することや、区画施設・出入口施設と考えられる、道路跡に直行する小穴群や溝跡の存在など、重要な成果が上がっている。塚原遺跡に近接する小林遺跡からは、平安時代（９世紀末～１０世紀）の土壙や溝跡より長沙窯系の水注片や越州窯系青磁碗が出土しており注目される。大野原遺跡で検出された溝跡は、官道の推定線上にあり側溝である可能性が強い。坊所三本松遺跡では、奈良時代の集落が調査され、龍をもつ竪穴住居跡・掘立柱建物跡が検出されている。宿野遺跡では、平安時代前期の墓地が調査され土壙墓より土師器の一括資料が出土している。

中世（鎌倉・室町時代）

集落跡の調査が多く、牛原前田遺跡・土井外遺跡・上石動遺跡・千布二本黒木遺跡・高木川内遺跡から、掘立柱建物跡・柱穴・溝跡・井戸跡・土壙などが検出されている。小林遺跡・祇園原遺跡・宿野遺跡・篠木野遺跡・観音遺跡・上早一本松遺跡からは、集落を巡る溝跡や集落

を区画すると思われる溝跡・柵列および井戸跡・用水路・溜め桝など集落に関係する遺構が検出されている。

１２～１３世紀の集落である土井外遺跡では、瓦器椀・土師器・輸入陶磁器と共に東播系須恵器鉢が出土しており注目される。また、井戸跡より出土した和鏡は井戸の掘替や廃絶に伴う水の信仰（祭祀）考える上で貴重な資料となる。１３～１４世紀を中心とする荘園村落と考えられる千布二本黒木遺跡では建物跡が狭い範囲から集中して検出されており、屋敷地を区画する溝跡も検出されている。

墓地では、遠ノ江一本松遺跡から中世末から近世にかけての土壙墓・木棺墓が調査されている。土壙墓は角材で長方形の枠を組み、その上に遺体を安置し、さらに遺体の上に丸材を敷き並べるという特殊なものであり、当該期の葬送を考える上で重要な資料となる。

近世（安土・桃山時代～江戸時代）

近世の遺跡の調査例は少なく、また調査地区が限られていたため、遺跡の性格が不明なものが多い。轡田遺跡・篠木野遺跡・琵琶原遺跡・観音遺跡から掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・土壙が調査されている。このうち轡田遺跡では１７世紀後半～１８世紀の掘立柱建物が、観音遺跡では屋敷を区画する溝跡が検出されている。

佐賀県文化財調査報告書第117集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書11

発行　平成5年3月31日
佐賀県教育委員会
佐賀市城内1-1-59

印刷　松浦印刷株式会社
鹿島市大字納富分2907-1
TEL09546-3-2200